

# 北海道地域主要水系調査書

(渚滑川・湧別川)

昭和 58 年 3 月

国土庁土地局  
国土調査課

## 序 文

水は重要な国土資源のひとつであり、従来から、国民生活に欠かせないものとして、その利用及び保全が図られてきた。

近年、都市人口の増加、生活水準の向上、産業の発展、農業の新たな展開等に伴う水需要の増加は著しいものがあり、このため供給水源として主要な地位を占める河川水及び地下水について、その総合的な開発・保全及び利用の合理化を推進することが強く要望されている。

このような目的を達成するためには、科学的な水文資料を整備することが必要であるが、これらの資料は各機関において、それぞれの必要に応じて作成されているものの、系統的に整備されておらず、必ずしも有効に利活用されているとはいえない状況にある。

本調査は、国土調査法に基づく水調査の一環として、各地域における流域の概況、治水及び利水施設の状況、水質等に係る各種資料を統一的な基準に基づき収集・整理し、「主要水系調査書」及び「縮尺5万分の1利水現況図」としてとりまとめたものである。本調査成果が広く利用され、水資源の開発・保全及び利用の高度化に大いに貢献することを期待するものである。

終りに本調査の実施に当たって御協力を頂いた関係機関各位に対し、深く感謝の意を表する次第である。

昭和58年3月

国土庁土地局長

小笠原 正 男

# 調 査 書 の 概 要

## (1) 概 要

水は社会生活に不可欠であり、この円滑な供給のために水利用の実態を把握することは重要である。水利用の実態は社会構造の変化に応じて変る。一方、日本の河川流域では相当量の降水があるが、人口一人当りに換算すると、むしろ世界の他の地域の数分の一以下と少ない。一般に日本の河川の河況係数は大きく、治水面からも利水面からも対応の難しい水系が多く見られる。

水利用の実態を明らかにするためには多様な水文・利水資料を継続して収集整理することが必要である。

ところが水に関する資料は多くの機関で個別に収集されていて、これらを一元収集整理したものは殆ど無く、基礎資料の整備が充分とは言えず今後の整備を要するところである。

本調査は主要水系調査の一環として、既存の水文資料を整理し、前述の利水・治水に関する基礎資料としてまとめたものであり、昭和56年度に資料収集が為され、57年度に編集されたものである。

## (2) 調査の分担

イ. 次の機関が調査の実施をした。

国土庁国土調査課	調査の全般、編集、印刷
建設省国土地理院	利水現況図原稿図及び主要水系調査書の編集
北海道開発局	水系概要の執筆
北海道庁	資料台帳及び利水現況図資料図の作成

ロ. 調査の実施に当って下記の機関の御協力を頂いた。記して感謝の意を表するものである。

林野庁北海道営林局経営部  
通商産業省札幌通産局公益事業部  
気象庁札幌管区气象台  
北海道開発局網走開発建設部  
北海道電力株式会社

### (3) 調査の内容

- イ. 本調査書と利水現況図を合わせて一組の資料として使えるように、各資料項目と地図記載事項とを番号により対照できるようにしてある。
- ロ. 資料には降水、水位、流量、潮位、水質、地下水位と地盤高、地下水などの水循環の経路及び利水用の各種系統としての取水口、排水口、主要井戸、上水道及び簡易水道、工業用水使用状況、ダム、水力発電、溜池などの諸表と降水量年表、流況表、水質分析表、取水・排水資料表などの統計資料等をも収録した。
- ハ. 調査内容は昭和57年3月迄の資料を含んでいる。

# 総 目 次

収録資料の概要	1
渚滑川流域の概要	9
湧別川流域の概要	55
北海道資料	95
付 録	
主要水系調査作業規程	165
主要水系調査の利水現況図資料図作成要領	185

## 収録資料の概要目次

(1) 収録資料	1
(2) 利水現況図の概要	3
(3) 利水現況図索引	8

# 収録資料の概要

## (1) 収録資料

本調査書に収録した諸資料は、主としてつぎの諸調査項目について収集、編集したものである。

### I) 降水量資料

降水量観測所について、北海道開発局、札幌管区气象台、北海道電力株式会社等の資料に基づき降水量観測所総括表、一覧表に整理し取りまとめた。

なお、上記降水量観測所のうち原則として、恒常的な長期観測資料があるものについて、降水量観測所月別降水量表に整理し取りまとめた。

### II) 水位・流量・潮位資料

水位、流量、潮位観測所について、北海道開発局、北海道庁、北海道電力株式会社の資料をもとに水位・流量、潮位観測所総括表、一覧表に整理し取りまとめた。

なお、上記水位流量観測所のうち原則として10年以上の長期観測資料があるものについて、水位・流量観測所年別流況表に整理し取りまとめた。

### III) 水質資料

水質調査地点について、北海道庁の資料をもとに、水質調査地点統括表、一覧表に整理し取りまとめた。

なお、上記水質調査地点のうち原則として1年以上の長期観測資料のうち代表的なものについて、水質分析資料に整理し取りまとめた。

### IV) 地下水位資料

地下水位観測井戸について、北海道庁の資料をもとに、一覧表に整理し取りまとめた。

### V) 取水口・排水口資料

農業用取水口及び排水口について調査対象を、かんがい面積10haおよび常時取・排水量が0.5 m<sup>3</sup>/sec（自然取水、ポンプを含む）以上のものとして、北海道庁より提出された取水口、排水口の資料をもとにかんがい面積規模別、取水方法別、排水方法別などの総括表、農業用取水口一覧表、農業用排水口一覧表に整理し取りまとめた。

工業用取水口及び排水口については、北海道庁より提出された取水口、排水口の資料をもとに、取水方法別及び排水方法別総括表、工業用取水口一覧表、工業用排水口一覧表に整理し取りまとめた。

#### VI) 主要井戸資料

主要井戸については、各施設ごと揚水量100 m<sup>3</sup>/日以上井戸を調査対象に、北海道庁より提出された井戸の資料をもとに農業用井戸、工業用井戸、上水道井戸その他の用途別に分類整理し、主要井戸総括表、主要井戸(用途別)一覧表に整理し取りまとめた。

#### VII) 上水道及び簡易水道など資料

水道法にもとづく各種の水道については、北海道より提出された資料を上水道、簡易水道、専用水道の各事業別に分類整理し、水道用水総括表、上水道および簡易水道など地区一覧表に整理し取りまとめた。

#### VIII) 工業用水使用状況資料

工業用水の使用状況は、北海道よりの資料をもとに、工業用水使用状況調査一覧表に整理し取りまとめた。

#### IX) ダム資料

ダムについては、堰堤部の高さ15m以上のものを北海道開発局及び北海道電力などの資料をもとにダム総括表、ダム一覧表に整理し取りまとめた。

#### X) 水力発電所資料

水力発電所については、札幌通産局公益事業部発電課より提出された資料をもとに水力発電所総括表、水力発電所一覧表に整理し取りまとめた。

#### XI) 溜池資料

溜池については、有効貯水量10,000 m<sup>3</sup>以上のものを調査対象に、北海道の資料をもとに整理し、溜池総括表、溜池一覧表に整理し取りまとめた。特に有効貯水量100,000 m<sup>3</sup>以上のものについては利水現況図にも対象番号を付し、位置を明示した。

#### XII) 下水道資料

下水道については、北海道よりの資料を整理し取りまとめた。

#### XIII) 取水量・排水量半旬資料

取水量、排水量資料は、北海道開発局及び北海道よりの資料をもとに農業用、水道用、工業用の用途別に分類整理し取りまとめた。

#### XIV) 営農用水

受益戸数30戸又は100人以上の規模のものを採用

## (2) 利水現況図の概要

### 1. 利水現況図

この地図は国土庁が関係道県に委託または国の地方出先機関等に協力を依頼して収集した資料図をもとに、空中写真を併用して、国土地理院で編集図化したものである。水利用の現況を総合的に表示することを目的としており、河川、湖沼、流域界、農業、工業、水道、発電用などの取水、排水施設や受益地区の分布、あわせて水利用と関係の深い各種観測施設および治山治水関係の施設や区域、土地利用なども図示している。

この主要水系利水現況図は5万分1四六版（国土地理院5万分1地形図4枚分）3面から成る。

### 2. 利水現況図の表示事項

この図に表示されている事項は次のとおりである。

- (1) 河川、湖沼
- (2) 用水路および水管
- (3) 取水、排水施設  
ダム、取水、樋門、樋管、ポンプ場、集水埋渠
- (4) 井戸  
深井戸、浅井戸
- (5) 利水関連施設  
水路橋、サイフォン、トンネル、浄水場、配水池、下水処理場、水力発電所
- (6) 受益地区等  
用水路・水管受益地区、地下水規制区域、営農用水
- (7) 治山治水関連施設および区域等  
砂防ダム、床固、水門、砂防指定地、保安林、地送り防止指定地、地送り地、崩壊地、感潮区域
- (8) 土地利用  
水田、畑地かんがい区域、水面利用区域
- (9) 土地改良区
- (10) 観測施設および観測地点
- (11) 水系流域界



## 02 行政界

このうち、農業用・排水路受益地区（農業用水，農業用排水），土地改良区（用水，排水，用排水）はオーバーレイに墨刷りで示した。その他は本図にまとめ、薄ねずみ色の基図の地形図上に加刷し，9色刷とした。（今回，オーバーレイ使用せず）。

### 3. 各事項別の表示の基準

#### (1) 河川，湖沼

河川法の適用される一級河川と二級河川を区別して表示した。河川の幅が図上0.3mm以上の場合には2条線，0.3mm未満の場合は1条線で表示した。準用河川，普通河川はその他の河川で示した。これらの区分に拘らず，伏流河川は共通の表現とした。

湖沼，貯水池，溜池は空中写真の判読により実形を表示した。

計画中・工事中の埋立地の海岸線，貯水池の計画湛水面は，水涯線を破線で示した。

#### (2) 用水路および水管

1 m<sup>3</sup>/sec 以上を採用し，目的別に色分けで表示した。農業用排水路は，用水と排水の色の交互の破線とした。農業用水，農業排水，工業，上水道，多目的の用水路および水管については幹線を太くかき，一般水路と区別した。農業用・排水路，多目的用水路の幹線の判断は，道での区分をほぼそのまま採用した。

農業用水路，排水路，用排水路については，トンネルを指示し，地下の部分を破線にしたが，水管は地上・地下の区分をしなかった。着工中のものは，共通の記号で目的別に色を変えて表示した。

#### (3) 取水・排水施設

各施設とも目的別に色分けで表示し該当河川の略記号および番号を付記した。ダムは堤高15m以上表示し，有効貯水量が50万m<sup>3</sup>以上のものについては名称および貯水量を付記した。

また，調査書に水位調節ダムとして分類されているものは，多目的に含めて表示した。

取水堰は長さ100m以上は実長で，密接して並列する場合は図上4mmおきに図示した。

集水埋渠は200m以上は実長で示した。

樋門・樋管・ポンプ場，自然取水・排水は，取・排水量により3段階（3 m<sup>3</sup>/sec 以上，3 m<sup>3</sup>/sec ~ 1 m<sup>3</sup>/sec，1 m<sup>3</sup>/sec 未満）に分けて表示し，1 m<sup>3</sup>/sec 以上の施設については，取・排水量を付記した。

取水・排水施設には，水流の方向を示す矢印をつけ，矢印の方向によって取水か排水かを判別できるようにした。

#### (4) 井戸

揚水量 100 m<sup>3</sup>/d 以上を採用し、目的別に色分けし、深井戸と浅井戸を区別して表示した。揚水量により、次の2段階に分けて表示し、番号および揚水量を付記した。深・浅井戸の区別のできぬものについては深井戸として扱った。

2,000 m<sup>3</sup>/d 以上, 2,000 m<sup>3</sup>/d ~ 500 m<sup>3</sup>/d 深井戸, 浅井戸の区分は深度30mを基準とした。

#### (5) 利水関連施設

水路橋, トンネル, サイフォンは, そこを通過する用水路や水管の目的別の色に合わせて表示した。100m以上は実長で表示した。

浄水場, 配水池は目的別に色分けされた用水路の色と同じとし, 用水路とつなぐようにした。

下水処理場は, 流域下水道, 公共下水道の処理場を共に含め, 下水道とつなぐようにした。計画中, 工事中のものを別に表示した。

#### (6) 受益地区等

本図には工業用水, 上水道, 簡易水道, 専用水道, 下水道の受益地区を目的別に色分けで表示し, オーバレイには農業用水, 排水, 用排水の受益地区を表示した。下水道受益地区は, 流域下水, 公共下水の受益地区を示し, 工事中の下水処理や下水道の完成をまって受益地区となる予定地は, 計画中の区域として表示した。受益地区は5ha以上を表示し, 番号を付した。北海道については, 営農用水の受益地区(30戸又は100人以上)を加えた。

#### (7) 治山治村関連施設および区域等(今回は保安林のみ適用)

砂防ダムは, 堤高10m以上の砂防堰堤・治山堰堤をもとに採用した。床面は密接して並列する場合は図上2mmおきに表示した。砂防・治山ダムのうち, 堤高が10m未満のものは床固で表示した。

砂防指定地は, 山腹砂防, 溪間の場合は, 河川の両側1mmに拡大した。

保安林は, 国有林内のものと, 民有林内のものを分けて表示した。官行造林は国有林に含めた。

地回り防止指定地は指定されている範囲をくくり, 地回り地・崩壊地は実際に発生しているところを表示した。

#### (8) 土地利用

水田は1/5万地形図の植生現況および空中写真判読により, 畑地かんがい区域は県の資料によった。

水面利用区域は, 区画漁業権の設定された区域のうち, 施設のあるもののみを表示した。

港湾区域やレクリエーション地としての水面利用は含まれない。

#### (9) 土地改良区(今回適用せず)

各土地改良区の設立の目的により, 用水・排水・両方のものに分け, 区域を表示した。小さな土

地改良区が連合組織として別の土地改良区をつくっているもの、二つ以上の土地改良区が重複するものも、名称と共にすべて表示した。

(10) 観測施設及び観測地点

各種観測施設を自記と普通に分けて表示し番号、名称、所属を付記した。施設はないが、常時観測している地点も同様に表示した。

(11) 水系流域界

水系毎に第1次支川、第2次支川、第3次支川の順に最小面積おおむね15km<sup>2</sup>を目途に流域界を分割し、流域面積の大小により次の3段階に分けて表示した。

600 km<sup>2</sup>以上、600 km<sup>2</sup>～200 km<sup>2</sup>、200 km<sup>2</sup>～15 km<sup>2</sup>

流域界で囲まれた内部に、河川名と流域面積を表示した。

(12) 行政界

行政界と水系流域界、その他の界線が一致する場合は、行政界を基図に合わせ、水系流域界およびその他の界線は微量の白部をあけて僅かに転位して表示した。

#### 4. その他

(1) 目的別色分け

図の理解を容易にするため、水の利用目的や関係別に記号類を次のような色に統一した。

農業用水関係	緑
農業排水関係	青
工業用水関係	赤
水道関係	橙
多目的	紫
治山・治水関係	茶
観測施設、行政界	黒
河川・湖沼	青

農業排水路とその他の河川は、図上の表現は同じである。

(2) 調査書対照番号

次のものには、調査書と対照できる索引番号を付した。

(i) 取水・排水施設

索引番号は記号と同じ色で付した。番号の順は、目的別に一連とし、水系順、本川より支川へ、下流より上流へ打つことを原則とした。

(イ) ダム

目的別の一連番号のほか、ダムの名称と所属の略号を( )内に書き入れた。

(ロ) 自然取水・排水、樋門・樋管、ポンプ場

水系の頭文字をつけ、水系別に一連番号を付した。一級水系の水系記号は次のとおりとした。

二級水系は大文字1字で表わした。

渚 滑 川      S

湧 別 川      Y

ただし、下水道については水系別頭文字をつけず、一連番号の前に下と付した。

(ii) 井戸

索引番号を記号と同じ色で付した。番号の順は、深井戸、浅井戸の区別なく、目的別、市町村別に一連とした。

(iii) 上水道、簡易水道受益地区

地区番号を受益地区の中央に、目的別の色で書いた。上水道は〔 〕、簡易水道および専用水道は( )の中に書いた。番号は、上水道、簡易水道および専用水道に分けた。順序は市町村のコード番号順に従い、県単位に一連番号とした。

(iv) 観測施設

種類別に一連番号とし、所属を示す頭文字を( )内に書いた。所属を示す記号は次のとおりである。

北海道開発局(局)      通 産 省(通)

林 野 庁(林)      日本国有鉄道(国)

気 象 台(気)      北 海 道 電 力(電)

北 海 道 庁(道)

(3) その他の注記

(2)のほか、次のものに注記した。

(i) 県名、都市名、区町村名

(ii) 一級河川、二級河川

(iii) 用排水路幹線名

(iv) 土地改良区名(今回適用せず)

名称および土地改良区の田畑の面積

(v) 発電所名

(vi) 流域面積

(4) 編集に使用した資料

水田、溜池は1/5万地形図、空中写真判読により図化した。その他は主に資料図および資料から編集図化し、特に必要な場合に空中写真を参照した。

図はおおむね昭和57年3月現在の状態を表わしている。

(3) 利水現況図索引

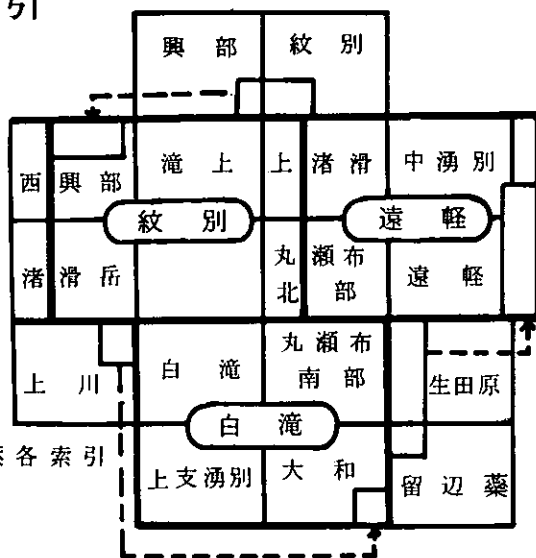
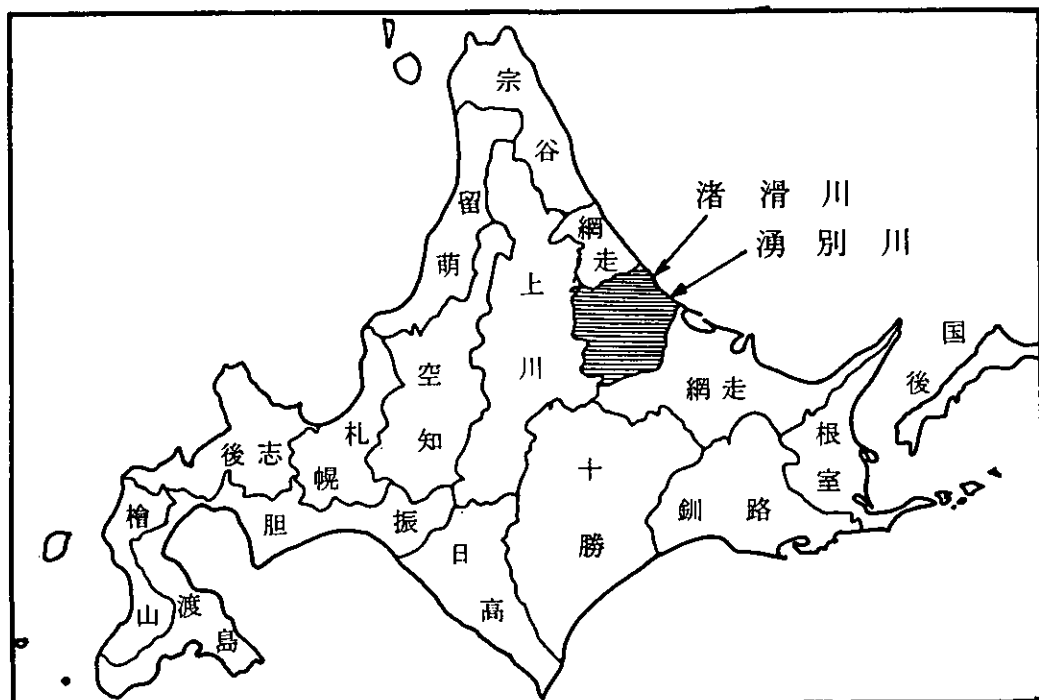


図-1 図彙各索引

図-2 対象地域

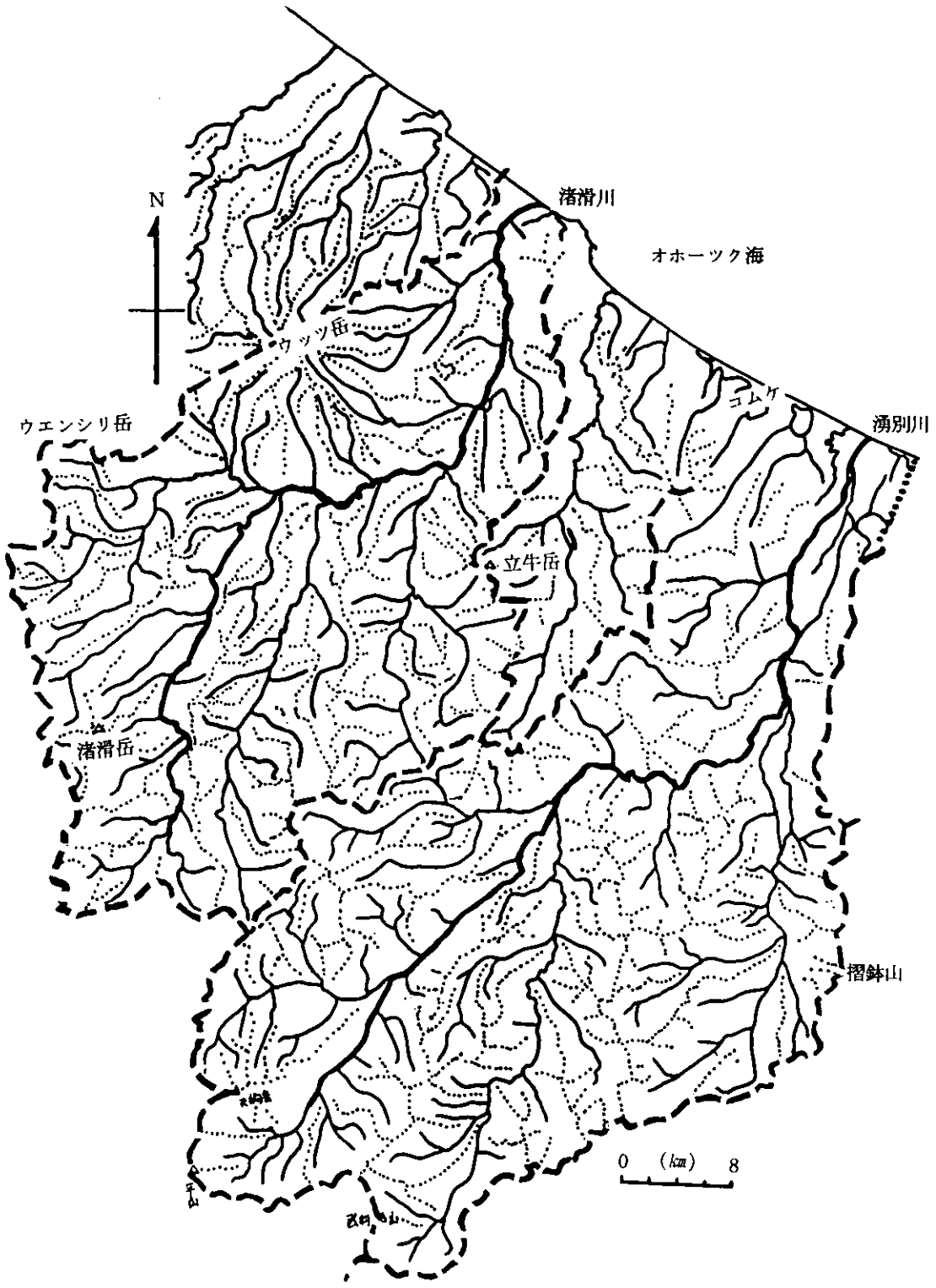


## 渚滑川流域の概要



北海道開発局網走開発建設部治水課

寺田忠雄



図一3 渚滑川・湧別川流域の水系及び尾根線の概略

# 1. 概 要

## (1) 位 置

北海道の中央部石狩岳より北西に向って伸びる北見山脈は南西部が高く、北東に向ってしだいに低くなっている。その中央を、天塩岳に源を発した渚滑川が、サクルー川、オシラネップ川、立牛川の支流を集めて流下し、紋別市渚滑町を経てオホーツク海に注いでいる。

## (2) 紋別郡名称起源

松前藩時代現在の「元紋別」に番屋があり、この川がモ・ベツであったので紋別番屋と呼んで、この海岸一帯を藩が支配していたので、その名が郡名となったものであるが、モ・ベツはアイヌ語で子供の川、または静かな川の意で、これは渚滑川と比較して名づけられたものと思われる（更科源蔵による）。

## (3) 渚滑川名称起源

アイヌ語でソ・コツで滝壺の意味で、本来ならソ・コツ・ウシ・ベツで滝壺の沢山ある川というべきかもしれないが、ソ・コツといたただけで滝壺が多くて、舟でものぼれないし、川の中を歩いても通れないところの意味に通じたのであろう。この川の上流にサク・ルー（夏に通る道）があって、天塩川の本流のシ・ベツ（土別）に通じて、夏に日本海に通ずる道として利用された流れであったわけで、滝があって川としてのみ考えると通りにくいという、多分に警戒的な意味もあったものと考えられる。

## (4) 先史から和人入植まで

北海道は洪積世の末期迄大陸と陸続きであった。最終氷期（ヨーロッパではウルム氷期と呼ばれ、北海道ではこれに対応している氷期をトッタベツ氷期という。約3万年～1万年前）の頃、海面は現在よりも約100m±20m程度低く、それよりも浅かった宗谷海峡などは干上り、大陸と北海道は続いていた。その頃、北海道では平地の大部分がツンドラや亜寒帯針葉樹林に被われていて、山地は殆んど氷雪を冠っていた。気候が徐々に温暖になり、海面が上昇し、北海道は現在の形になった。それから数千年を要して低地は河川の運搬作用により形成され、又泥炭地化し、現在に至っている。

後氷期に入ると、遺跡から当時生活していた人々は採集、狩猟、漁撈による生活を続けていたこと



が多くの出土品で判明している。又、種々の土器、石器が使われていた。和人の直前の先住者であるアイヌは江戸時代末期に和人が入り込む迄、低い人口密度（1～2人/km<sup>2</sup>）のまま居住していた。

北海道でも本州の場合と同じように先史文化は旧石器時代に始まるが、現在まだ先土器時代の人骨は発見されていない。

縄文時代以降の北海道の文化の推移は、本州東北地方と密接につながっていた道南と比べて道東、道北にはこれとは異質の文化が繰返し出現したことが知られている。

本州が弥生時代に入ったあと、寒冷な北海道には稲作は渡来せず金属器だけが導入されて、北海道は縄文時代に入った。この時期、北海道は恵山文化（道南）と前北・後北系文化（道東、道北）とが対峙していた。

続縄文時代末期にオホーツク海沿岸へ、オホーツク文化が入ってきた。しかし、徐々に北海道全域は、擦文式土器で代表される文化に被われ、全道一円アイヌ文化となっていった。

このような文化の変遷を示すが、人類学的には未詳な事が多い。それでも最近多くの事実が明らかにされつつある。

このうち、道東北部で発見されている人骨は縄文時代から擦文時代初期にかけてのものが互によく類似し、しかも近世道東北アイヌの特徴を示す。このことから、縄文時代以降近世に至る迄一貫した集団であったと思われる。しかし、前述の二つの文化圏の担い手がどのように統合されていったかは詳かではない。

近世のアイヌの骨格は道内で三地域類型に分類でき、オホーツク海沿岸のものは樺太アイヌに近い。道南は本州和人に、道東北はいずれともやや離れている。

オホーツク海沿岸地域には続縄文時代から擦文時代にかけて一時発達した文化で歴史時代に入る前に消滅したオホーツク文化がある。特徴としては、網走、宗谷岬などで発見される、出土人骨の特徴から北方モンゴロイド的な特徴を有し、狩猟漁撈採集生活をしてきたことが推測され、周辺地域との結びつきは、樺太アイヌとが最も強く見られる。

渚滑川流域については、重粘土が広く分布し、地味不良の上、夏季低温による冷害、冬期酷寒による、極めて厳しい自然環境下にある。

和人の入植・定住は、はじめ漁業、のちに農業の順であった。文化5年（1808）近江の柏屋善兵衛が紋別場所の請負人となり、明治初年の頃は行政諸般の事務は場所請負人によっていた。農業の入植は明治中期に堀川泰洋が渚滑川流域に入り、やがて原野の開墾が行われるようになり、畑作が中心であった。又、今日では酪農が盛んになっている。

写真は2.5万分の1滝西図幅の滝上町地内のかつて原野で、上記説明のように開拓された第四区付近の景観である。



## 写真説明

日本地名大事典によれば、(たきのうえげんや) 滝上原野は、天塩岳(てしおだけ)に発源する渚滑川(しょこつがわ)が、渚滑岳より流れたバツ沢の水を合流した、海拔300mの河谷と段丘面から滝上原野が始まり、網走(あばしり)支庁紋別(もんべつ)郡滝上町滝上市街まで続いている。この原野は比較的地味はよいが、中心城市から遠く離れたこともあってその開拓が遅れ、明治40年(1907)以降富士・徳島の団体が入植し、本格的に取り組んだ。現在では滝上市街南地区では水稻栽培も成功し、他の地区でも畑作で豊かな豊村が開けている。又、(たきのうえちよう) 滝上町は、網走(あばしり)支庁管内紋別(もんべつ)郡に属し、西に天塩岳(てしおだけ)(1558m)・渚滑岳(しょこつだけ)(1345m)・ウエンシリ岳(1142m)を抱く北見山地の並立で上川(かみかわ)支庁を境し、南はチトカニウシ岳(1345m)・北見富士(きたみふじ)(1807m)、北は薮岳(うつただけ)(813m)で囲まれ、町城の大部分は古生層を主とする1,000m以下の山地で、面積762.33km<sup>2</sup>、人口1.1万余の町。町名は町内を貫流する渚滑川とサクルー川との合流点に市街地が形成され、すぐ下手に3段の滝があって市街の橋上からながめられるところから町名が興った、明治13年(1880)紋別外九村戸長(こちよう)役場の管轄に属し、同33年一村戸長役場の管轄となって、大正7年(1918)、渚滑村(現、紋別(もんべつ)市)から分村、昭和22年町制施行。明治38年(1905)高知県人入地開拓がはじまりで、同41年富士・徳島・高知の諸団体、翌年は岡山・岐阜・八丈島団体、同43年には美作(みまさか)・岐阜・山形団体などの相つぐ入植で現在の基礎ができた。馬鈴薯・ハッカ・テンサイ作が主力。町内には白垂ノ滝・洛陽ノ滝など観光名所がある。

## 2 流域の自然的特徴

### (1) 流域の概要

渚滑川水系はその源を北海道紋別郡滝の上町天塩岳に発し、北流して滝の上町においてサクルー川を合流し、更に流下してオシラネップ川を合せ、流路を東北に向け、上渚滑にて立牛川を合流、再び北に転じて和訓辺川、宇津々川などを併わせ、紋別市渚滑町に於てオホーツク海に注いでいる。

表-1 流域の概要

河川名	流域面積 $\text{km}^2$				流路 延長 km	流域形状 係数
	全面積	山地	平地	水面及び 水路面積		
渚滑川	1,237.2 $\text{km}^2$	1,081.0 $\text{km}^2$	139.5 $\text{km}^2$	3.69 $\text{km}^2$	83.4	0.178
渚滑川	460.2	364.0	96.7	1.71	83.4	0.066
宇津々川	78.8	65.2	4.6	0.15	15.2	0.344
和訓辺川	44.2	38.7	3.2	0.12	17.4	0.146
立牛川	214.4	199.1	9.4	0.57	29.4	0.246
オシラネップ川	234.8	227.9	6.9	0.64	34.1	0.203
サクルー川	204.8	186.1	18.7	0.50	28.3	0.256

流域内には1市、1町（紋別市、滝の上町）がある。紋別市は総面積826.5  $\text{km}^2$ でこのうち山林が631.5  $\text{km}^2$ を占める。滝の上町は総面積762.3  $\text{km}^2$ でこのうち683.6  $\text{km}^2$ を山林が占める。

### (2) 地形

#### 1) 概要

網走地域網走支庁管内は北海道北東部に位置し、オホーツク海側斜面をなしている。したがって、主分水界をなす隣接支庁界より海岸へ向って高度分布が段階的に低下し、基本的には海岸に平行して山地・丘陵地・台地・低地という地形配列がみられる。また、地域的には網走川を境に、東部の火山性地域と西部の非火山性地域とに大別され、東部地域では、火山地・火山性丘陵地・火山性台地・低地の地形分布となる。一方、西部地域は山地の卓越と海岸段丘の発達によって特色づけられる。

山地は北見山地の東斜面に当たり、急峻な大起伏山地および中起伏山地が主分水嶺を形成するほかは、高度300～800mの小起伏山地が山地地域の大半を占めている。火山地は千島火山帯のうち、

知床阿寒火山郡および大雪火山郡のそれぞれ一部を占め、ほとんどが大起伏～中起伏火山地を形成する。山地縁辺の山麓部には周氷河性緩斜面が普遍的に分布し、火山麓地は斜里岳などの火山体の周囲にみられる。

丘陵地は小起伏山地の外縁に形成されているが、そのほとんどが大起伏丘陵地である。地域的には、麁岳の周囲やサロマ湖の南部に顕著な発達を示すほか、藻琴山北麓に火山性丘陵地が広く分布する。

台地および段丘は海岸・湖岸・河岸に沿って、ほぼ全域的に数段に分かれて分布する。地域的には、常呂川以西でも、とくに紋別以北の海岸段丘、内陸地域では北見・白滝両盆地の河岸段丘や、女満別以東の火山灰砂地およびローム台地などがそれぞれ標式的な発達を示す。なお、知床台地のように前面に砂浜を欠く段丘崖は直接海蝕崖となっている。

低地は概して乏しく、湧別川・常呂川・網走川・斜里川など、主要河川の河口附近の海岸地域に限られており、サロマ湖・コムケ湖などの海跡湖周辺では、泥炭を伴う砂泥質の三角洲低地、砂州や砂丘などの小地形、および下流域の扇状地性河谷平野がそれぞれ組み合わせられた形で海岸沖積低地を構成している。

以上のように、網走支庁管内には土地分類での各種地形面が全て分布し、きわめて地形的多様性に富む一方、山地地域を除くと、いずれも各地形面の発達規模が小さい(1/20土地分類図)。

## 2) 地 形 区

20万分の1土地分類図の区分に従い流域毎に示す。

渚滑川流域の地形区は次の通りである。

### A. 山 地

#### II. 中部北見山地

##### A II - 1 滝上山地

中部北見山地の脊梁部をなし、日高層群および分水界附近の一部に噴出した安山岩で構成され、天塩岳(1,557 m)・渚滑岳(1,345 m)・ウェンシリ岳(1,142 m)など、海拔高度1,000～1,500 mの大起伏～中起伏山地を中心に、400～1,000 mの小起伏山地がその外縁に分布する。全体として、急峻な山地地形を示す。

##### A II - 2 麁岳山地

この山地の最高峰・麁岳(818 m)を中心とした高度300～800 mの花崗岩からなる山地で、面積的に狭い。周囲から放射状に開析谷が発達し、外縁に大起伏丘陵地が広く分布する。

##### A II - 3 北見富士山地

渚滑川と湧別川のそれぞれ上部にはさまれた山地で、その中央付近に玄武岩質の北見富士(1,

306 m)がある。山地北半部は細かい山巒の発達した新第三系の高度 300～700 m の小起伏山地、南半部は日高層群と一部平頂峰をなす安山岩とで大起伏～中起伏山地がそれぞれ構成され、とくに、後者には北見富士のほか、チトカニウシ山(1,445 m)・雄柏山(1,267 m)など1,000 m 以上の山岳が連なる。

#### A II - 4 鴻ノ舞山地

上記、北見富士山地の北東に位置し、立牛川と隔てられた高度 350～750 m の小起伏山地である。地形的には、藻鱸川によって東西に細分される。東側の 300～500 m の山地は流紋岩よりなり、老年山地特有の丸味を帯び、丘陵性の山容を呈するのに対して、西側の立牛岳(630 m)を中心とした 400～750 m の山地は、その西側斜面が日高層群で構成されていることもあって、山巒の細かい一般に急峻な形態をなしている。

### B. 丘陵地

#### I. 北西部丘陵群

##### B I - 2 滝下丘陵地

渚滑川をはさんで鶴岳山地の南部外縁と、北見富士山地の北縁とに発達した高度 250～400 m の大起伏丘陵地で、前者は日高層群・後者は新第三系からなる。この両者を分かち渚滑川の河谷は、上渚滑原野と呼ばれる低位段丘群が発達している。

##### B I - 3 紋別丘陵地

一部に玄武岩の紋別山を含むが、鴻ノ舞山地と紋別台地との間に発達した新第三系の大起伏丘陵地で、海拔 150～300 m の高度を示す。

### C. 台地

#### C I - 2 紋別台地

雄武台地の延長で、山地および丘陵地が海岸近くにせまり、海跡湖の発達により段丘面の幅員は制限される。上位面は小向付近に開析の進んだ岩石段丘面が認められるのみである。一方、中位～下位砂礫段丘面はほぼ全域的に分布し、表面にはいわゆる重粘土が厚く発達する。

#### C II - 1 滝上台地

渚滑川の上流から支流のサクルー川との合流付近一帯にかけて盆地状の地形が発達するが、ここには滝上原野・サクルー原野などの地名があり、台地地形が卓越する。全体として5段丘に識別されるが、滝上市街周辺で、上位面(高度 200～250 m)・中位面(同、160～200 m)・下位面(同、130～150 m)の各砂礫段丘にまとめられる。岩石台地は幅員が小さいので、砂礫段丘を含めて図示されている。砂礫段丘中位面は上流側の茂瀬で約 400 m ・下位面は 300 m 前後の高度を有する。(図示：20 万分の 1 土地分類図)。

## D. 低 地

### D I 渚滑川下流低地

この地形区は渚滑川河口付近の三角州性低地と、上渚滑市街より下流の扇状地性低地とに、海岸線に沿う高さ5 m前後の小形砂丘を加えた部分である。

## (3) 地 質

渚滑川流域において見られる地質は多様である。現河床沿いには沖積層の礫・砂・粘土が分布する。海岸の紋別台地には礫がのっている。内陸側の山地、丘陵地には変成岩類、深成岩類、火山岩類の他堆積岩まで多様な地質が分布する。

山地には日高帯を構成する先白亜系日高累層群の固結堆積物である粘板岩が藻興部川から湧別川上流迄、即ち、渚滑川上流域山地の大半はこの粘板岩により構成されている。それを貫いて花崗岩、はんれい岩などの深成岩が見られ、ホルンフェルス化している。

最上流域山地及び湧別川との分水界地域では安山岩質岩石が分布する。これは知床、斜里、阿寒、大雪に広く分布する。また粘板岩の広く分布する中に島状に砂岩・礫岩などが点在分布している。

湧別川との分水界地域には、さらに凝灰岩質の地層で新第三紀の緑色凝灰岩や凝灰岩を主体とする地層が分布している。

基磐岩類をおおって、新第三紀の固結～半固結堆積物および火山性岩石が分布する。おもな分布地域は、地域北部の雄武、興部地域、中央部の滝の上地域、および西部の紋別、鴻の舞、生田原を結ぶ地域である。これらを構成する岩石は、“緑色凝灰岩地域”と呼ばれるように、鴻の舞層群や幌加層などのように凝灰質岩石や火山角礫岩などで構成されているものが多い。またこれに伴われて、流紋岩質岩、安山岩質岩、玄武岩質岩が岩脈または溶岩としてみられる。このように、この地域の第三系には、火山性岩質が圧倒的に多い。しかし、鴻の舞層群下部や社名湖層、ヲウシュベツ層のように、泥岩、砂岩、泥岩互層で構成される半固結～固結堆積物もみられる。白滝、滝の上付近にみられる上支湧別層は砂岩、礫岩の非常に粗粒の堆積物で構成されている。なお、この地域の火山性岩石は、珪化や粘土化などの鉱化を受けている場合が多く、とくに粘土化を受けた場合は非常に軟弱な岩石となっている。

第四系は、火山性岩石と未固結堆積物とがある。火山性岩石は、上川支庁と境する稜線のところどころにみられる安山岩質岩と、軽石流堆積物として一括したが、白滝付近に広くみられ溶結凝灰岩である。未固結堆積物は、地域の主要河川流域の河岸段丘を構成する砂礫層や現河床のはんらん原堆積物である砂礫などである。また紋別から湧別付近海岸の狭長な平野部には泥炭の発達も見られる。

地質構造は全体的にみると、その地質配列はほぼ南北方向を示す。したがって主要な断層も南

北性のものが多い。しかし、白滝村の上支湧別付近には北東－南西方向の上支湧別構造線に伴う断層が走り、全体の地質構成と斜交している。(1/20万土地分類図より要約)

#### (4) 土 壤

##### 1) 山 地

###### 4-1-1 全域の概要

低山および丘陵地帯では、北網地域の多くの地区が火山拋出物に覆われていて、火山性土が分布し、褐色森林土壌と混在している。それ以外の地域では火山拋出物の被覆が薄いかほとんどないかで、褐色森林土壌が分布する。

知床半島や遠紋地域ではポドゾル化土壌が比較的低標高から出現する。森林限界は知床半島や北部では低い、道中央部に接続する地区では高い(およそ1,400 m)。

一般には土壌の通気性がよい。生産力は内陸部では高く、知床半島では低い。

###### 4-1-2 遠紋地域(佐呂間町、生田原町、丸瀬布町およびこれより以西の町村)

紋別市、滝の上町から北見市、置戸町方面にかけてはわが国で最も降水量の少ない地方であり、春～夏期の乾燥程度が最も強い地方の一つである。低山および丘陵地帯には褐色森林土壌が分布するが、紋別市、滝の上町等では乾性褐色森林土壌分布比率がやや大きい。湧別川、上湧別町、遠軽町、生田原町以東では、褐色森林土壌にも火山拋出物の被覆がみられるが、山地斜面では流亡している場合が多い。

滝の上町、紋別市、西興部村等の先白亜紀層山地では急斜地が多く、尾根等には乾性褐色森林土壌が多く分布する。また、山火事跡地等にはとくしゃ地があり、取扱いには注意を要する。遠軽町周辺等には、石英粗面岩の山地が多く、中位の生産力をしめす。また、安山岩地の土壌は、埴質で堅果状構造がみられる。

紋別山等玄武岩山地の一部には暗赤色土壌が分布する。

標高550 mくらいから上部では褐色森林土壌に乾性ポドゾル化土壌が混在するようになる。さらに高標高になると、緩傾斜地には暗色系褐色森林土壌や湿性ポドゾル化土壌が分布する。北見山地背稜部は日高累層群を基盤として、武華山、武利岳、支湧別岳、チトカニウシ山、天塩岳、ウエンシリ岳周辺にはポドゾル化土壌－高山性岩屑土壌が分布する。

##### 2) 台地・低地

###### 4-2-1 全域の概要

本地域の台地、低地の土壌は北海道内でももっとも多種にわたる土壌の分布がみられるのが特徴である。これらは大別して南東部の摩周、屈斜路などの火山噴出物に由来するくろぼく土壌を

主体とする地帯と、北西部の非火山性土壌地帯に大別することができる。

前者は比較的温暖な気候と物理性に恵まれた土壌条件から、豆類、甜菜、馬鈴薯その他の各種畑作物と一部には水稲も栽培されその生産性も高い。後者は漸次北部に向い寒冷な気候と重粘かつ強酸性の不良土壌を主体とする立地条件から、主として草地酪農経営が行なわれその生産性も低い。

#### 4-2-2 遠紋地域（網走支管内北西部）

本地域に分布する土壌は膨軟、軽しょうで排水のよい網走地域のものに対して、重粘、堅密で排水不良のものや、山間の礫質な土壌の多いことが特徴と云える。そのもっとも代表的なものは常呂以北の海岸台地に広く分布する疑似グライ土で（網走管内の台地および低地土壌の13%）、重粘、堅密、排水不良かつ強酸性で地味低く、その改良および利用にも極く難点の多い土壌である。

またこの土壌に隣接し排水は悪くはないが重粘堅密で地味の低い洪積台地上の褐色森林土(Ⅳ)が分布する（6%）。なお低山地には礫質かつ強酸性な褐色森林土(Ⅲ)がみられる。そして両地域を含めて低山地の褐色森林土(Ⅲ)の面積は12%におよんでいる。なお面積は極く狭いが雄武、興部には赤色土、紋別、遠軽には玄武岩に由来する暗赤色土のみられるのが特徴的である。

本地域にも各地の河川地域には沖積低地の土壌が分布し、下流域は細粒質、山間上流域は礫質のもの分布の多いことが特徴である。そして低地内では網走地域のものより一部には強酸性土壌も存在するが、低山地や台地に較べ気候、地味などの立地条件がよいため、甜菜、馬鈴薯などの畑作物の栽培も多い。網走、紋別両地域を併せて排水のよい褐色低地土の面積は23%、排水の悪い灰色低地土は7%におよんでいる。紋別地域内ではこのほか海岸に低位泥炭土、グライ台地土およびグライ土壌などの分布もみられるが面積はいずれも極く狭い。

### 3) この地方に見られる土壌の術語の説明

**土 壤：**土壌は地層のうち地表付近にあって岩石が風化し細かくなったものに有機物が混ってできた層である。

土壌学的には、地表面にある自然物の集りで、植物を支える未固結の鉱物質または有機物質であり、自然的な永年植物の根の範囲か、または根の通過を許さない層が発達している場合には表層2～3mを、又、気候・生物・母材及び起伏の交互作用の結果下方にある物質と異なる場合には両者のうち深い方の下限までを土壌という。

土壌の断面の上から順にA層、B層、C層と呼ぶ。土壌が無機材料から構成されている層をC層、動植物の影響があり、有機物により黒く着色された層をA層といい、この両者の中間をB層という。



**黒ボク土**：腐植に富み孔隙の多い黒色の土壌で地表に最も近く、有機物を含む植物の根のある範囲をいう。ポドゾル性土壌にはよく見られる。ふわっとしていて締っていない。

**褐色森林土**：湿潤冷温帯の落葉広葉樹林ないし落葉広葉常緑針葉混合林に発達する土壌である。最上層であるA層では暗色で有機質がよく分解し、粘土などとよく混っている。A層の下にあるB層では酸化鉄により褐色に着色され塊状構造を示す。渚滑川流域の山地の大部分に見られる。

**ポドゾル**：湿潤寒冷気候下では細菌類の活動が不活発になり、堆積物（有機質）は分解が不完全となり、真菌類などによりクワボ酸、可動性腐酸が生成され、土壌を構成する珪酸塩鉱物が分解され、塩基類が溶脱するとともに、鉄、アルミニウムなどはキレート化合物を形成して溶解し、下層に移動して集積する。その結果、表層には珪酸に富む漂白層が、下方には鉄、アルミニウム、腐植の集積層が形成される。これをポドゾル化作用という。オホーツク海沿岸には、特に山地においてポドゾル化作用を受けた土壌が分布している。褐色森林土の中でもポドゾル化作用を受けているものがある。

**褐色低地土**：沖積平野、河岸段丘などのうち、河床からやや離れ、比較的安定していて、地下水位の低い排水良好地に発達する土壌で、一般に新しく、有機質を含む層の発達が悪い。日本では畑・樹林地・水田によく利用されている。古い水田では灌漑水の影響を大きく受ける。渚滑川流域では谷底に多く分布する。

**グライ土**：地下水位が高く、水につかってしまうため、土壌への酸素供給が制限され、その結果、 $Fe^{3+}$ が還元されて $Fe^{2+}$ となり、土層は青灰～緑灰色の還元層（G層）が形成される。水田などに見られる。この土壌型の総称。

**泥炭土**：沼沢地などの湿地に堆積した植物遺体が分解不完全なまま堆積して形成された土壌の層で黄褐色ないし暗褐色を示す。北海道の泥炭地では、ヨシ、ハンノキ、ワタスゲ、スマガヤ、ホロムイソウ、ヤマドリ、ゼンマイ、ツルコケモモ、ホロムイソゲ、ミズゴケなどが堆積している。大部分は後氷期の産物であり、その堆積速度は年平均0.5～1.5 mmである。低位泥炭地では2～2.5倍の速さで堆積する。一般にツンドラで遅く、熱帯で速く堆積（3mm/年以上）する。

1), 2): 20万分の1土地分類より、抜粋

3) : 地形学辞典, 地学辞典などより抜粋

(参考)

○ グライ土

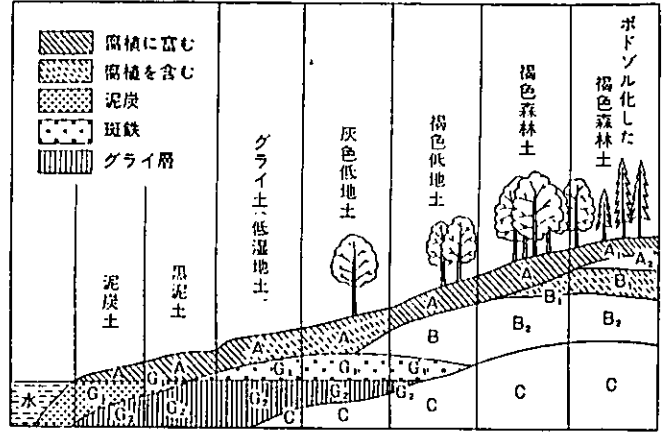


図-参考-1 グライ土の位置  
(棚下 寛, 1936)

棚下の地下水土壌型の図であるが、彼の低湿地土がグライ土にあたる。このように地形によって土壌型が変わっている一連の土壌群をカタナという。

○ 疑似グライ土

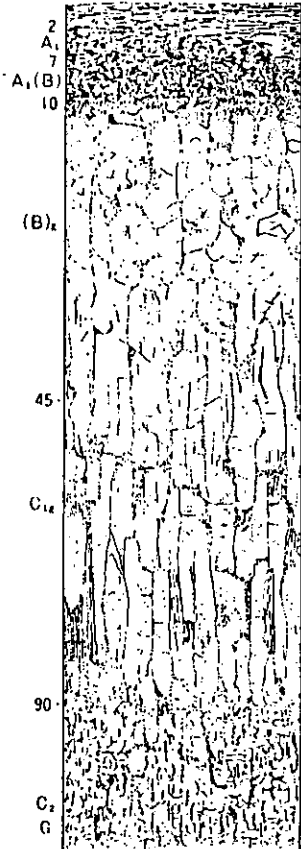


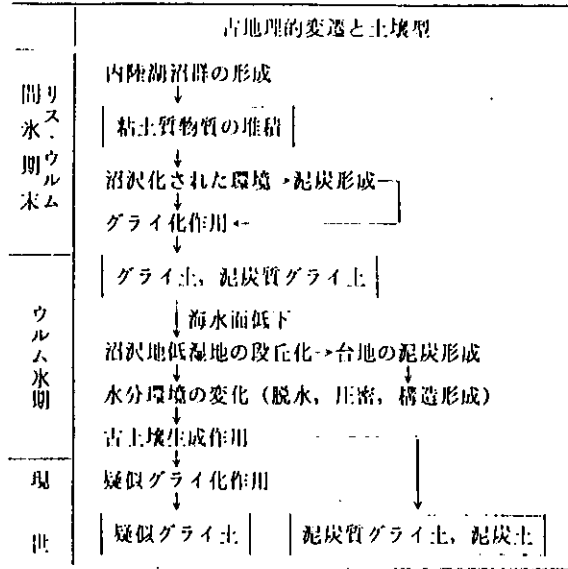
図-参考-2 疑似グライ土の断面 (重粘地グループ, 1967)

地点: 紋別市小向, 草地第5研究室(旧重粘地研究室)東方の海岸付近の台地上  
植生: ハマナス, ササ, エゾキスゲ, ハイネズ  
母岩・母材: 宋崗結凝灰質土 土壌亜型: 疑似グライ土(正常)

〔断面形態〕

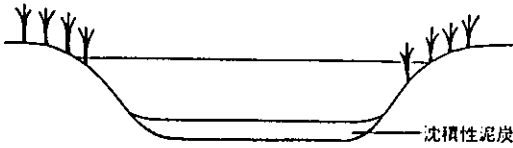
- A<sub>0</sub> 層 : 0~2 cm, 粗腐植層。
- A<sub>1</sub> 層 : 2~7 cm, 腐植にすこぶるとむ埴壤土, 黒褐色 (7.5 YR 5/2), 中程度に発達した単粒状構造, やや粗しょう, 下層との境界は比較的明瞭である。
- A<sub>1</sub>(B) 層: 7~10 cm, 腐植にとむ埴壤土, 暗褐色 (7.5 YR 5/2), 下層へ漸移。
- (B)<sub>g</sub> 層: 10~45 cm, 腐植を含む埴壤土, 褐色 (7.5 YR 5/2), 堅密, 斑紋を含む, 中程度に発達した塊状構造, 下層へ漸移。
- C<sub>g</sub> 層 : 45~90 cm, 埴土, 灰黄褐色 (10 YR 5/2), きわめて堅密, 発達のよい柱状構造。構造面に沿って淡紫色の砂質沈殿物があり, 雲状の斑紋がきわめて発達している, グライ層。
- C<sub>2</sub>G 層 : 90 cm 以下, 埴土, 淡黄灰色 (2.5 YR 5/2), きわめて堅密, 雲状の斑紋がきわめて発達している, グライ層。

表 8.1 段丘堆積物（粘土）を母材とした疑似グライ土の生成過程（東天北の例）（重粘地グループ、1967）

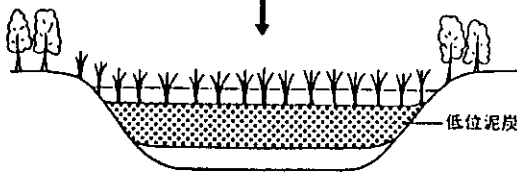


○ 泥炭土の形成発達

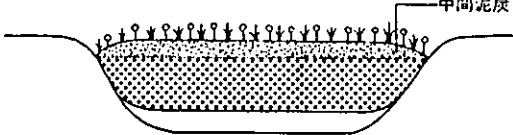
A. 泥炭土の発達初期



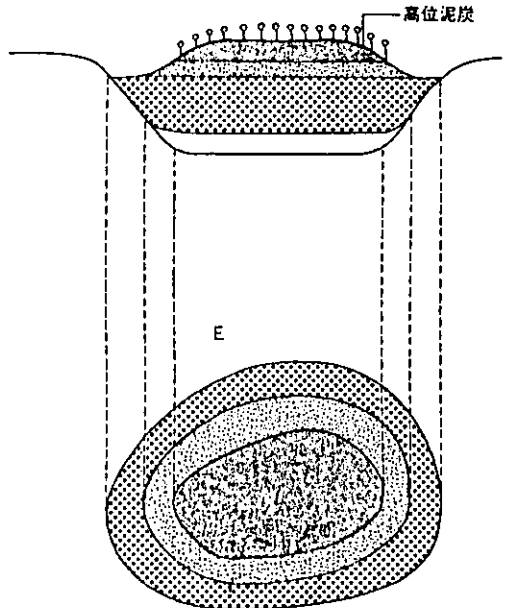
B. 低位泥炭土の発達初期



C. 中間泥炭土の発達初期



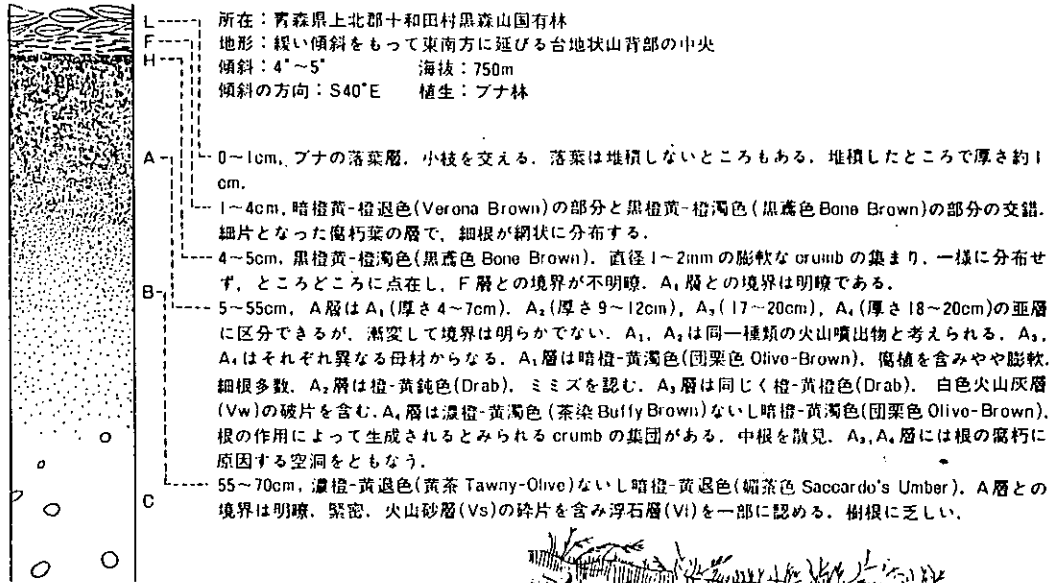
D. 高位泥炭土の発達初期



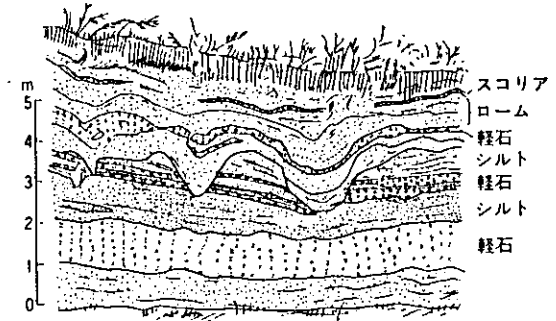
図一参考—3 泥炭土の発達過程（庄子貞雄，1976）

沼が次第に植物体と泥に埋められて低位泥炭、中間泥炭、高位泥炭に移ってゆく。

### ○ 褐色森林土



図一参考一4 褐色森林土上の断面 (大政正隆, 1951)



図一参考一5 北海道豊里土取り場におけるインゾリューションの例(重粘地グループ, 1967)

利尻火山から噴出した軽石層が、凍結と融解のくりかえしにより折れ曲がっている。

### ○ 凍結土

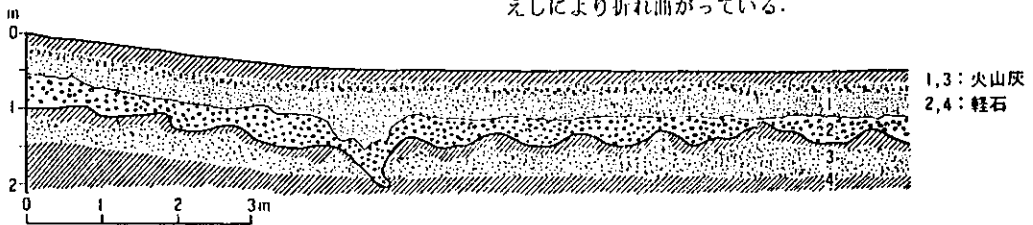
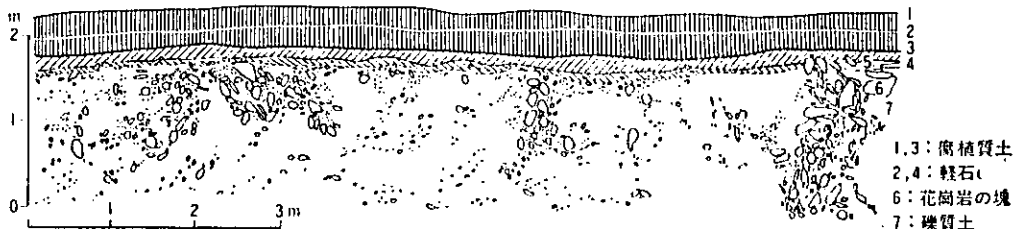
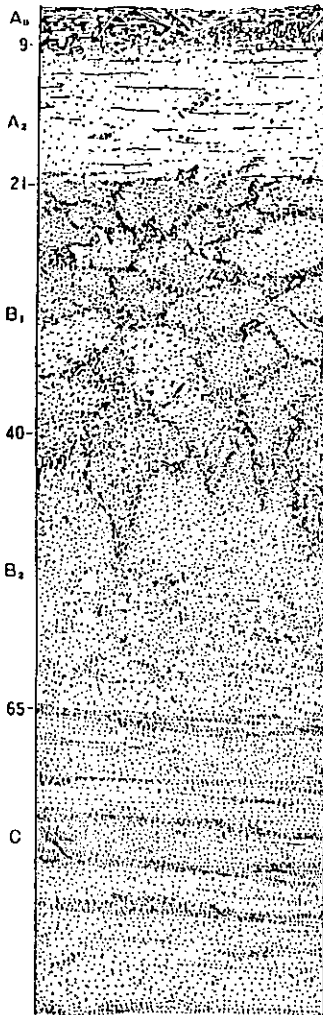


図 12.1 埋没凍結坊主(北海道根釧原野, 開陽西)(小崎 尚ら, 1974a)  
 3 のところの凍結坊主の上に火山灰や軽石がかぶっている。



図一参考一6 埋没凍質構造土(北海道日勝道路)(小崎 尚ら, 1974a)  
 花崗岩の礫(6)の集まった構造土の上に火山灰や軽石がかぶっている。

# ○ ポドゾル



図一参考-7 浜頓別ポドゾル性土壌の断面 (重粘地グループ, 1967)

地 点 浜頓別砂丘 (未墾地)  
 植 生 ツルコケモモ, ワラビ, スギゴケ, クマイザサ, ヒカゲノカズラ, 矮小なトドマツ  
 母 岩 砂丘堆積物  
 土壌亜型 ポドゾル性土 (正常)

断面形態

A<sub>0,1</sub> 層 0~9 cm, 腐植にすこぶるとむ砂土, 灰褐色, きわめて粗しょうな層粒状構造, 下層との境界は明瞭.  
 A<sub>2</sub> 層 9~21 cm, 砂土, 灰色, きわめて粗しょうな単粒状構造, 漂白層, 下層との境界は波状であるが明瞭.  
 B<sub>1</sub> 層 21~40 cm, 砂土, 鉄さび色, 堅密な鉄盤層を含み, 下層へ舌状に入りこんでいる, きわめて堅密.  
 B<sub>2</sub> 層 40~65 cm, 砂土, 黄褐色, 上層に比しやや粗しょう, 下層との境界はやや明瞭.  
 C 層 65 cm 以下, 砂土, 灰褐色, 粗しょうな未風化の海砂.

表一参考-1 図一参考-7の断面の分析値

	A <sub>0,1</sub>	A <sub>2</sub>	B <sub>1</sub>	B <sub>2</sub>	C
pH (H <sub>2</sub> O)	5.0	5.5	5.6	6.1	6.3
腐 植 率 %	14.9	0.9	1.0	0.6	0.3
N 率 %	0.35	0.02	0.02	0.03	0.02
粘 土 率 %	10	5.7	7.0	2.0	2.0
交換性 Ca me/100 g	7.75	1.89	1.59	0.71	0.56
易溶性無機物 %	SiO <sub>2</sub>	0.01	0.01	0.01	0.01
	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	13.90	7.22	6.53	10.31
	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	1.72	1.42	5.11	2.17



図一参考-8 ポドゾル性土の分布域 (大政正隆, 1977)

わが国は世界のポドゾル地帯より南に位しているのて、砂質のところでないとなかなかポドゾルができない。

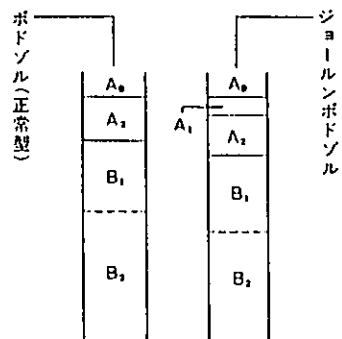


図 1.3 A<sub>1</sub> 層の有無

針葉樹林下のポドゾルでは A<sub>1</sub> 層がないが、草本下のポドゾル (腐植質ポドゾル) では A<sub>1</sub> 層が存在する。

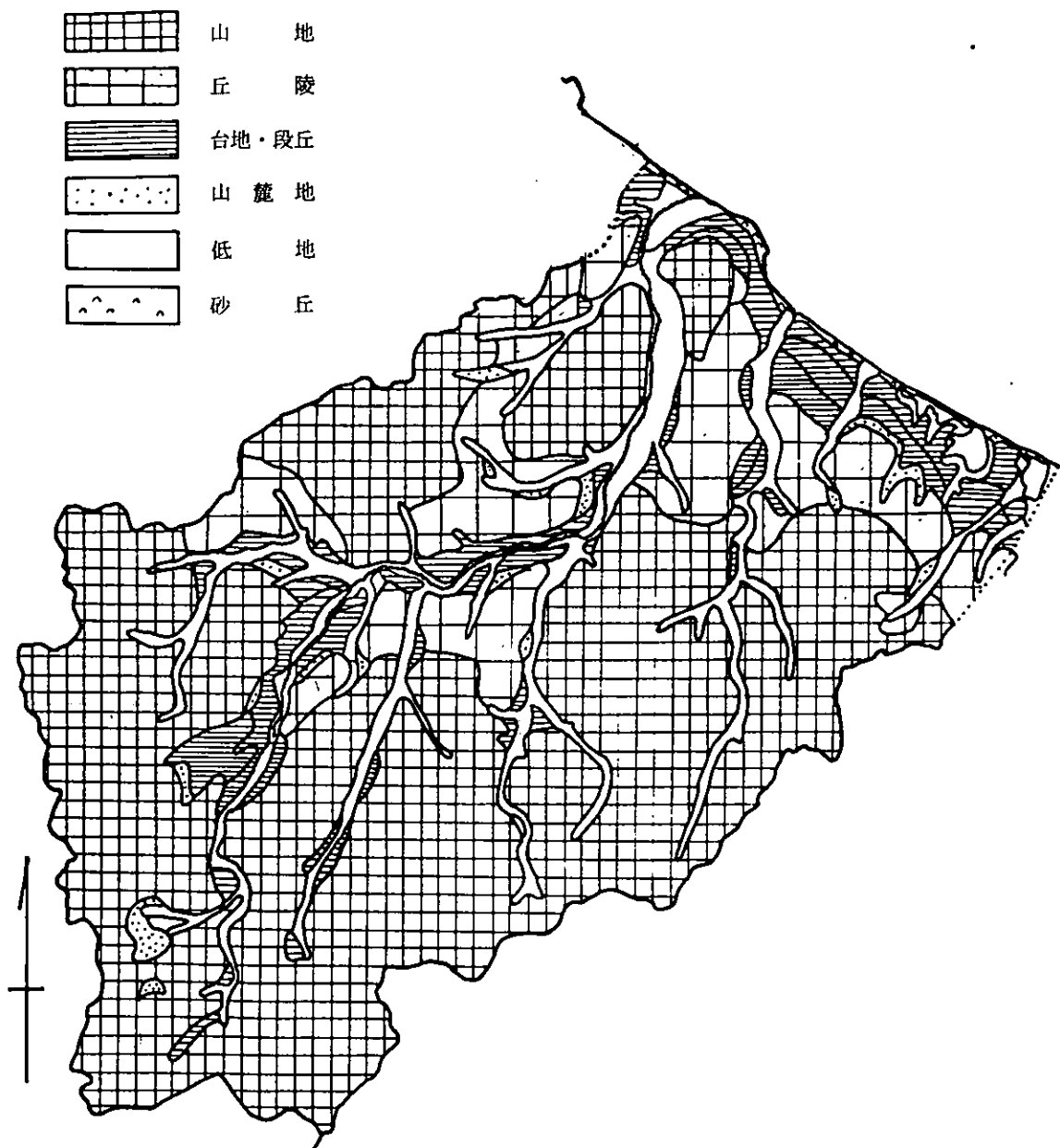


图-4 地形分類略图

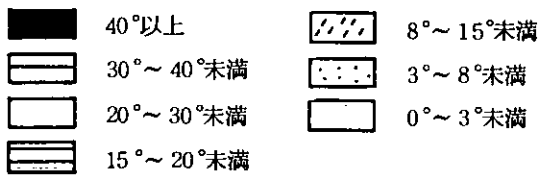
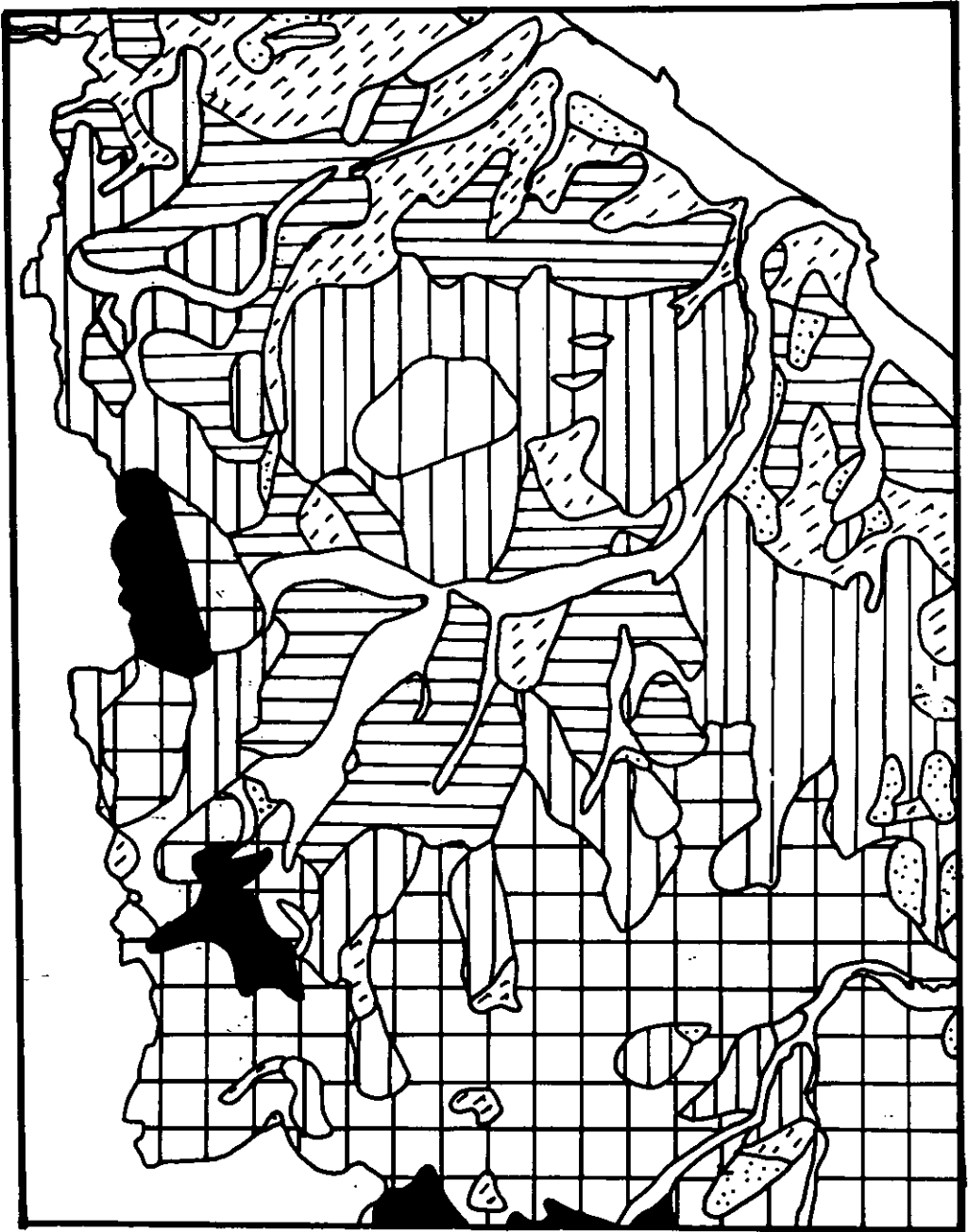


圖 - 5 傾斜分布

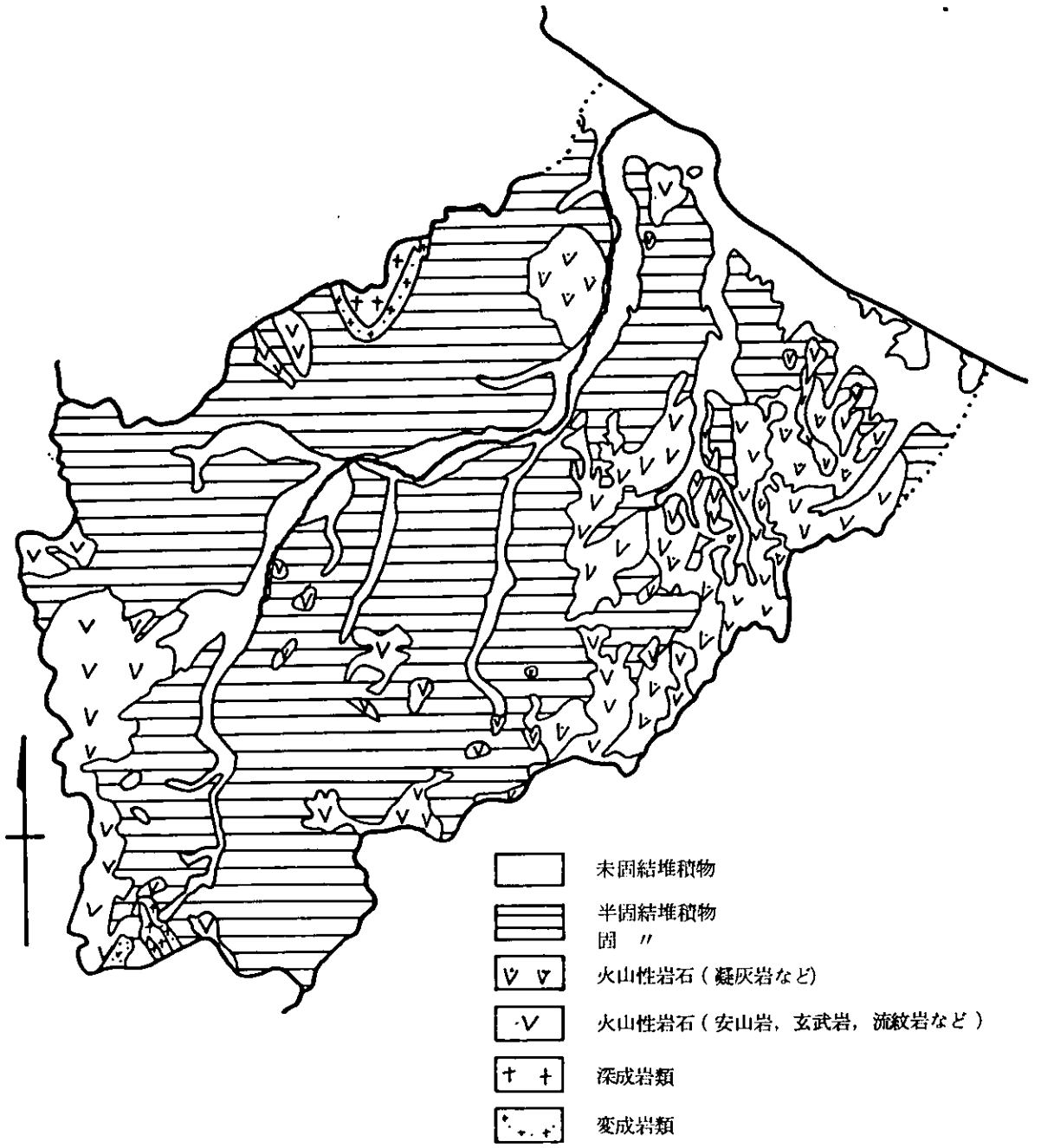


図 - 6 地 質



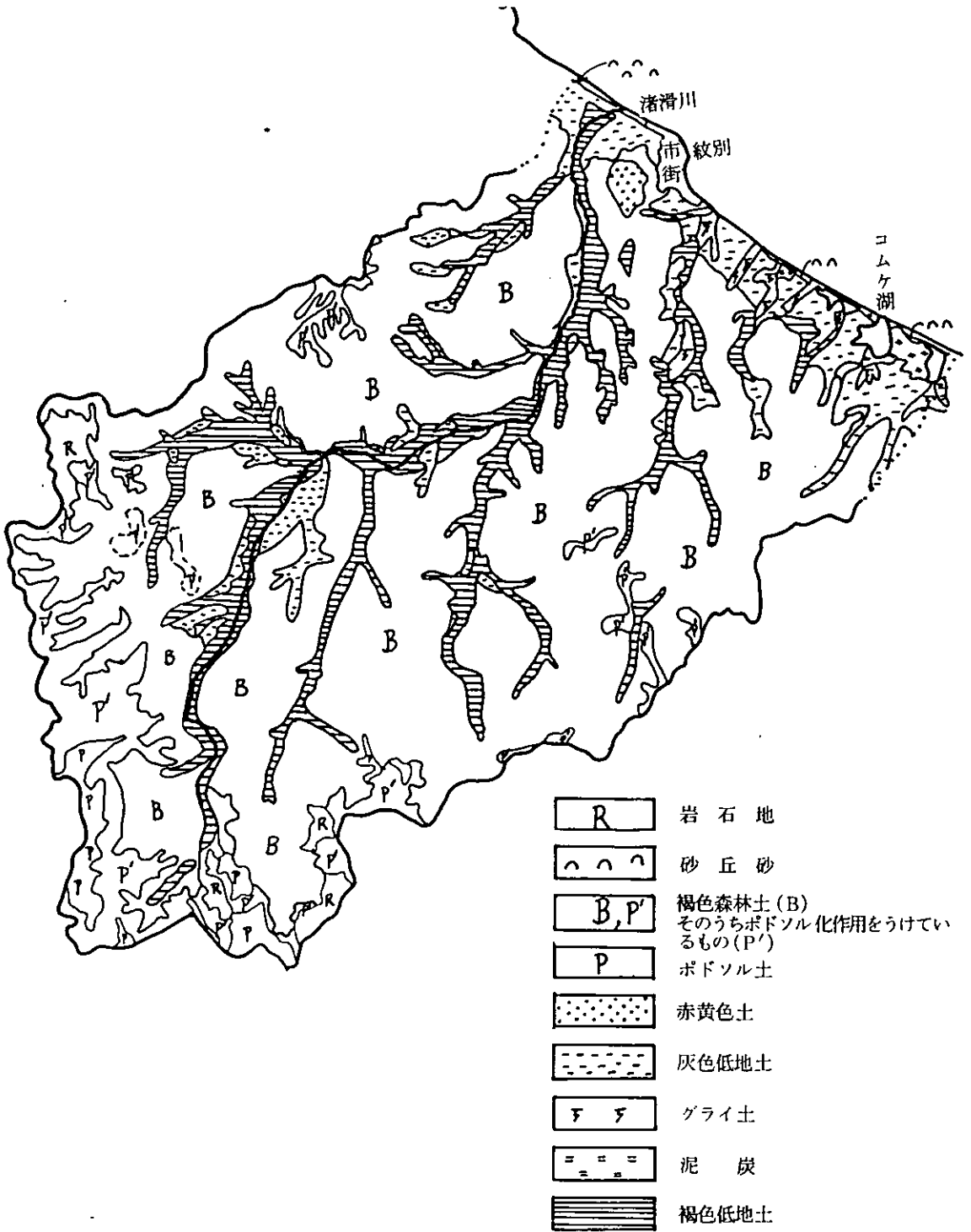


図 - 7 土 壤 分 布

## (5) 気 象

### 1) 気 象

紋別市の気候はオホーツク海沿岸のため、冬季は流氷の接岸もあって寒冷である。夏季も他市町村に比べて一般に冷涼であるが、南～西風によるフェーン現象で異常な高温を示すことがしばしばあり、30度を起す真夏日が数日観測される。しかし風向により気温の高低差が大きく、海風では下降が目立つ。年間の平均気温は5.9度である。

降水量はオホーツク海沿岸は全道で最も少ない地域であるが、紋別市の年間総雨量は888mmで、網走市に次いで少量となっている。

しかし日本海を低気圧が発達しながら東～北東に進み、道南付近を通過して道東沖に進出するときは、日量20～30mmとなり、毎年8月を中心に50mm以上の大雨が観測され、ときには70～80mmの豪雨となる年もある。

日照時間は年間1,824時間、年可照時間に対する比率は41%であり、網走より4%少ない。また霧については、紋別市では水平視程1km未満の濃霧は7月を中心に6～8月に月間5～7日間あるが、その後9月に入ると急激に減少する。

雪は平年で10月末に初日となり、雨と混って観測されることも多く、積雪となるのは11月上旬であり、その後、雨や昇温で数回融雪したり、積もったりが繰り返されて、根雪となるのは12月初めである。また冬期間の最大積雪は大体1m前後で2～3月に多くなるが、ときには1.2mくらいとなり4月初めでもまだ1mを超える積雪を見る年もあるが、ごくまれである。

### 2) オホーツク海の流氷

#### (1) オホーツク海の流氷分布

オホーツク海は北緯62度から44度にいたる南北約2,000キロにもおよぶ細長い海である。オホーツク海のはほぼ全域は毎冬厚い流氷におおわれる。オホーツク海で最初に凍結するのは北緯55度線上の西端にあたるシャンタル島周辺及びそこから北東にのびる海岸沿いであり、早い年には11月初旬に凍りはじめる。シャルタン島付近ではじまった結氷域は東に拡大し、12月初めには樺太沿岸の北端にまで達する。その後、樺太東岸に沿って南に延び、また東のほうにも拡大する。北海道沿岸への襲来はほぼ1月中旬である。2月初めには、流氷範囲は千島列島の南端に達し、その1部は太平洋に流出をはじめ。3月の初旬もしくは中旬に流氷域が最大となり、オホーツク海の全面積の80%が流氷でおおわれる。

3月以後、流氷の拡大期間とちょうど逆の経過をたどって流氷が後退する。樺太北部沿岸では5月初旬でも流氷がみられ、オホーツク海に流氷が完全になくなるのは6月に入ってからである。

流氷の厚さは北海道沿岸で40～50センチ、北部では1メートル強である。しかし互に積み重な

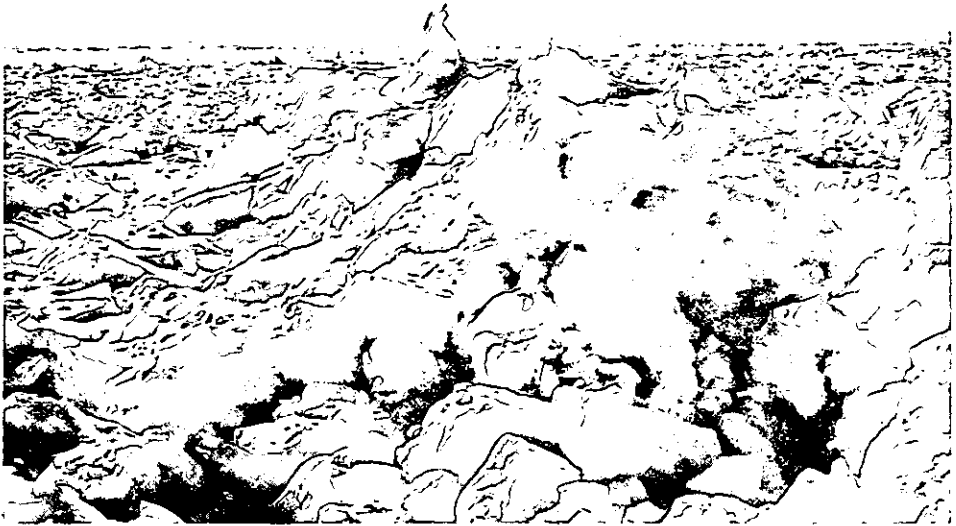
表-2 紋別の気象月別平均値

種別		月												全年 (平均・ 合計)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
気 温  (0.1℃)	平均	-6.4	-6.7	-2.6	4.5	9.7	12.2	16.4	17.9	15.6	9.6	3.2	-2.8	5.9
	最高平均	-3.2	-3.0	1.1	8.8	14.4	15.8	19.6	20.9	19.7	14.1	6.9	0.3	9.6
	最高極値	8.3	12.6	15.4	26.5	30.6	30.6	36.3	34.4	30.5	24.6	20.2	12.2	36.3
	(起年日)	1976 5	1960 25	1964 31	1961 30	1972 25	1961 3	1978 13	1972 7	1975 2	1978 1	1971 3	1961 13	
	最低平均	-9.8	-10.7	-6.3	0.5	5.6	9.0	13.6	15.4	11.9	5.5	-0.3	-6.1	2.4
	最低極値	-21.0	-24.7	-22.7	-11.2	-3.3	-0.3	5.2	5.6	1.6	-2.2	-11.5	-15.4	-24.7
(起年日)	1978 29	1978 18	1956 12	1975 3	1958 13	1973 3	1976 1	1971 19	1964 28	1970 27	1962 22	1959 18		
降 水 量  (0.1mm)	合計 (平均)	59.1	45.0	54.2	48.4	67.5	93.7	94.6	131.1	121.4	67.0	54.0	51.6	888.3
	日量の最大	51.6	45.7	67.0	43.8	51.4	62.9	80.5	148.0	65.7	60.5	39.0	64.0	148.0
	(起年日)	1965 9	1961 7	1975 31	1964 1	1959 18	1966 29	1972 8	1973 18	1966 10	1971 31	1974 18	1972 1	
日照時間合計(平均)		108.7	132.2	168.5	192.2	199.9	162.8	154.4	133.3	179.1	170.0	120.5	102.3	1,823.9
湿 度  (1%)	平均	75	76	75	68	72	85	88	88	78	72	71	73	77
	最小極値	31	28	20	13	8	24	30	27	21	25	22	31	8
	(起年日)	1976 5	1976 27	1972 19	1969 23	1957 4	1972 2	1978 29	1976 27	1964 24	1976 6	1967 7	1970 8	
平均		4.0	3.5	3.8	3.9	3.5	2.8	2.5	2.7	3.6	4.0	4.0	3.8	3.5
風 速  (0.1m/s)	日最大風速	20.3 NE	17.8 NW	17.7 NW	20.2 WNW	17.7 WSW	15.0 WSW	15.7 WSW	17.8 ENE	28.3 WSW	16.7 W	18.2 ESE	18.0 NW	38.3 WSW
	(起年日)	1965 9	1961 8	1956 1	1959 6	1969 6	1962 21	1961 7	1969 24	1961 17	1967 31	1972 22	1960 26	
	日最大 瞬間風速	30.4 NE	27.6 NW	30.4 WSW	30.2 W	30.8 WSW	21.3 SSE	20.4 SE	29.5 SW	29.9 WSW	26.0 W	29.4 NNW	28.4 N	30.8 WSW
(起年日)	1965 9	1962 11	1964 21	1967 5	1969 6	1968 11	1977 8	1970 16	1965 11	1967 31	1972 7	1972 2		
積雪の最大極値		100	127	115	110	30					2	29	47	127
(起年日)		1965 24	1958 13	1972 3.4	1975 1	1977 3	-	-	-	-	1968 12	1969 26	1956 5	
海水温度平均(0.1℃)		-5.9	-3.4	3.1	4.1	8.9	12.4	16.4	18.8	18.0	13.9	7.7	2.2	8.0

(起年日)の読み方例; 1976  
5 は、1976年の月別欄の月の5日

(平均: 1956~1970)  
極値: 1956~1978)

った氷(これを氷丘という)の高さは北海道沖でも海面上数メートルに達するのが珍らしくない。



(9) 流氷の出来るまで

オホーツク海の表面には厚さ25～50メートルの低塩分層があり、冬になると海水表面が冷却されると、はげしい対流を起こしながら水温が低下する。しかしオホーツク海では冷却による対流の及ぶ深さはこの低塩分層に限られる。この層は浅いので、短期間で全層が結氷温度になってしまう。そうすると次には表面が凍って氷ができるのである。

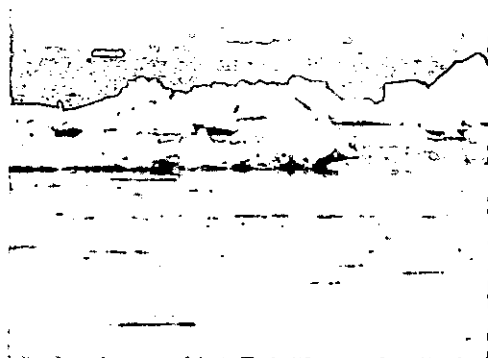
気温が低く、風が強いほど海から奪われる熱が多くなる。風の強いときには波が高い、すなわち波の高いときほど海が凍りやすいことになる。荒れ狂っている海ほど凍りやすいということに抵抗を感じるの、凍るといって板状の固い氷ができると思うからである。

海が凍るときには一枚板の水がはじめてからできるのではない、まず始めには氷晶と呼ばれる小さな氷の結晶が無数にできる。これは針状の六角板状、六華状など、雪の結晶と全く同じ形をしている。波がなければこれらの氷晶は静かに成長して、互いにからまりあって薄い氷板をつくる、しかし波があるときには氷晶はバラバラにこわれて氷の細片となってしまう。氷是水より軽いので、この氷晶、あるいはその破片は海の表面にうかび上がってくる。次から次へと生まれる氷晶は互いにつつきあい、海は鉛色に見え、表面は粘っこい感じになる。氷晶が集合して粘っこさのために、さざ波が消えてしまい、ゆっくりした動きの波だけが残るようになる。ゆっくり揺られているうちに、互いにつつきあって、ふちがまくれ上がった丸い形になる。これはちょうど蓮の葉のような形をしているので、蓮の葉氷と呼ばれる。氷といっても、蓮葉氷は小さい氷晶の集合体であるからやわらかく、指で押すと簡単に穴があく、この蓮葉氷の厚さも少しずつ増加し、また大きさも大きくなり、波がしだにおさまってくる。

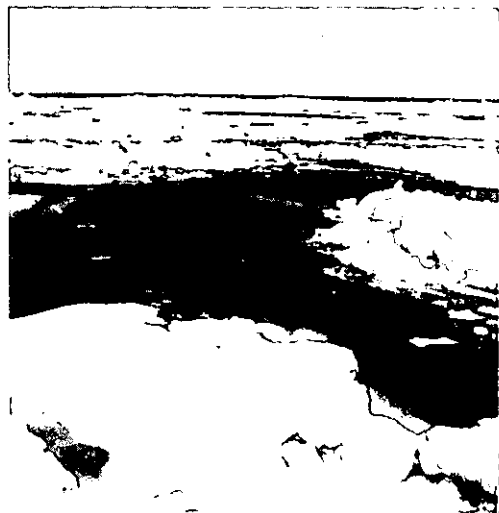
初め波立っていた海は氷晶や蓮葉氷のためには波がなくなってしまう、このあとは、池沼の結氷と全く同じである。蓮葉氷と蓮葉氷のあいだにも新しい氷ができ、蓮葉氷をつくっている氷晶の間の小さなすき間の水も凍って、やがて固い氷板が出来あがる。できた氷板は、まわりの寒さに比例してしだいに厚さが増し、オホーツク海沿岸北部では1メートル以上にもなる。



紋別公園から見た流水



春先に見られるめずらしい幻氷現象



(6) 水文特性

1) 降水量

渚滑川流域の降水量は滝の上町で827mm、紋別市で788mm(51年から55年の5ヶ年平均)と全道で最も少ない地方で、昭和41年から5年間の月別降水量を札幌と比較しても少ないことがわかる。

表 - 3 渚滑川流域の降水量

年/mm

観測所 \ 年	51	52	53	54	55
紋別	714.5	794.5	802	967	662.5
滝の上	886	829	794	953	673

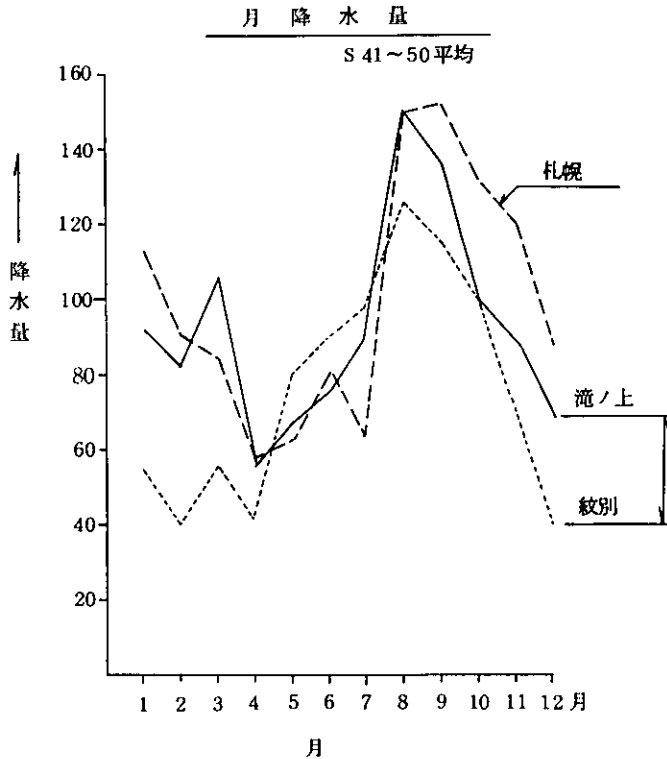


図 - 8 月 降 水 量

## (7) 流 況

渚滑川の流量は降水量が少ないこともあり、比較的少なく、上渚滑観測所での10ヶ年平均値（昭和46年～55年迄）は32.84 m<sup>3</sup>/秒である。

表 一 4 流況表 上渚滑流量観測所

(単位: m<sup>3</sup>/sec)

年度	名称	最 大	豊 水		低 水		最 小	年 平 均
			95日	185日	275日	355日		
46		764.99	39.59	18.87	10.59	5.96	5.47	35.09
47		577.91	30.99	18.95	8.71	5.64	4.32	30.01
48		593.95	50.16	22.81	12.02	8.04	6.90	47.44
49		278.22	33.83	19.27	10.13	4.35	3.48	33.52
50		700.89	47.67	23.54	11.40	3.44	2.84	46.71
51		173.50	24.45	10.84	6.84	3.77	2.89	22.41
52		338.88	25.90	11.33	7.05	4.04	2.80	27.32
53		270.31	24.18	12.78	6.61	3.58	2.94	25.11
54		507.88	42.21	18.78	7.42	3.66	2.64	33.90
55		202.08	23.99	10.79	7.74	5.18	4.24	21.89
計		4,408.61	342.97	167.96	88.51	47.66	38.52	328.40
平 均		440.86	34.30	16.80	8.85	4.77	3.85	32.84
比 流 量		0.420	0.033	0.016	0.008	0.005	0.004	0.031





### ⑨ 林 相

渚滑川流域の森林面積は 91,250 ha で所管別では国有林 77,390 ha, 公有林 2,220 ha, 民有林 11,640 ha で森林面積の 95% は立木地で 5% は無林地である。蓄積量 1,163 万 m<sup>3</sup> で ha 当り平均 128 m<sup>3</sup> である。林相別に見れば 89% が天然林で人工林は 11% に過ぎない。渚滑川流域の主な山地は源流域天塩岳, 渚滑岳, 西に北見富士, 東にウエンシリ岳に大別できる。

源流域の林相は亜寒帯の針広混交の天然生林である。

樹種はエゾマツ, アカエゾマツ等の針葉樹を主体とし, ミズナラ, イタヤ, カンバ等の広葉樹を混交する他, 小数のトドマツ, カツラセン, タモ等が繁茂して居る。

垂直分布は本流域最高峰, 標高 1,558 m の天塩岳とその周辺を除き, 1,000 m 以下である。標高 1,200~1,500 m で矮生のダテカンバ林となり次第に針葉樹林の純林となり, 更に 800 m 以下になると針広混交林となっている。

## 3 流域の社会条件

### (1) 面積及び人口・戸数

渚滑川流域内には紋別市と滝の上町の 1 市 1 町があり, 流域面積 1,237.2 km<sup>2</sup> である。

紋別市の渚滑川流域における人口は 11,438 人で全体の 33.8% である。

滝の上町の人口は 5,673 人であり, 流域内人口は 17,111 人である。

世帯数は紋別市 11,497 世帯のうち 4,034 世帯が流域内にあり, 滝の上町 2,017 世帯と合せて 6,051 世帯である。

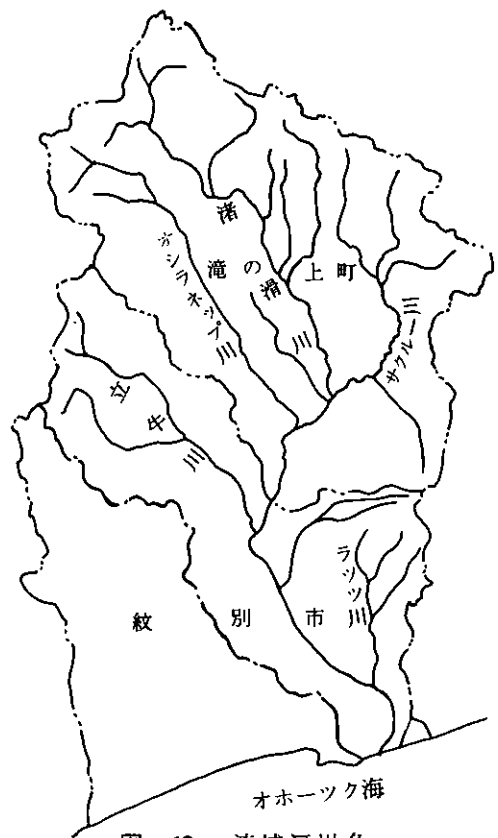


図-10 流域河川名

## (2) 人口の推移

紋別市

表-6 人口の推移

(単位:人・km<sup>2</sup>)

年次	世帯数	人口			一世帯 当り人口	人口密度	面積
		総数	男	女			
大正 9年	1,395	6,973	3,781	3,192	5.0		
14	1,802	8,845	4,745	4,100	5.0		
昭和 5年	2,027	10,421	5,585	4,836	5.1		
10	2,749	16,120	...	...	5.9		
15	...	19,852	11,106	8,748	...		
20	4,315	23,637	11,606	12,031	5.5		
25	5,932	32,352	16,497	15,855	5.5		
30	7,068	37,388	19,280	18,018	5.3	45.2	
35	8,573	40,281	20,260	20,021	4.7	48.7	826.34
40	9,683	40,389	19,949	20,440	4.2	48.9	826.39
45	9,975	35,110	17,129	17,981	3.5	42.5	826.45
50	10,134	32,825	15,912	16,913	3.2	39.7	826.52
55	11,497	33,863	16,620	17,243	2.9	41.0	826.52

資料…国勢調査(55年は概数)

滝の上町

表-7 人口の推移

年次	世帯数	人口	一世帯当り	事項
大正 7年	982	4,920	5.0	開村時
7年	1,189	5,263	4.4	同上年末
10年	1,271	6,393	5.0	
12年	1,401	7,546	5.4	鉄道開通
14年	1,781	8,933	5.0	
昭和 12年	1,714	10,104	5.9	
22年	2,179	12,053	5.5	町制施行
30年	2,510	13,464	5.4	10.1 国調
35年	2,836	13,437	4.7	"
40年	2,780	11,363	4.1	"
42年	2,739	10,690	3.9	12月 末
43年	2,637	9,961	3.8	"
44年	2,603	9,372	3.6	"
45年	2,416	8,514	3.5	10.1 国調
46年	2,451	8,223	3.3	12月 末
47年	2,410	7,874	3.3	"
48年	2,265	7,302	3.2	"
49年	2,227	7,043	3.2	"
50年	2,201	6,848	3.1	"
55年	1,967	5,673	2.9	"

(3) 土地利用

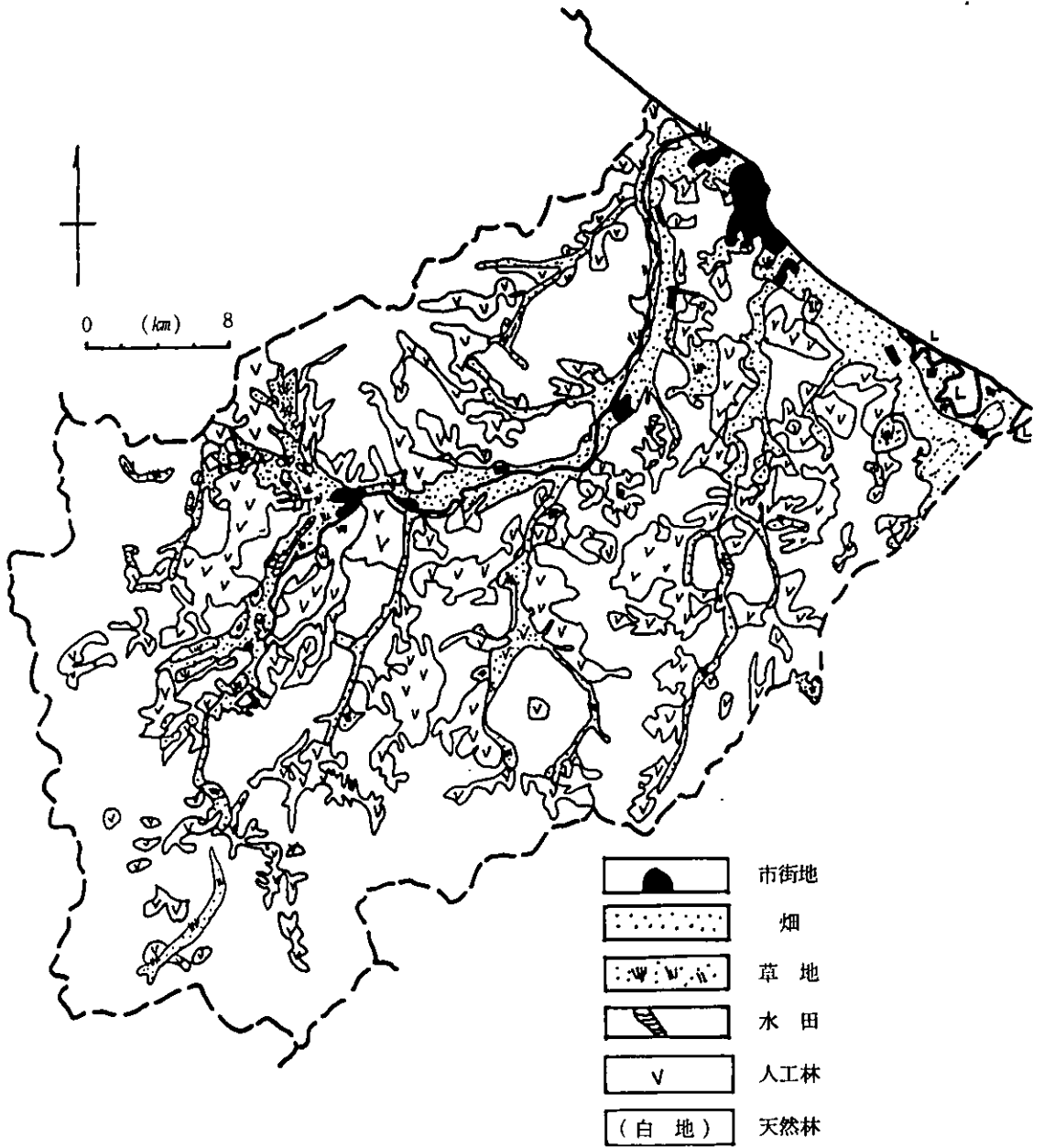
紋別市の地目別面積の推移

表 一 8 紋別川流域の地目別面積

単位：km<sup>2</sup>

地目別	紋別市	滝上町	面積 km <sup>2</sup>	比率 %
田	0.000	4.560	4.56	0.29
畑	61.045	38.420	99.465	6.26
宅地	5.583	1.610	7.193	0.45
山林	628.720	674.530	1,303.25	82.03
原野	52.422	29.610	82.032	5.16
牧場	29.894	—	29.894	1.88
その他	48.856	13.600	62.456	3.93
計	826.520	762.330	1,588.925	100.00

渚滑川流域における土地利用は、オホーツク海沿岸の寒冷な気候に大きな影響を受けている。流域の大部分は山林であり、農地は僅か 8% 程度であり、それも山間地では更に比率は低下する。農地の大部分は畑であり、牧場がこれに次ぐ。紋別市では水田は無く、滝上町などに僅かにみられるのみである。



図一 11 渚滑川流域土地利用現況図  $\frac{1}{205}$  土地分類調査 北海道 M より

(4) 産 業

管内の産業は、農業、酪農、林業、漁業等の第一次産業が主であり、工業は食料品製造業、木材木製品製造業、パルプ・紙・加工品製造業である。

表一 9 産業別就業人口 紋別市

	昭 和 45 年	昭 和 50 年	昭 和 55 年
総 数	16,832	15,784	16,678
第 1 次 産 業	3,487	2,644	2,503
農 業	1,894	1,219	1,082
林 業・狩 猟 業	485	413	365
漁 業水産養殖業	1,108	1,012	1,056
第 2 次 産 業	5,672	5,220	5,333
鉱 業	721	39	91
建 設 業	1,642	1,731	2,189
製 造 業	3,309	3,450	3,053
第 3 次 産 業	7,661	7,908	8,834
卸 売 業・小 売 業	2,923	3,007	3,307
金 融 保 険 不 動 産 業	344	374	496
運 輸・通 信 業	1,024	1,073	1,022
電 気 ガ ス 水 道 業	73	73	117
サ ー ビ ス 業	2,687	2,738	3,238
公 務	610	643	654
分 類 不 能 産 業	12	12	8

資料…国勢調査（55年は概数）

表一 10 産業別就業人口 滝の上町

区 分	第 1 次 産 業		第 2 次 産 業		第 3 次 産 業		総 数	
	人 口	率	人 口	率	人 口	率	人 口	率
昭 和 40 年	2,687	50.7	1,103	20.8	1,507	28.5	5,297	100
45	1,848	43.4	1,024	24.0	1,388	32.6	4,260	100
50	1,215	34.7	1,055	30.2	1,228	35.1	3,498	100
55	954	30.5	1,051	33.6	1,124	35.9	3,129	100

資料：国勢調査

(5) 農 業

表一 11 紋別市の主要作物作付面積及び収穫量

作付面積 ha  
単位 収 量 kg  
収 穫 量 t

区 分	項 目 種 類	52年			53年			54年			55年		
		作付 面積	10アール 当たり 収量	収穫量	作付 面積	10アール 当たり 収量	収穫量	作付 面積	10アール 当たり 収量	収穫量	作付 面積	10アール 当たり 収量	収穫量
米 安 類	水 稲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	小 え ん	12	100	12	22	382	84	34	321	109	105	314	330
	ば れ い し よ	15	200	30	9	160	14	6	200	12	3	172	5
い も 類	そ ば	42	3,000	1,260	39	2,800	1,190	35	2,280	798	36	3,100	1,120
雑 穀	豆 類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15	12	2
	大 豆	1	130	1	1	150	2	—	—	—	1	120	1
	い ん げ ん	4	120	5	6	130	8	5	90	5	6	30	2
	い ん げ ん	5	160	8	5	90	5	4	83	3	2	73	1
野 菜	だ い ご ん	22	2,500	549	22	2,790	613	22	3,790	833	20	2,410	481
	に ん じ ゃ	3	2,400	72	3	2,800	84	3	3,360	100	3	2,850	86
	は く さい	7	2,740	192	7	2,940	206	7	4,400	308	7	2,170	152
	キ ャ べ	6	2,400	144	6	2,430	146	6	3,300	198	6	2,930	176
	ね づ ぎ	1	2,000	20	1	2,000	20	1	2,000	20	1	2,000	20
	ト り	1	3,200	80	1	3,200	32	1	2,800	28	1	2,300	23
	ま う り	2	4,000	578	2	3,500	70	2	3,000	60	2	1,900	38
	か ぼ ち ゃ	34	1,700	8	15	2,100	315	5	1,960	98	10	310	31
	い ち ご	2	400	549	2	350	7	2	480	10	2	350	7
	未 成 熟 とう も ろ こ し	45	1,220	28	63	1,040	655	61	975	595	70	480	336
ア ス バ ラ ガ ス	7	400	700	6	540	27	6	540	27	5	580	29	
工 業 用 作 物	て ん さ い	289	4,400	12,900	295	4,190	12,400	289	4,530	13,100	306	4,770	14,600
飼 料 作 物	青 刈 り とう も ろ こ し	800	4,490	35,168	855	4,600	39,300	963	4,100	39,500	978	4,950	48,400
	豆 科 牧 草	4	4,200	—	—	—	—	—	—	—	54	5,020	2,710
	い ね 科 牧 草	—	—	—	—	—	—	—	—	—	250	3,240	8,100
	豆 科 の ほ た て 牧 草	5,740	3,750	215,300	6,240	3,800	237,100	6,360	3,100	197,200	6,040	3,720	224,700
家 畜 用 ビ ー ト	17	5,000	850	7	5,500	385	—	54,500	225	9	5,100	459	
飼 料 用 か ぶ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

資料…北海道農林水産統計年報

表一 12 滝の上の主要作物作付面積及び生産額

(昭和55年度中)

形態別	種 類	作付面積 飼養頭羽数	生産量	生産額	生産額の率
田畑作	水 稲	4 ha	14t	3,878 円	0.6%
	小 麦	435	1,188	224,413	37.5
	豆 類	44	76	21,892	3.7
	て ん 菜	179	7,178	147,005	24.5
	は っ か	150	12	61,637	10.3
	か ぼ ち ゃ	60	1,056	42,240	7.0
	ス イ ー ト コ ー ン	90	900	27,963	4.7
	ア ス バ ラ ガ ス	14	49	20,188	3.4
	馬 鈴 し よ	41	1,173	49,683	8.3
	(小 計)	1,017	11,646	598,899	100.0
酪農	生 乳	2,839頭	8,729t	780,757	48.8
	肉 用 牛	956	3,029	792,711	49.5
	馬	68	38	27,650	1.7
	(小 計)	3,863	11,796	1,601,118	100.0
合 計	4,880	23,442	2,200,017	100.0	

(6) 工業

表-13 紋別市の工業

年次別工業の推移

各年 12 月 31 日現在 (金額単位 万円)

年	総 数			18-19 食料品製造業			30 窯 業 ・ 土 石 製 品 製 造 業			33 金属製品製造業			22 木 材 ・ 木 製 品 製 造 業		
	事業所数	従業者数 (人)	出荷額等	事業所数	従業者数 (人)	出荷額等	事業所数	従業者数 (人)	出荷額等	事業所数	従業者数 (人)	出荷額等	事業所数	従業者数 (人)	出荷額等
52	168	2,650	5,309,880	117	1,676	4,210,369	4	78	120,165	4	52	54,134	22	422	292,005
53	180	2,844	4,814,618	114	1,808	3,613,842	4	86	125,092	7	52	107,715	23	436	259,872
54	168	2,617	5,420,631	107	1,656	4,005,335	5	53	134,260	6	45	109,037	22	423	289,215

資料…工業統計調査

年	23 家具・装備品製造業			24 パルプ・紙・加工品製造業			25 出版・印刷・同関連産業			36 輸送用機械器具製造業		
	事業所数	従業者数 (人)	出荷額等	事業所数	従業者数 (人)	出荷額等	事業所数	従業者数 (人)	出荷額等	事業所数	従業者数 (人)	出荷額等
52	4	15	14,479	3	192	511,801	5	101	43,965	-	-	-
53	10	23	10,237	4	200	571,021	5	110	48,707	3	21	19,466
54	10	23	18,938	4	215	750,625	5	108	52,667	2	x	x

表-14 滝の上町の工業

産 業 別	年	事業所数	従業者数	出 荷 額
総 数	51	25	444 人	262,413 円
	53	25	454	339,728
	55	25	433	453,257
食 料 品 製 造 業	51	5	16	3,026
	53	5	17	3,330
	55	5	14	4,589
木 材 ・ 木 製 品 製 造 業	51	12	373	244,150
	53	13	396	292,892
	55	13	380	393,460
家 具 ・ 装 備 品 製 造 業	51	5	48	13,087
	53	3	20	6,130
	55	3	22	12,102

※ 事業所の数が少ないものは、従業者数及び出荷額を X とした。

(7) 水 産

紋別港は中部オホーツク圏の水産漁業基地として、また北方圏との貿易港としての役割も期待されている。

昭和 50 年 4 月に重要港湾に指定された。

表-15 魚種別漁獲量の推移

年別 魚種別	昭和53年		昭和54年		昭和55年	
	数量(屯)	金額(千円)	数量(屯)	金額(千円)	数量(屯)	金額(千円)
にしん	1,031	240,510	1,037	320,445	1,530	581,783
さけ	285	281,122	374	276,189	293	298,161
ます	55	53,125	61	50,380	84	52,162
たら	291	54,856	404	74,724	398	61,218
すけそうたら	106,969	5,075,929	106,419	8,201,119	87,729	5,882,221
ほっけ	6,395	159,345	5,345	222,206	2,773	194,512
さんま	4,857	264,471	2,343	58,556	3,366	361,199
おひょう	10	13,826	8	12,134	10	15,074
かれい	2,538	577,228	3,489	778,507	5,249	945,974
おなご	3,595	113,216	743	24,505	10,527	429,369
わらざか	378	16,843	281	20,721	708	52,706
さめ	67	2,220	30	2,078	33	1,796
かすべ	78	9,758	119	24,987	126	25,921
いか	25	5,218	29	5,610	171	21,371
たこ	128	33,982	54	21,812	99	39,217
毛がに	93	98,300	104	95,629	96	74,814
えび	121	351,844	80	220,848	89	260,027
うに	45	22,073	40	24,158	33	23,779
ほたて貝類	8,219	1,240,735	9,328	1,763,124	9,351	2,224,104
その他の魚類	10,130	1,361,571	9,086	1,505,975	11,622	2,018,877
こぶこ	12	9,445	30	37,590	53	48,872
えらこ	10	4,332	8	3,335	7	3,666
合計	145,332	9,989,949	139,412	13,744,632	134,347	13,616,833

資料…市水産課

表-16 水産加工製品生産高の推移

年別 製品別	昭和53年			昭和54年			昭和55年		
	数量 (t)	金額(千円)	kg当り 平均 単価	数量 (t)	金額(千円)	kg当り 平均 単価	数量 (t)	金額(千円)	kg当り 平均 単価
冷凍品	55,580	10,470,590	188 <sup>B</sup>	59,826	14,637,981	245 <sup>A</sup>	59,272	17,631,884	297 <sup>B</sup>
缶詰	626	584,100	933	782	871,458	1,114	1,181	1,049,643	888
塩蔵品	758	937,042	1,236	562	557,394	992	638	718,784	1,127
干製品	1,031	1,294,361	1,255	1,088	1,268,968	1,166	1,048	1,623,323	1,549
くんせい品	20	21,075	1,053	19	16,798	884	7	9,000	1,286
調味加工品	133	186,849	1,404	226	307,861	1,362	117	234,021	2,000
練製品	279	140,248	503	348	190,800	548	318	193,510	609
ゆでもの	38	30,800	811	5	7,300	1,460	32	31,300	978
海藻類	10	8,086	809	28	27,392	978	50	48,872	977
魚卵製品	341	1,208,995	3,545	362	1,109,944	3,066	85	318,964	3,753
魚肉調理品	3,709	821,811	222	4,161	1,058,866	254	6,177	1,927,942	312
調味漬物	487	458,995	942	265	268,650	1,014	380	414,784	1,092
魚油	1,302	71,657	55	1,086	57,055	53	1,305	70,739	54
肥飼料	33,446	2,215,408	66	27,167	2,149,405	79	24,174	2,352,567	97
合計	97,760	18,450,017	189	95,925	22,529,872	235	94,784	26,625,333	281

資料…市水産課



(8) 林業

紋別市の林業

表-17 森林の現況

年度	総計		国有林		私有林		市町村有林	
	面積 ha	蓄積 m <sup>3</sup>	面積 ha	蓄積 m <sup>3</sup>	面積 ha	蓄積 m <sup>3</sup>	面積 ha	蓄積 m <sup>3</sup>
55	66,111.00	4,933,463	25,923.48	2,074,871	37,906.40	2,701,323	2,281.12	157,269

表-18 一般民有林の動向

年度	総数		人工林		天然林		無立木地 ha	更新困難地 ha
	面積 ha	蓄積 m <sup>3</sup>	面積 ha	蓄積 m <sup>3</sup>	面積 ha	蓄積 m <sup>3</sup>		
49	40,037.80	2,453,273	12,052.36	378,048	26,554.16	2,075,225	1,189.68	241.60
55	40,187.52	2,858,592	14,378.80	763,587	24,047.60	20,950.05	1,539.16	221.96

滝の上町の林業

表-19 林業の状況 (昭和55年度中)

区分	素材	一般製材	木材チップ	経木費その他
生産量	63,654 m <sup>3</sup>	19,067 m <sup>3</sup>	53,386 m <sup>3</sup>	9,215 m <sup>3</sup>
生産額	135,105 円	(工業生産額に記載)		

表-20 森林面積 (昭和55年度中)

区分	国有林	道有林	町有林	民有林	合計
総数	58,589 ha	20	2,165	7,589	68,363
天然林	43,783	7	735	3,192	47,717
人工林	13,073	12	1,357	4,035	18,477
その他	1,733	1	73	362	2,169

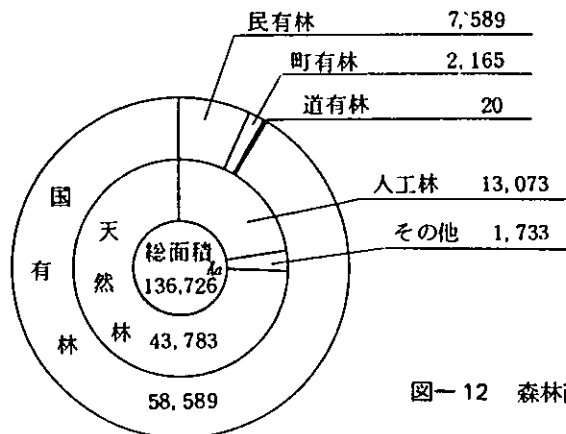


図-12 森林面積の割合

## (9) 水 利 用

渚滑川流域の面積は 1,237 km<sup>2</sup>であり、人口は 22,784 人、人口密度は 18.4 人 / km<sup>2</sup>である。この値は全国平均の 300 人以上の人口密度と比べると、我国には珍しい低人口密度地域である。

又、土地利用も、紋別・滝上合わせた面積の 86% が山林であり、農地は僅かに 8.3 % 程度である。その中で水田は 4.56 km<sup>2</sup>(地目上)であり、全体の 0.3 % にしかない。

水位流量観測所は流域内に 7 ケ所、水質観測地点は 9 ケ所ある。河川表流水の利用は農業用、水道用、工業用として利用されている。この地域では、本州の各水系と異なり営農用水の名で農業用水及び生活用水として利用されている例がいくつか見られる。

農業用取水口は 15 ケ所、受益地区は 512.1 ha 以上(本調査基準以下の小規模地区を除く。)存在する。農業用排水口は僅か 3 ケ所である。

工業用取水口、排水口は計 12 ケ所のみであり、本流域では、個々の規模が非常に小さい。

地下水も利用頻度は高いとは言えず、今回把握された井戸本数は僅か 7 本である。採取量も小規模である。

上水道は紋別市、滝上町において整備されつつあるが、受益人口(給水対象人口)は約 33,000 人(一部流域外を含む)である。上水道の完備しない地域において 3 ケ所簡易水道が利用されている。

全体的にかなり低く見えるが、工業用水の利用は、日量約 43,000 m<sup>3</sup>に達している。

流域には 7 ケ所の降水量観測所があり、そのデータによれば、単純平均で、年間 928 mm の降水量(20 年間、3 ケ所)が見られる。これから流域への降水量は年間平均(26 ケ年) 114,794 万 m<sup>3</sup> / 年となる。一方流量は 97,564 万 m<sup>3</sup> / 年である。水利用量から見たこの流域は十分に余裕があるように見える。然し、冬期の酷寒、地形など水利用上の制約があるので、解決すべき問題も多い。

又、既に使用されている水利権は発電所 2 ケ所で 6.62 m<sup>3</sup> / 秒、農業用水として 3.51 m<sup>3</sup> / 秒、計 10.43 m<sup>3</sup> / 秒である(次表)。

表-21 水利権現況集計表 (m<sup>3</sup>/s)

水系名	河川番号	河川名	区間区分	上水道		鉱工業		農業		発電		その他		計		
				件数	取水量	件数	取水量	件数	取水量	件数	取水量	件数	取水量	件数	取水量	
渚滑川	1	渚滑川	指定区間外	1	0.247	1	0.0021								2	0.2491
			指定区間			1	0.0075	3	3.4850	2	6.62				6	10.1125
			小計	1	0.247	2	0.0096	3	3.4850	2	6.62				8	10.3616
	2	渚滑古川	指定区間			1	0.0300							1	0.0300	
	3	十二緑川	"									1	0.0098	1	0.0098	
	13	メナシベツ川	"					1	0.0039					1	0.0039	
	14	五十二川	"			1	0.0056							1	0.0056	
	15	オシラネップ川	"					1	0.0097					1	0.0097	
	16	シュウルトルマツ川	"					1	0.0062					1	0.0062	
	17	サクルー川	"			2	0.0097							2	0.0097	
	18	サクルー6号川	"					1	0.0019					1	0.0019	
計	9	河川	指定区間外	1	0.247	1	0.0021								2	0.2491
			指定区間			5	0.0528	7	3.5067	2	6.62	1	0.0098		15	10.1893
			計	1	0.247	6	0.0549	2	3.5067	2	6.62	1	0.0098		17	10.4384

## 4 災 害 史

渚滑川は本道重要河川の一つに属し、その流域の滝の上町及び渚滑・下渚滑の三地域の耕地はこの地域にとって重要である。しかしその支流のサクルー川及びオシラネップ川、立牛川は、拓植の進展に伴う上流地帯の森林乱伐、開墾、木材の流送などによって、河川上流域は荒廃し、そのために洪水が頻発し易くなり、降雨、融雪時になれば、氾濫して沿岸一帯を泥海と化し、橋梁の流失破損、家屋の浸水、農作物の全滅などの危険をもたらしてきた。

以下主な事例の概要を記す。

### (1) 明治 31 年 9 月洪水（低気圧）

- 1) 渚滑市街では家の軒まで水位が上昇し、中渚滑方面では、高知県人の団体移住間もなくであったから、仮小屋に等しい小屋を多数流失し、人畜の死傷もかなりあり悲惨な状態であった。この地域の新移住民は食糧の貯えも充分でなく水害が 9 月という収穫期前でもあったため、畑作物を全部流され農家は冬期間の食糧に窮乏し餓死寸前という哀れな状態に追い込まれた。
- 2) 被災内容 上渚滑町 32 線下流全域一帯氾濫、死者 1 名、浸水家屋 200 戸、氾濫面積 10ha

### (2) 大正 8 年 9 月洪水（台 風）

- 1) 9 月 18 日から 24 日までの連日の豪雨は、サクルー川で最高 3.6 m の増水となって氾濫した。
- 2) 被災内容 堤防欠壊 1 ケ所、橋梁流失 2 ケ所、建物流失 1 棟、土地崩壊 0.05ha

### (3) 大正 11 年 8 月洪水（台 風）

- 1) 23 日から 25 日にかけて通過した台風により、各河川で増水し、滝の上市街滝の上原野 6 線、同 10 線、サクルー原野 9 号、オシラネップ原野 2 号、上渚滑原野 52 線などが 2.4 m 程度増水し、氾濫した。

#### 2) 被災内容

上渚滑町 32 線下流一帯浸水

死者 1 名

家屋浸水約 300 戸

橋梁流失 33 ケ所

道路損壊 24 ケ所

木材流失 100 万石

浸水面積 121.9 ha



▲渚滑川右岸 渚滑村市街の浸水状況（T11.8.26）  
-47- （現、渚滑郵便局付近の冠水）

(4) 昭和4年4月洪水(融雪)

- 1) 27日から28日にかけて渚滑町一帯に氾濫した。
- 2) 被災内容 不明



▲渚滑川右岸 渚滑村市街の冠水(現紋別警察署、渚滑駐在所付近)

(5) 昭和7年8月洪水(低気圧)

- 1) 7月上旬からの降雨は9月下旬に至るまでほとんど間断なく続き、その間7月10日及び8月20日の二度にわたり、出水氾濫して、大正11年につぐ大惨害となった増水は7月10日は4m、8月25日5mに達した。
- 2) 被災内容  
堤防欠壊2,000m      鉄道流出400m(路床)  
道路欠壊5,219m      家屋浸水238戸  
橋梁破損20ヶ所      浸水面積1,038ha



(渚滑川 北海道紋別市 渚滑町)

(6) その後水害は8, 9, 10, 13, 14, 16年と続き、住民の気力と希望を全く奪ってしまう程であったが、資料の入手が出来なくこの模様を明確にすることが出来ない。

(7) 昭和30年3月洪水(融雪)

1) 18日に発生した洪水は、増水と共に流れてきた氷が上渚滑町和訓辺付近で渚滑川をせき止め、氾濫した河水は一挙に和訓辺側の畑地に突入し、一夜にして見渡す限りの流水原と化し、畑地に幅100m近い新河道が一時的に出現し、付近住民を驚かせた。

- 2) 被災内容 道路欠壊 40m  
家屋浸水 28戸  
畑流失 15ha  
氾濫面積 50ha  
流出家屋 5戸  
馬の弊死 10頭



▲渚滑川右岸 国道273号記念橋取付道路の流失直後(紋別市上渚滑町)

(8) 昭和37年1月5日

- 1) オホーツク海のシケによる河口閉塞により本流逆流による氾濫  
2) 被災内容 家屋浸水50戸 道路冠水1ヶ所 氾濫面積4km<sup>2</sup>

(9) 昭和38年1月9日

- 1) オホーツク海のシケによる河口閉塞により本流逆流による氾濫  
2) 被災内容 家屋浸水50戸 道路冠水1ヶ所 氾濫面積4km<sup>2</sup>

(10) 昭和46年10月洪水(低気圧)

- 1) 31日から11月1日にかけての集中豪雨による氾濫  
2) 被災内容 床上浸水55戸 床下浸水43戸 畑の浸水570ha 橋梁流失3ヶ所  
橋梁破損3ヶ所 道路決壊5ヶ所

(11) 昭和50年8月洪水(台風6号)

1) 22日から23日にかけて紋別地方に、かなり強い雨が降り、降り始め22日午後10日ころから23日午前9時まで35mmを記録、今年の降雨短時間量では最高となった。特に23日午前2時20分から10分間に13mmが記録された。このため内水氾濫をおこした。

- 2) 被災内容 床上浸水3戸  
 床下浸水37戸  
 橋梁破損4ヶ所



渚滑川右岸 樋門堤内側の家畜小屋付近の浸水 (紋別市渚滑町)

(12) 昭和54年10月洪水(台風20号)

- 1) 20日未明、網走地方を通過した台風20号は管内にも大きなツメ跡を残していった。
- 2) 被災内容 床上浸水3戸 床下浸水8戸 橋梁流失1ヶ所 氾濫面積0.5km<sup>2</sup>

▼渚滑川洪水による渚滑川右岸樋門閉扉中の内水氾濫 (紋別市渚滑町3丁目紋別集散家畜市場付近)



▲渚滑川支川 渚滑古川の内水氾濫による市街道路の冠水状況 (紋別市渚滑町)

## 5. 河川改修の概略

### (1) 改修工事着工以前の治水（明治13年～昭和8年）

明治13年紋別郡一円を行政区として、当地に初めて戸長役場が設置されたことにより治安衛生、交通、通信教育等の機関が備わり、紋別はここに初めて一郡の中枢として紋別郡の首邑となるに至った。やがて管轄町村も徐々に発展し、明治33年渚滑村が分村するに及んで漸く自治体の形質を備うるに至り、諸産業の発達と共に戸口増加、渚滑川流域への開拓民の入植、奥地の開発等が年と共に進められ遂に滝の上集落を造るに至った。当時の渚滑川の河道は荒廢し、乱流にまかせ年々災害による被害が増加し、水田開発の進展と併せて河川改修の関心が高まり、大正8年河川測量に着手、基礎資料蒐集に努め、これに基づき検討の結果大正15年に治水計画が立案され、予算の不足で着手することが出来ず、僅かに急を要する箇所に対し応急的工事を施工するにすぎなかった。

### (2) 第二期拓殖計画（昭和9年～昭和11年）

このような状態であったので被害は年々増加し、昭和7年に大洪水を被り治水工事の施行は緊急案件となり、昭和9年より着手する事となり河口より中渚滑22線に至る延長16軒の区間に対し本流は堤防切替護岸、支川に対しては逆水堤防を施行し洪水流の疎通及び低水量の維持を図ることとし昭和9年、7～8線及び16～19線、昭和10年21～24線、昭和11年9～10線の屈曲湾入甚しき箇所を延長3,740mの切替を行ない目的を達した。

### (3) 戦後の治水事業

終戦前後の混乱期に於て、治水事業は応急的工事に止まっていたが、未だ築堤護岸に於て多くの残量を有しており、これらの完成を図るため引続き工事を施行し、河口に対して水制工導水堤工事を、その外、上渚滑に於て護岸工事を施行、昭和26年開発局発足と共に河口より立牛川合流点間31km区間の直轄河川改修区域の指定を受け、同年より渚滑川26軒区間の築堤護岸を施行したが流域の開発の進展と共に昭和35年に於て既定計画調査検討を行ない宇津々左岸築堤計画を樹て同37年より着手、本流工事と共に継続し今日に至っている。



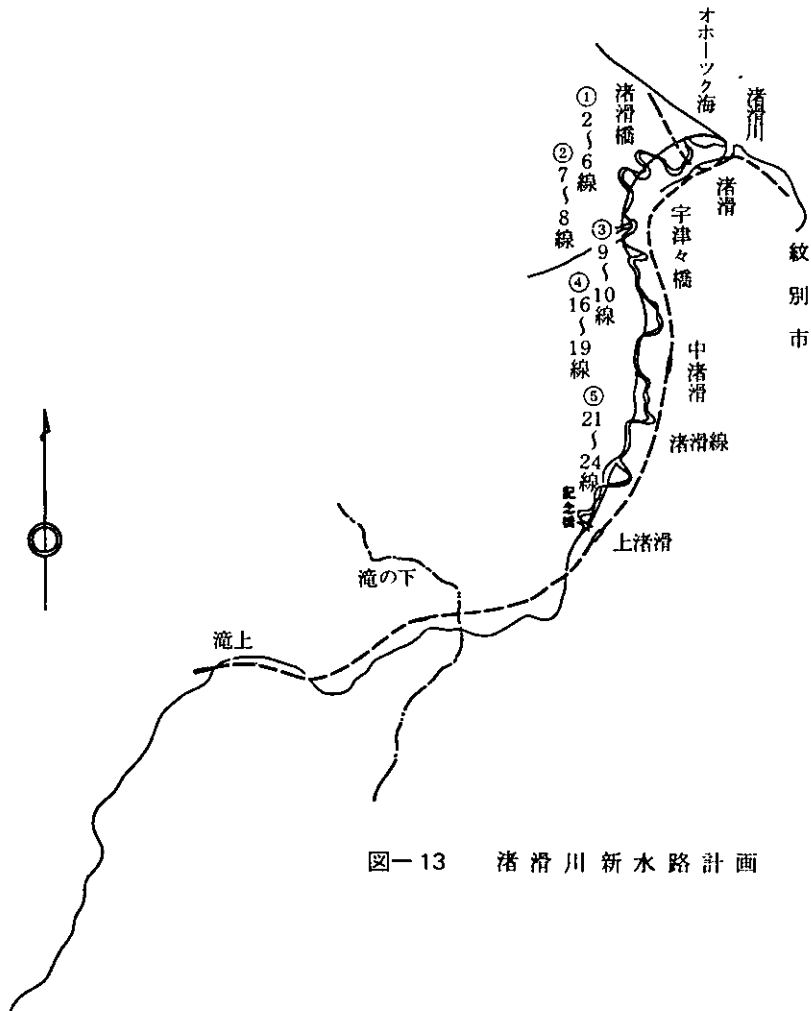


図-13 渚滑川新水路計画

表-22 新水路・放水路一覧表

番号	名 称	新水路 延長	旧水路 延長	掘削浚渫 土 量	着工年月	通水年月
1	渚滑川2~6線新水路	2,020 <sup>m</sup>	3,160 <sup>m</sup>	174,885 <sup>m<sup>3</sup></sup>	昭和9年11月	昭和12年 月
2	渚滑川7~8線 "	560	970	41,794	9. 4	9. 11
3	渚滑川9~10線 "	600	1,020	49,554	11. 5	12. 8
4	渚滑川16~19線 "	1,380	1,880	109,353	9. 8	11. 2
5	渚滑川21~24線 "	1,700	2,040	142,897	10. 9	11. 1



渚滑川河口より紋別市街

## 付 録

### 1) 浮島湿原



浮島の湿原は標高 860～870 m の熔結凝灰岩の平坦面に位置し、北東から南西方向に約 700 m、北西から南東方向に 200 m の細長い湿原でこの中に浮島をもつ大小 100 個の沼地が散在する。ここは典型的な高層湿原で、植物の大半はミズゴケ、ツルコケモモ、ホロムイスゲ、ワタスゲ、タテギボウシなどで沼はエゾノヒツジグサや、ヤチスゲでおおわれ、この上にミズゴケ、ホロムイスゲなどが生育し、沼全体が浮島状をなしている。

## 2) 神立高原（北見富士山）

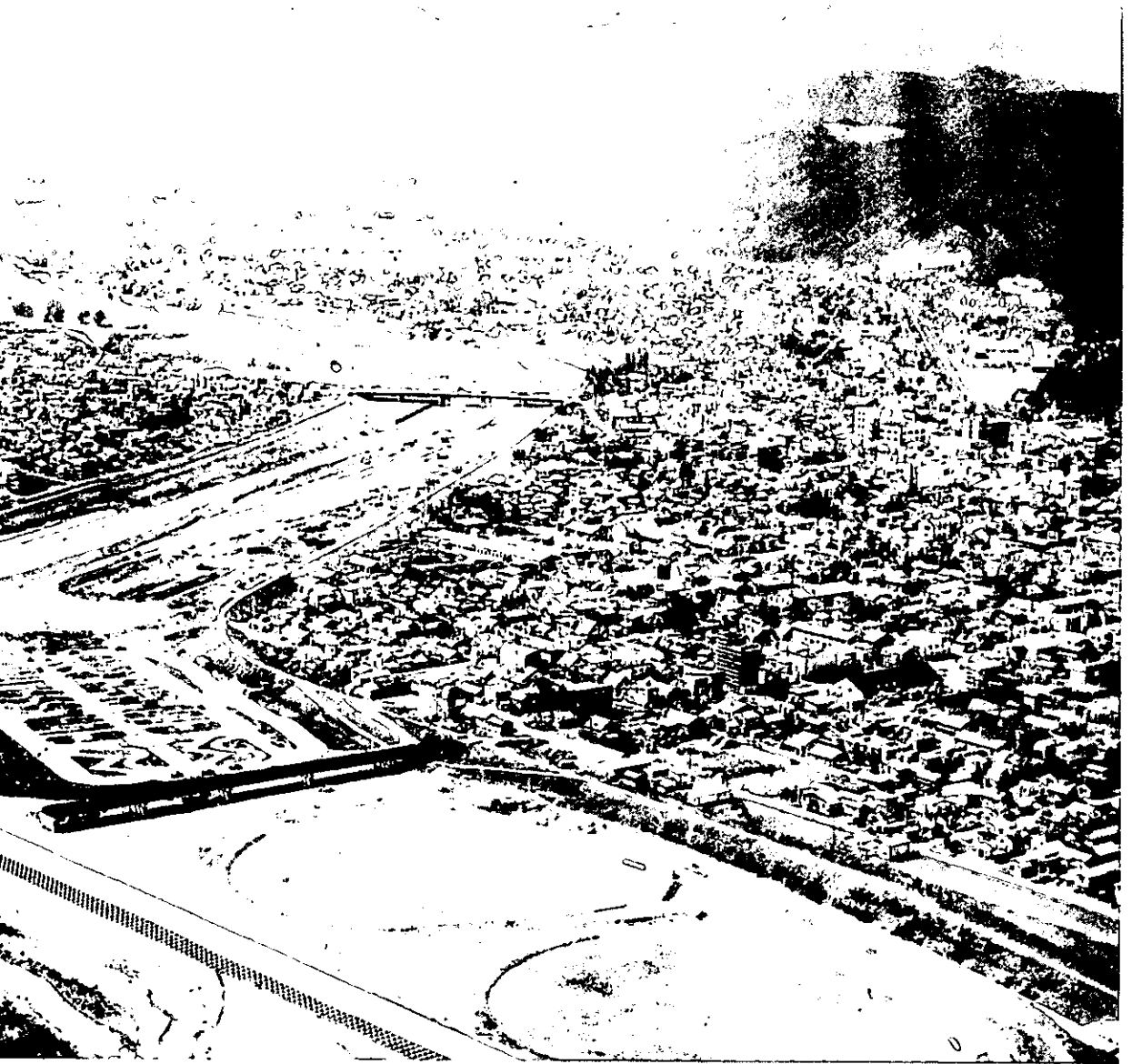
上渚滑市街から 37 km、上立牛沢本流に沿った溪谷は、下流の滝美橋一帯が春になると、ツツジ、桜、秋は山々を色とりどりに染める紅葉、小神居古潭といわれるほどの溪谷美、上流には 400 m の高地にマンモス岩、ローソク岩などと名付けられた巨岩がそびえ、奇観を楽しむことができる。その上流に 300 m の落差をもつ、干間の滝、そして神立高原へとつながっている。

高山植物、なきうさぎなどの珍しい動植物がみられる。

## 3) コムケ原生花園・オムサロ原生花園

紋別には、東のコムケ原生花園西にオムサロ原生花園がある。コムケ原生花園は、ガンコウランの丘を中心として、海岸線 1 km にわたって高さ 50 cm ほどに群生し、エゾカラナデシコなどが変化をつけている。ガンコウランの丘は台地になっていて、この急斜面一面に、ガンコウランがマットを敷きつめたように咲く、この花は北海道の一部にだけ見られ、貴重な原生花であり丘にはエゾゴテンタチバナ、コケモモなどが色どりをそえている。また西のオムサロ原生花園も海岸線 1 km にハマナス、エゾスカシユリ、ヒオウギアヤメなどの群落がある。

## 湧別川流域の概要



北海道開発局網走開発建設部治水課

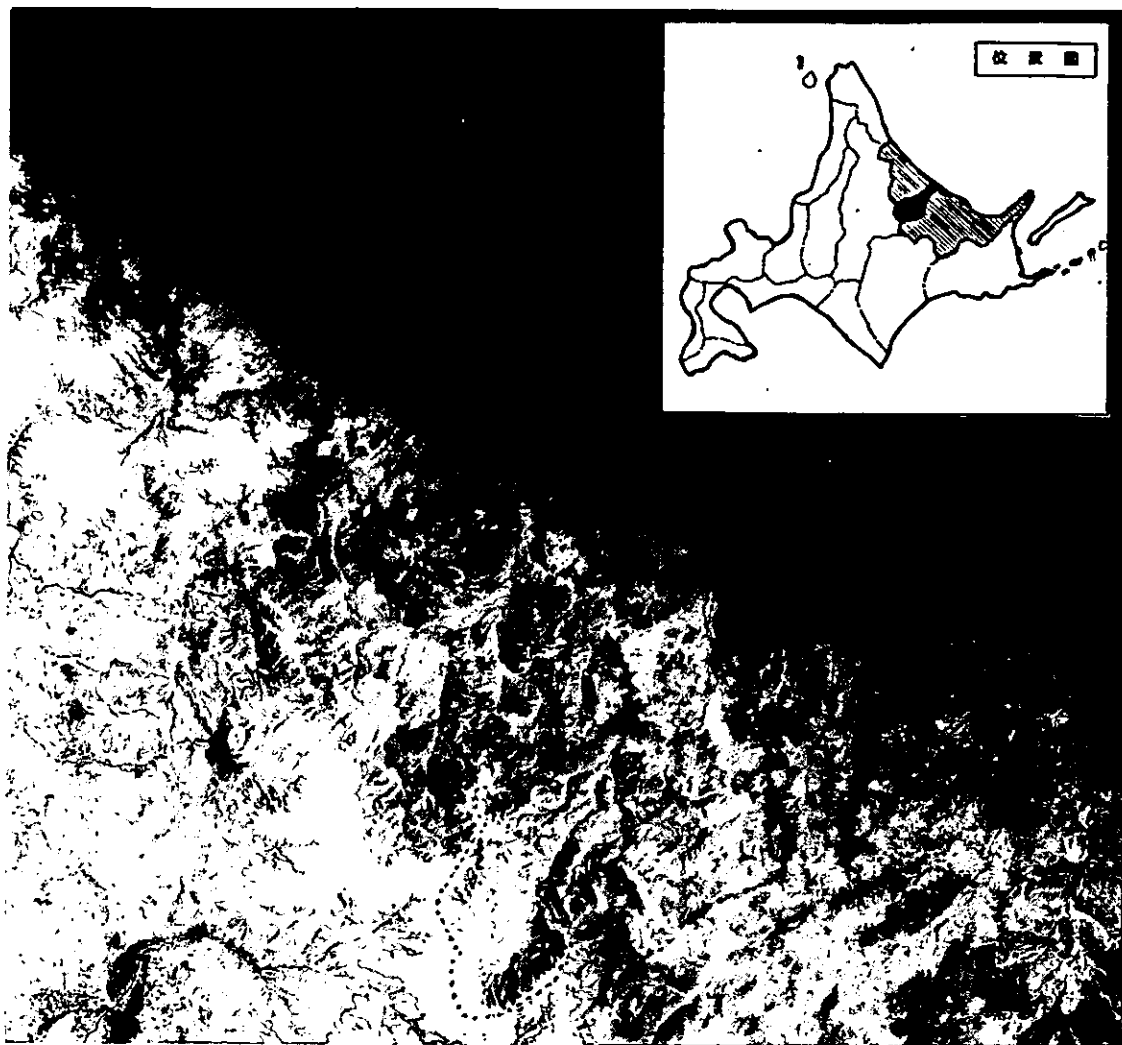
志野忠志



## 1. 湧別川流域の歴史的背景

### (1) 概 要

湧別川流域は北海道東部網走支庁紋別郡に分布し、オホーツク海に面している。この川の流域は年較差の大きな気温、冬の酷寒・凍結・流氷の接岸、夏の干害・風害・冷害などの厳しい気候下であり、この流域の自然はその影響下で形成されて来た。即ち、氷河の影響、土壌のポドソル化作用及び構造



写真は、人口衛星から撮影したものである。山頂周辺の白い輝きは冠雪していることを示す。

土の形成、冷帯ないし亜寒帯の植生・生物相などこの流域は自然的背景において本州の河川流域とはかなり異っている。

(2) 湧別川の名称の由来

湧別川の由来は、アイヌ語のユベ〔鮫〕からと云う説、ユベ・オツ〔蝶鮫・多い〕、イベ・オツ・イ〔魚・豊富・所〕等の表現から来ているとする説がある。又、日本地名辞典ではユーベツ〔滑らかな水が湧く〕から地名が決められたとある。地元では蝶鮫説が知られているようである。

アイヌ名が転訛したものの例として支ユーベツ川がある。現在「支」をあてているが、アイヌ語では〔本流〕又は〔大きい〕の意味をもち、本流とされていた川に支流名があてられてしまった。支湧

年	図 書 名	記 載 名	備 考	
1644年	正保1年	正保御国絵図	ユウベチ・エゾ	幕府に呈上
1665年	寛文5年	松前国蝦夷国	ゆ う べ ち	シヤクシヤインの乱
1712年	正徳2年	和漢三丈国絵	ユ ウ ヘ ツ	
1785年	天明5年	蝦夷島全図	ユ ウ フ ツ	林 子 平
1787年	// 7年	蝦夷図	ユ ウ ヘ チ	古加古 松 軒
1798年	寛政10年	高島～舎利沿岸図	ユ ウ ベ ツ	谷 口 青 山
1800年	// 12年	東西蝦夷地形図	ゆ う へ つ	
1802年	享保2年	蝦夷地図	ユ ウ ブ ツ	近 藤 重 蔵
1858年	安政6年	東西蝦夷山川地理取調図	ユ ウ ヘ ツ	松 浦 武 四 郎



図-14 古地図による地名分布





湧別川流域におけるアイヌの居住は、1670年、シャクシャインの乱に関係して調査された記録（津軽藩）によれば約300人であり、和人の勢力が増大するにつれ、1850年に130人、1870年に80人程度になってしまい、地域共同社会としてのアイヌ集落は明治の初期に消滅した。

#### (4) 開拓期

蝦夷島が詳しく全容を明らかにされたのは1799年の伊能忠敬、1812年の間宮林蔵の測量・調査によってである。「北海道」の名称は1869年、蝦夷地を北海道と改めた際の松浦武四郎の「北海道国郡図」からである。アイヌ語で「カイ」は国の意味であり、松浦は「北加伊」を提案し、その音を採用して「北海道」が決められた。北海道は11ヶ国から成り、北見国は宗谷から斜里の8郡とされた。このように行政区域が制定されたのは1869年に開拓使が設置されてからであり、北海道開拓の機運が盛り上っていた頃であった。しかし開拓使は財政難のため、紋別郡は和歌山藩の支配地となったが、翌年返上され、結局、明治4年全道は開拓使管轄下に入った。

北見国の最初の移民団は開拓使宗谷出張所開設に伴ない竹田判官とともに来た百余名で農耕を旨としたが、真の目的は北辺防衛であった。しかし、浮浪者の寄集めであり、出張所の閉鎖に伴って逃散した。明治4年紋別郡は根室開拓使庁の管轄となり、紋別に病院、網走出張所紋別分局などが開設された。松本判官はこの間の事情を「北見州経験史」に著した。

明治12年紋別に戸長役場が開かれ、その頃には漁業従事者が増加していたが、農業移民は明治15年に初めて和人が農業入植者として湧別に入った。

その頃迄の交通は海上交通の他、アイヌの踏分道である宗谷～斜里間の北海岸道路、釧路からの斜里山道、ロシア兵襲撃事件による釧路から美幌経由の網走山道、根室に至る南海岸通りが開通したが、人馬が通れる程度であった。明治19年着工した中央道路は札幌から旭川を経て湧別川を縦断し、海岸沿いに網走に出る。更に釧路を経由して根室に至る幅員3間の道路の構想は6年間で実現した。この路線は当時の道東へ至る陸路に如何に多くの困難があったかを示している。この工事は旭川～網走を結ぶ区間で特に困難を極め、その困難な状況はこの地方で現在に至ってもなお語りつがれている。現在の網走刑務所はこの工事のためにつくられた。石北国境から網走迄の163kmで238人の犠牲者を出し、鎖塚が点在し、この街道に「囚人道路」の異名がついた。道路の目的は北辺の警備であった。

道路開通により、電信線、駅通が設けられ、明治26年には湧別に初めて4県の団体が移民し、日清戦争で遅れた屯田兵も30年に入って開発が進み始めた。この年湧別戸長役場が設立され人口2,617人を数え、やがて明治39年には湧別村（二級）となり、43年には上湧別村が分村する頃には、管内初の池田～野付牛の鉄道が開通した。このことは大正期の開拓に拍車をかけ、開拓は上流域へと拡がり、耕地は増加し続けた。

一方、鉱業は明治30年代になると金本位制の影響を受け、枝幸地方のゴールドラッシュに刺激されて至る所に鉱区が設定されたが、殆んど長続きしなかった。隣接地域では鴻の舞鉱山が昭和48年迄続き、最盛期人口13,000人を数えた。

現在の主要産業である林業は、屯田兵屋の建設用資材がはじまりであり、当時これなくしては、地の利の劣るこの地方の林業は芽が出なかったであろう。鉄道の開通とともに製袖工場等の建設が行われ、大正に入ると木材の搬出は急激に伸びた。湧別川を利用して流送搬出したものである。



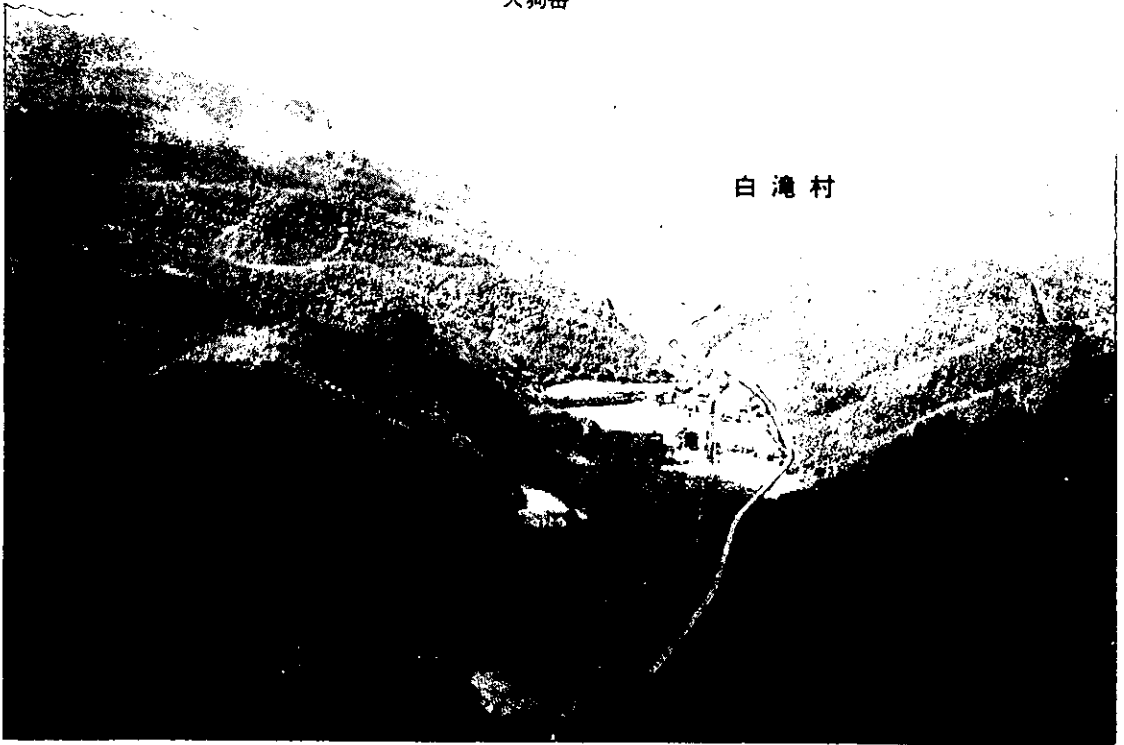
入植当初の開拓風景（大正7年上武利三重団体）

## 2. 流域の特性及び現況

### (1) 流域の概況

湧別川はその源を、北見、石狩の分水嶺をなす天狗岳に発し、白滝村、丸瀬布町で溪谷をなし、支湧別川、武利川、丸瀬布川を合せ遠軽町の平野部にて、生田原町を貫流する生田原川を合流する遠軽付近では幅3kmの沖積地を形成している。さらにサナフチ川合流後は上湧別町、湧別町を流れ、オホーツク海に注いでいる。下湧別の河口はラグーン状(干潟状)になっている。

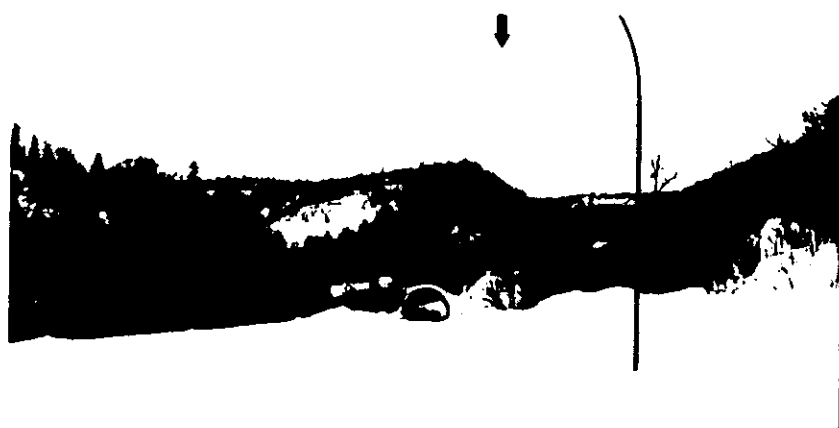
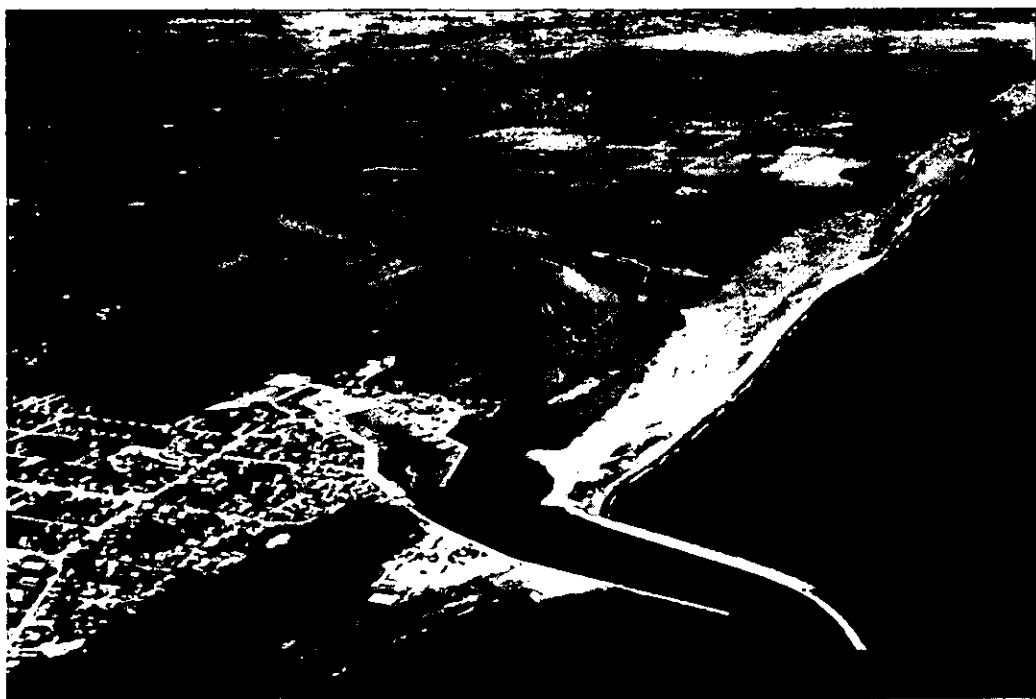
天狗岳



白滝村

湧別川上流

幹川流路延長は87km，流域面積1,480km<sup>2</sup>のオホーツク海沿岸第2位の流域面積を有する河川である。  
屯田兵入地でも分るように，古くから重要視され，網走管内への陸路の入口でもあった。



石北トンネル前付近

## (2) 地 形

湧別川流域は全体として支庁界にある源流からオホーツク海に向けて傾斜している。流域の大部分は山地丘陵地であり、低地は山地の谷底平野と最下流部に分布するのみである。

### 1) 天狗岳火山地

大雪火山群の東縁に当たり、安山岩質熔岩および集塊岩からなる洪積世火山の天狗岳（1,561 m）平山（1,775 m）の両大起伏山地を中心とした狭小な火山地である。なお、平山の山頂付近には現世構造土が発達する。

### 2) 支湧別山地

この山地は湧別川・生田原川・無加川などに囲まれ、面積的に広大な地形区をなす。大起伏山地には支庁界に位置した安山岩の武利岳（1,876 m）・武華山（1,758 m）、副分水嶺をなす日高層群の支湧別岳（1,687 m）、無加川沿岸に形成された流紋岩の北見富士（1,291 m）があり、とくに日高層群で構成された支湧別岳とその北辺の中起伏山地とは、北見山地の中でも壮年の山地形を呈し、最も急峻な山岳地域である。武利川以東の高度750～1,200 mの中起伏山地は流紋岩と新第三系で構成されているが、その一部に地形分類図には図示していないが、開折の進んだ玄武岩台地が分布する。この山地地形区の北半部は熔結凝灰岩からなる高度600～800 mの小起伏山地があり、その中央部には瀬戸瀬山（900 m）の中起伏山地が孤立する。また、支湧別岳の北部の小起伏山地には岩石台地状の緩斜面が発達する。

### 3) 生田原山地

上記、支湧別山地の東部に位置し、生田原川と隔てられた南北に細長い500～700 m級の小起伏山地である。この北半部は日高層群、南半部は新第三系の凝灰岩や安山岩でそれぞれ構成されている。

### 4) 遠軽丘陵地

この狭小な丘陵地は鴻ノ舞山地の東縁にあって、湧別川およびその支流によって開折され、社名湧原野の呼称があり、谷底平野が発達する。丘陵はおよそ海拔250～370 mの高度にある。

### 5) 佐呂間丘陵地

日高層群の湧別層からなるこの丘陵は、生田原山地と仁頃山地とにはさまれた形でサロマ湖の南部に分布し、佐呂間別川や芭露川などの小河川の谷底平野の発達によって、低位～中位段丘群を伴う断裂的丘陵地を呈する。

### 6) 白滝台地

湧別川上流と支流の支湧別川とにはさまれた三角状の白滝盆地には、段丘面と周水河性緩斜面とが見事に発達している。便宜上、かなりの広さを有する緩斜面を台地面の一部に加えた分類基準に

よって岩石台地上位面（海拔高度 650 m）・同中位面（500～600 m）に区分した。他方、砂礫台地は上位面（500 m前後）・中位面（450 m前後）・下位面（390～420 m）の各段丘に区分される。天狗平は岩石台地中位面に当たる。

#### 7) 湧別低地

湧別川下流の扇状地性低地、コムケ湖・シブノツナイ湖周辺の三角州性低地、及び海岸砂丘と砂州などからなる。扇状地性低地は一般にわずかな隆起運動を伴っているが、低地として遠軽市街までの河谷平野を区分した。上湧別市街の部分では勾配が 4 / 1,000 で、幅員が約 3.5 km におよび、当地域の扇状地性低地の中では最大規模である。コムケ湖は大部分が水深 2 m 以下で周辺に低湿地が多く、融雪期には周囲に氾濫する。湾口砂州は幅狭く、その上に厚さ 3～5 m の風成砂を載せている。（20 万分の 1 土地分類調査より）

### (3) 地 質

北海道は地質構造から見て東日本の延長部に考えられる西南部、中央南端の襟裳岬から樺太へと連なる中央部、そして、千島列島に連なる東部に大別される。

湧別川はこの北海道東部の北側にあつて南西から北東に分布する。

湧別川流域における地質の構成は海岸沿いに沖積層が堆積して低地を形成し、海岸沿いの台地には砂礫がかぶっている。沖積層、洪積層は更に河谷沿いに内陸山地にのび、谷底平野を形成している。

丘陵及び山地には、渚滑川から続く粘板岩が上流域山地に広く分布している。粘板岩地域を覆って火山噴出物が丸瀬布から上流域に分布する。火山岩類（安山岩、凝灰岩、流紋岩等）は丘陵地（遠軽付近）から山地迄分布する。最上流域の支庁界付近に安山岩が分布する。

花崗岩などの深成岩類は最上流域山地に分布する。（図-19）

### (4) 土 壤

高山地はポドゾル、褐色森林土のポドゾル化土壌で川成りに褐色低地土、そして灰色低地土を除けば、流域の大半を礫質かつ強酸性の褐色森林土(Ⅱ)が占め、生産性の低い土壌となっている。

しかし、平坦部は排水のよい褐色低地土が主で、甜菜、馬鈴薯などの畑作物が栽培されている。

一般によく使われる土壌の用語については、渚滑川の土壌の項を参照せられたい。（図-20）

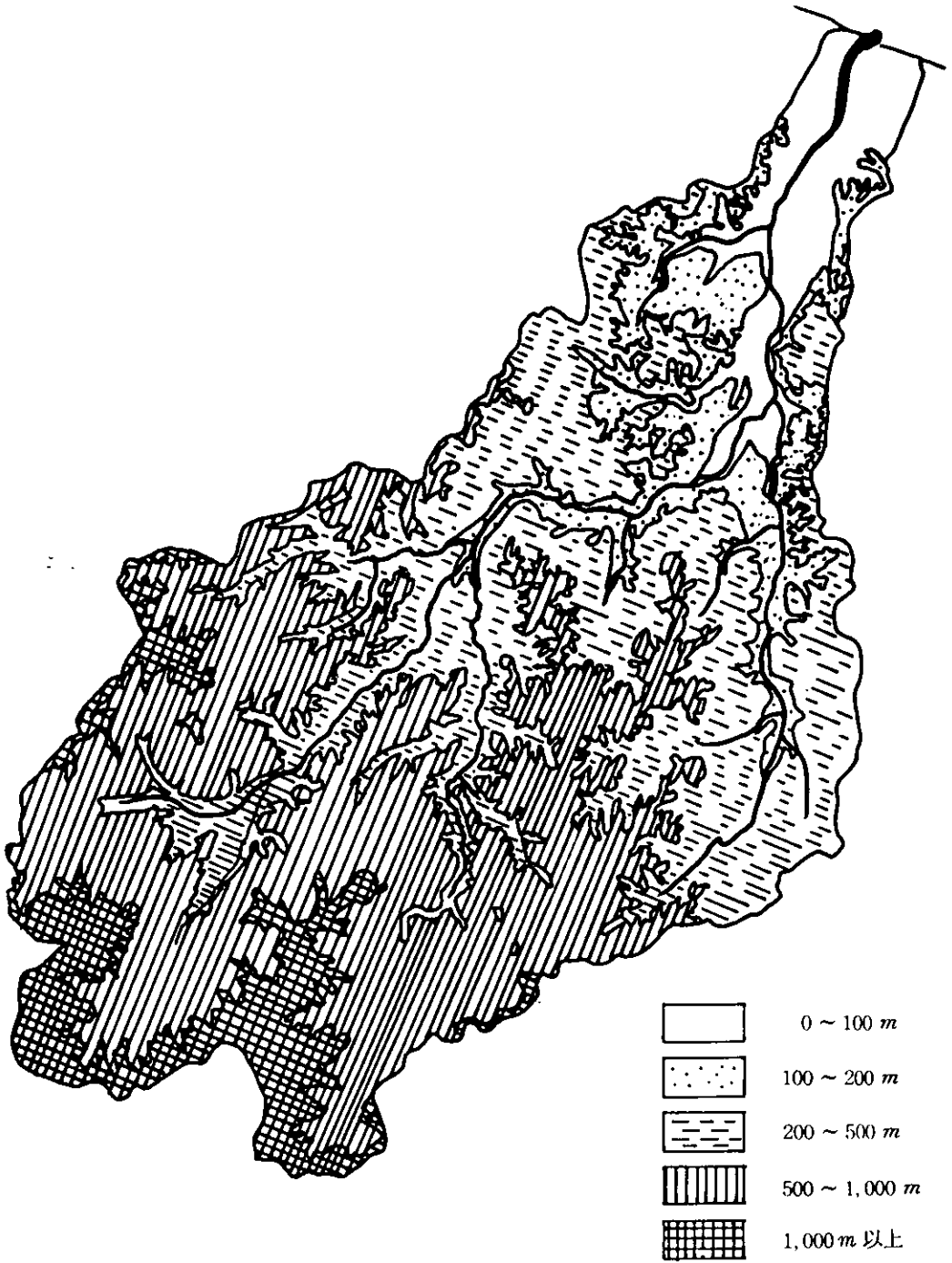


图-16 标高区分图

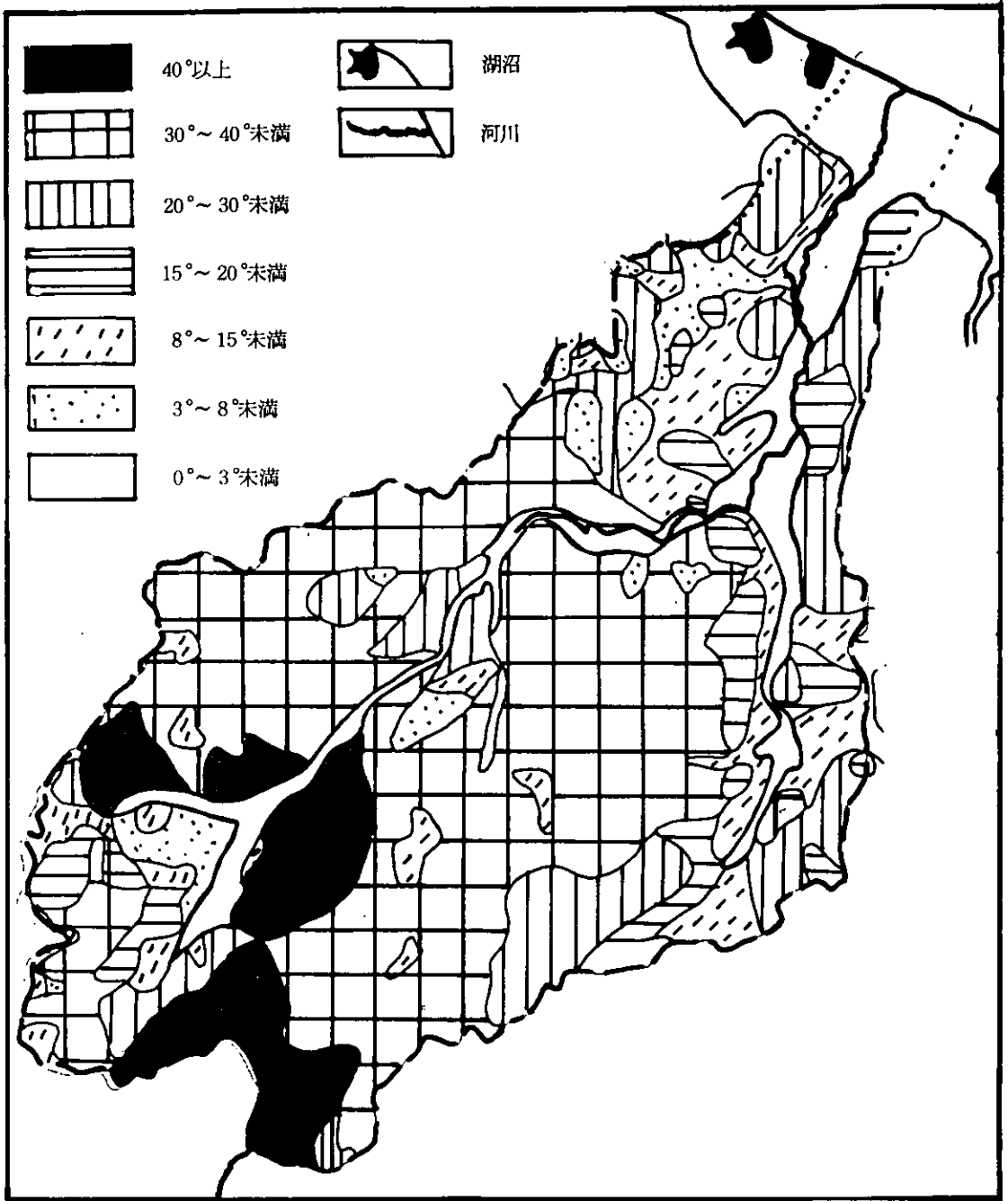


图-17 傾斜分布



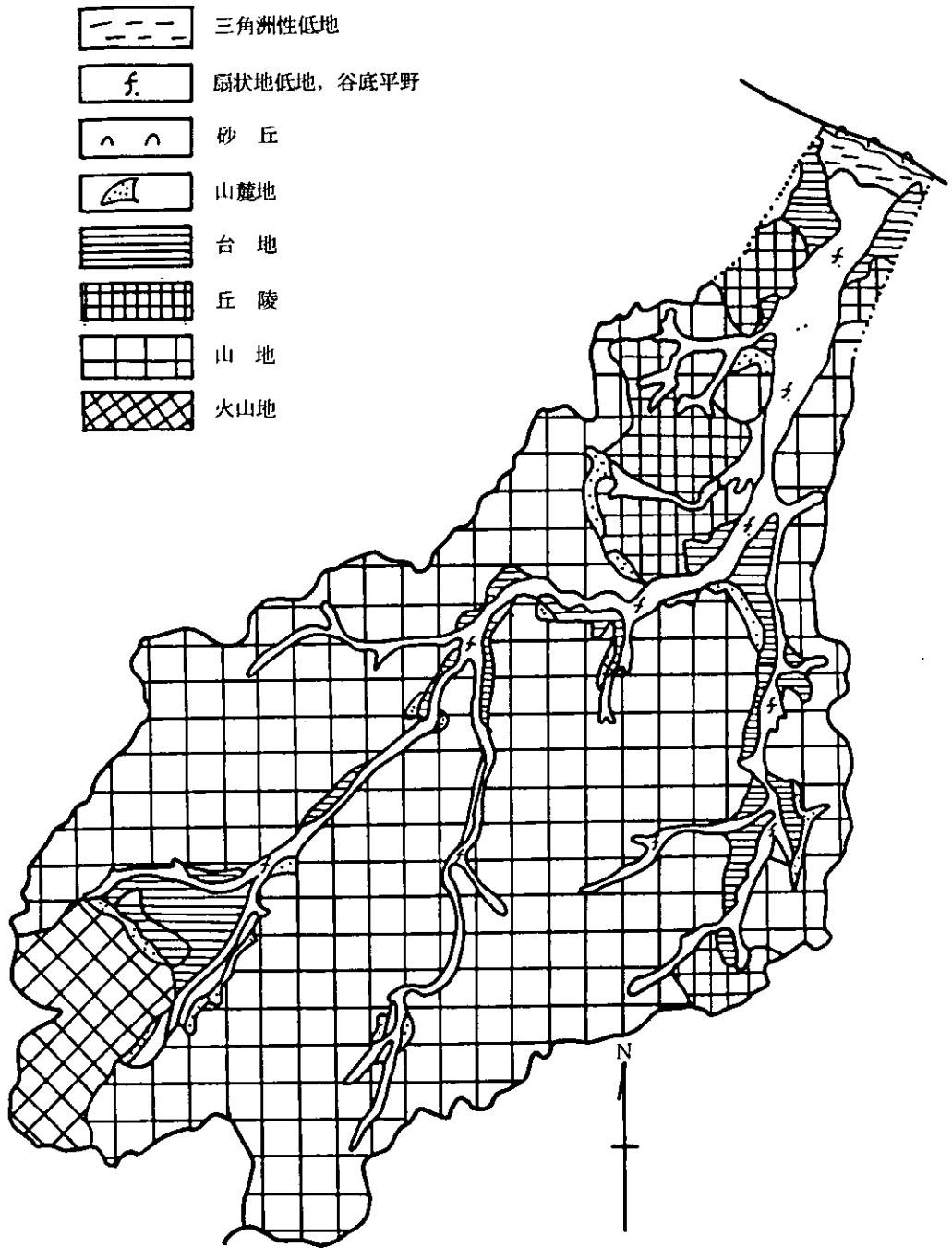


图-18 地形分類图

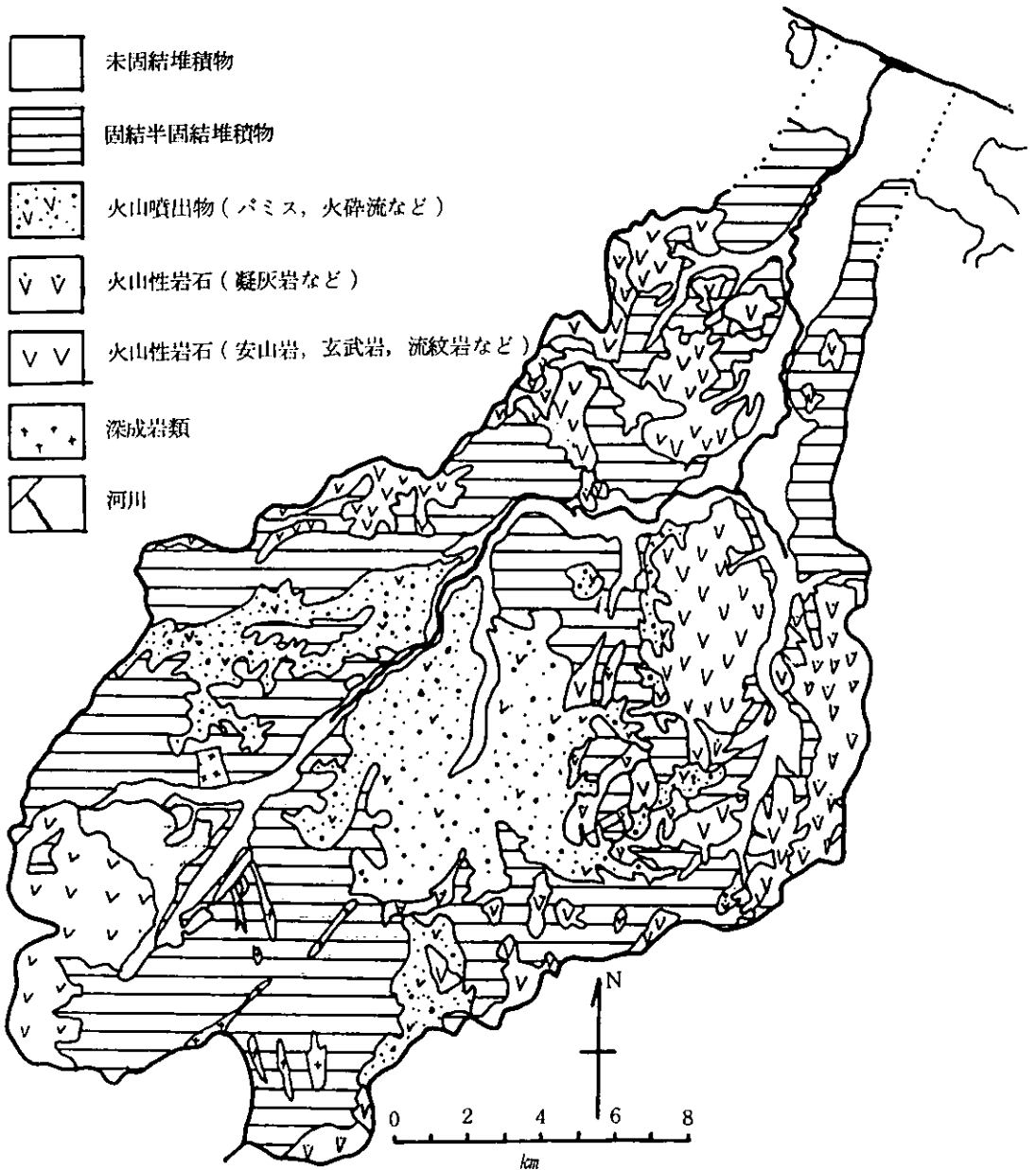


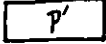
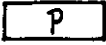



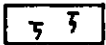
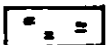


図-19 地層地質分布図

-  砂丘砂
-  褐色森林土
-  ポドソル化作用をうけた褐色森林土
-  ポドソル
-  赤黄色土
-  褐色低地土
-  灰色低地土
-  グライ土
-  泥炭

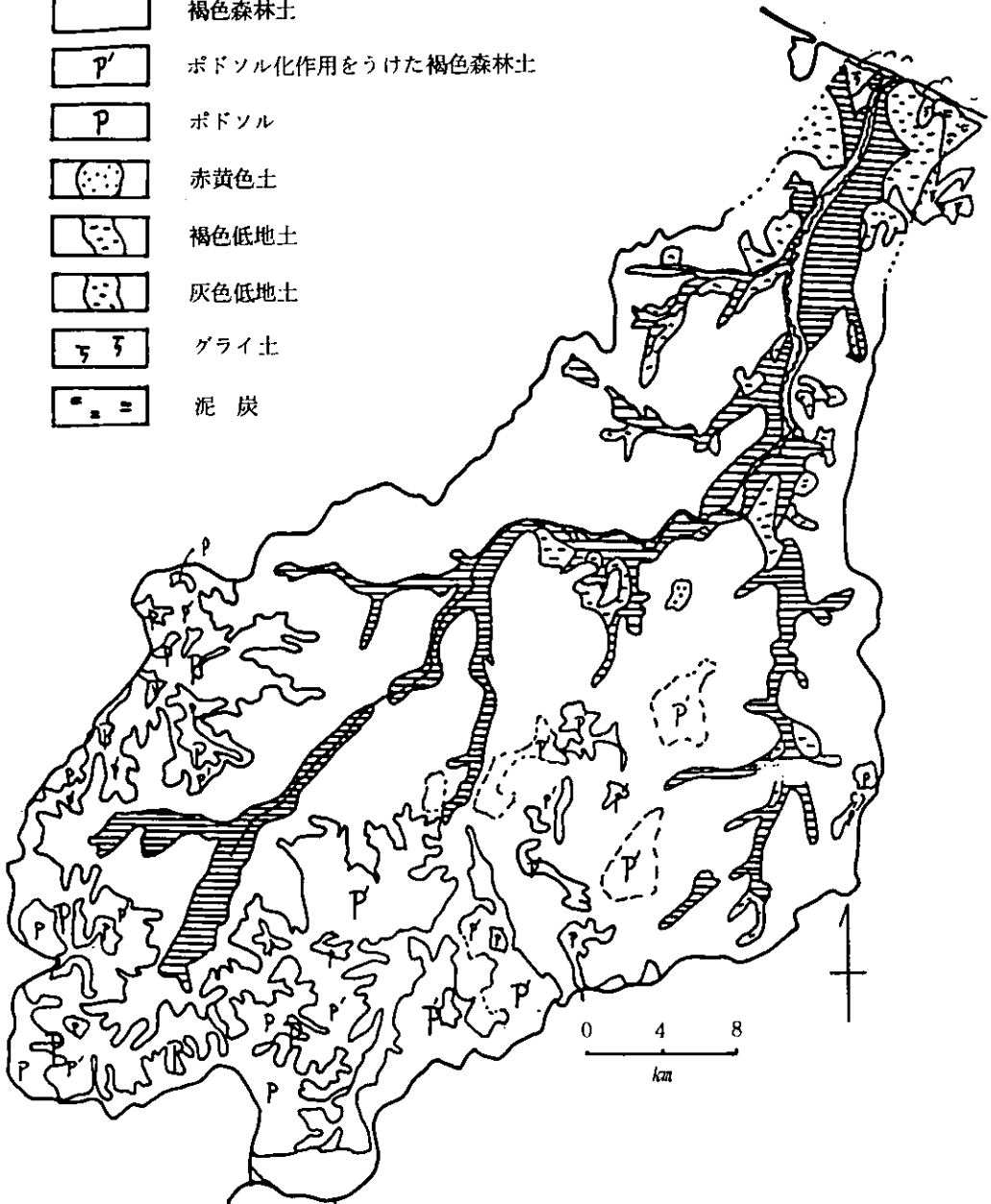


図-20 土 壤 分 布 図

### (3) 気 象

オホーツク沿岸は概して道内では温和な気候と云える。

気温は道内平均より少し低い程度で、雨は最も少く、日照時間が多いことが特徴である。

しかし、流域は標高1,000 m以上の高地から0 mの海岸と標高差もあり、それぞれの位置により変化があり、平均気温、湿度については上流にいくほど低くなる傾向を示し、反対に降水量は多くなる等の気候上の特徴が見られる。

また、流氷接岸により下流部では寒さが激しくなる。

図一 21 年平均気温分布図(℃)

(1966 ~ 1975)



図一 22 年間日照時間分布図(100 h)



表-23 湧別川流域の気象表

昭和41～50年

事項	位置	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月	全年
気 最低	上	-15.0	-14.9	-9.8	-1.8	4.2	8.4	13.4	14.2	8.4	2.3	-3.4	-10.4	-0.4
	中	-15.1	-15.5	-9.4	-1.0	4.8	9.1	13.9	15.1	9.7	3.1	-2.9	-10.6	0.1
	下	-12.8	-13.3	-7.9	-0.1	5.2	9.1	13.8	15.4	10.9	4.6	-1.6	-9.7	1.1
温 最高	上	-4.0	-3.2	1.4	9.7	17.3	21.4	25.0	25.1	19.9	13.4	5.1	-2.0	10.8
	中	-2.7	-2.3	2.6	11.2	18.0	20.9	24.6	25.2	21.0	15.0	7.1	0.1	11.7
	下	-2.7	-2.8	1.8	10.4	16.4	18.8	22.6	24.1	10.6	14.8	7.0	0.1	10.9
(°C) 平均	上	-9.5	-9.0	-4.2	4.0	10.8	14.9	19.2	19.5	14.2	7.9	0.9	-6.1	5.2
	中	-8.9	-8.9	-3.4	5.2	16.4	15.0	19.3	20.2	15.3	9.0	2.1	-5.2	5.9
	下	-7.8	-8.0	-3.0	5.2	10.8	13.9	18.2	19.8	15.7	9.7	2.8	-4.5	6.1
湿 度 (%)	上	55	52	48	39	41	46	51	50	46	46	50	54	48
	中	54	53	46	41	45	53	58	58	50	46	48	49	50
	下													
降 水 量 (mm)	上	73	54	69	39	60	77	86	144	111	94	89	85	981
	中	106	59	77	42	67	79	70	125	110	92	64	47	938
	下	78	45	53	35	68	75	72	100	98	92	64	36	816
日 照 時 間	上	139	158	245	247	240	231	229	207	188	153	107	105	2,249
	中	142	175	244	224	210	214	198	176	177	154	119	122	2,155
	下	142	177	252	223	219	206	209	207	194	168	130	132	2,259
平均風速 (m/s)	上	2.2	2.3	2.5	2.9	2.7	2.0	2.0	2.0	1.8	2.0	2.4	2.4	2.3
	中	2.0	2.0	2.1	2.9	2.4	2.1	1.9	1.7	2.0	2.0	2.0	1.9	2.1
	下	3.6	3.3	3.3	3.5	3.1	2.6	1.9	2.0	2.9	3.0	3.4	3.3	3.0
最 多 風 向	上	SW			SW			E			SW			
	中	SW			SW			NE			SW			
	下	S			NW			NE ~N			S			

位置;上流点 白滝, 中流点 遠軽, 下流点 湧別

(4) 水 文

流域はオホーツク海沿岸の寡雨地域であり、それに伴ない流況も小さい。

遠軽観測所での10ヶ年平均値(昭和46年~昭和55年迄)は、26.45 m<sup>3</sup>/sである。

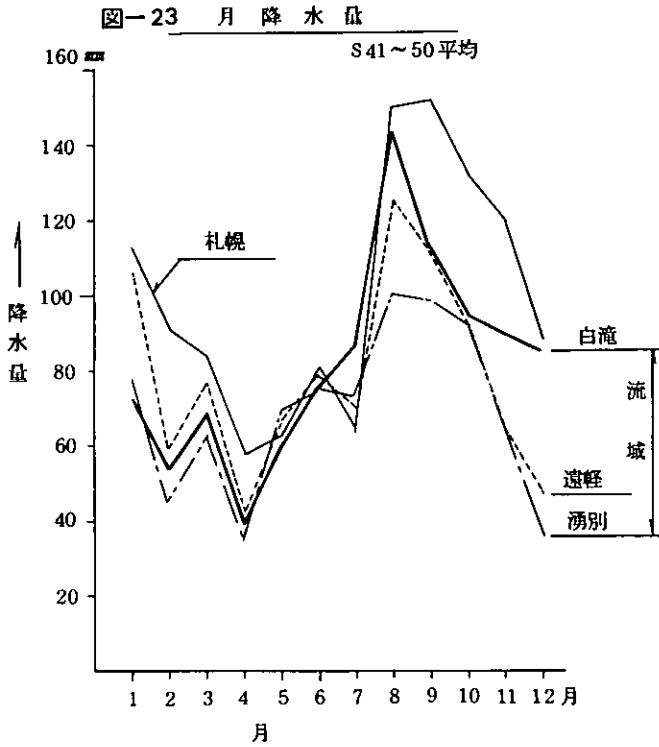
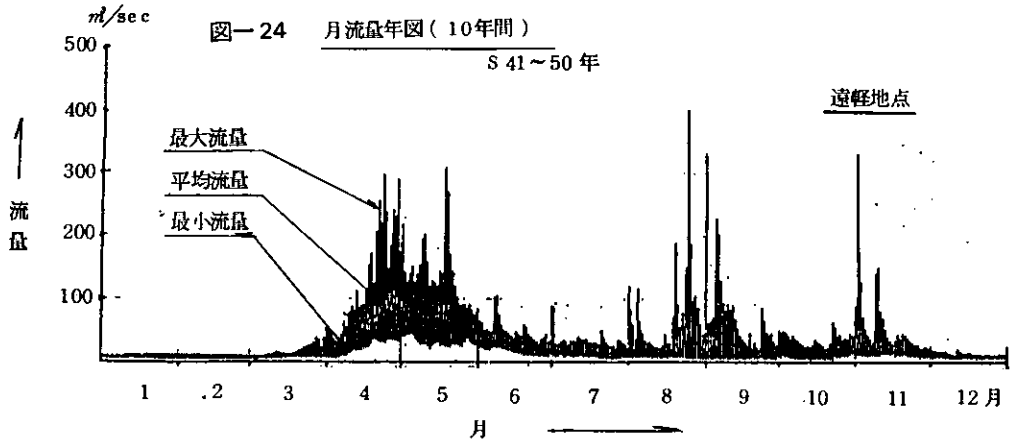


表-24 流 況 表

単位 m<sup>3</sup>/sec

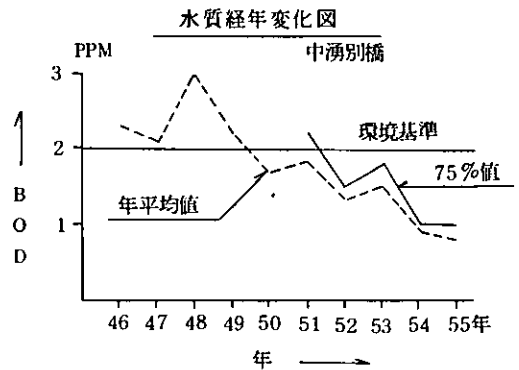
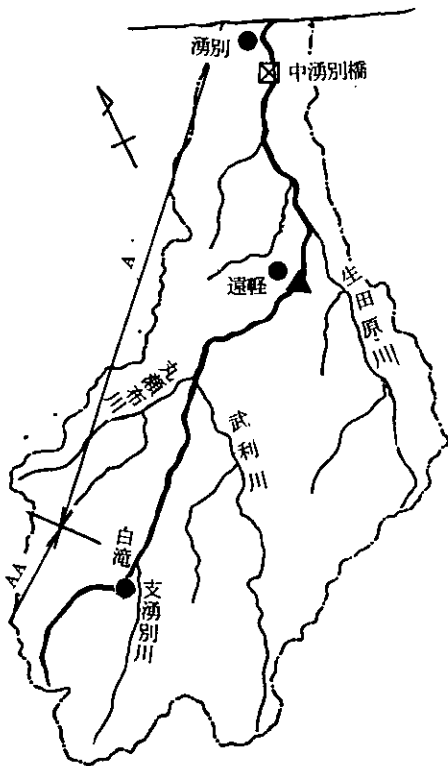
年度	項目	最 大	豊 水		低 水		湯 水	
			95 日	185 日	275 日	355 日	最 小	年 平 均
46		445.76	31.22	21.48	15.50	10.48	8.90	24.86
47		247.17	23.40	14.50	8.61	6.38	5.35	22.38
48		353.84	38.20	17.15	9.82	7.62	7.62	36.18
49		213.06	29.18	17.91	10.02	7.73	6.06	26.60
50		565.46	40.51	23.94	12.36	6.37	5.46	39.07
51		98.87	22.20	12.00	9.52	8.07	7.70	20.24
52		219.01	18.61	10.80	8.76	6.24	3.29	22.71
53		192.65	18.91	12.94	8.48	5.89	5.43	21.67
54		248.01	31.50	18.72	10.69	7.04	5.96	28.00
55		130.82	24.22	16.11	10.90	7.66	5.75	22.83
平 均		271.47	27.80	16.56	10.47	7.35	6.15	26.45
比 流 量		0.236	0.024	0.014	0.009	0.006	0.005	0.023

観測所名 遠軽流量観測所



④ 水質

河川の水質は昭和47年に環境基準が設定された後、48年をピークに年々改良傾向が続き、現在は基準値の半分以下となっている。



図一25 水質経年変化及び観測地点索引図

図-26 年降水量分布図 (mm)  
( 1966 ~ 1975 )

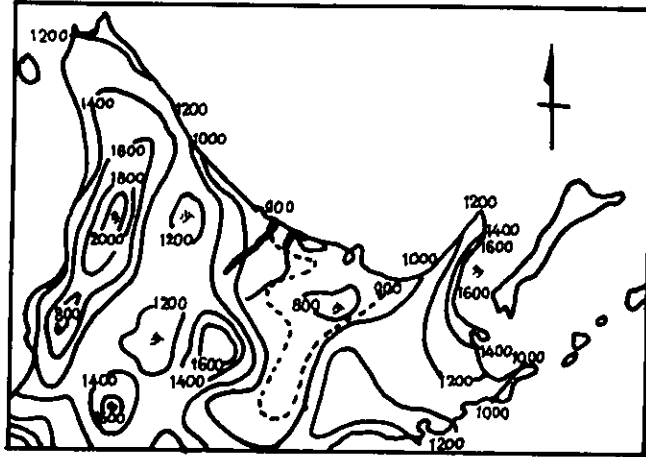
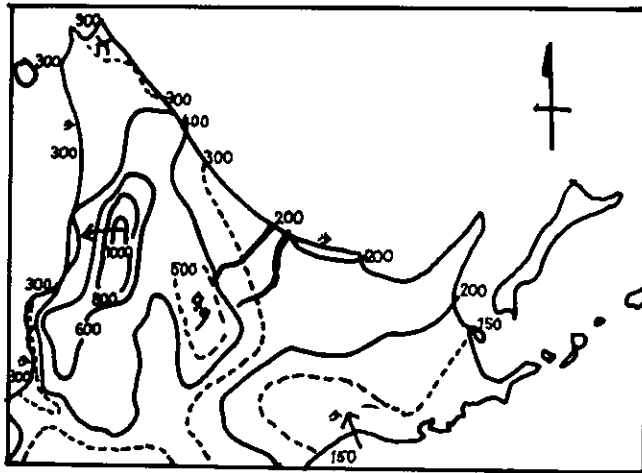


図-27 降雪の深さの年合計値分布図 (cm)  
( 1966 ~ 1975 )



### (5) 林 相

湧別川流域は林業が盛んで、森林面積は流域の80%に近い。

しかし、一昔前は天然林がその90%以上を占めていたが、現在では70%を僅かに超える程度となっている。かわって人工林が大幅に増え、そのほとんどがカラマツである。

樹種は天然林ではトドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ等の針葉樹とミズナラ、シナ、イタヤ、カンバ、ニレ、カツラ、セン等の広葉樹である。



垂直分布は標高1,500 m以上はハイマツ帯で1,500 m～1,200 mは森林限界でダケカンバ林となり、次第に針葉樹、針広混交林となっている。

### 3. 流域の社会条件

#### (1) 面積及び人口・戸数

湧別川の流域面積は1,480 km<sup>2</sup>で下流の2町が流域外に及んでいる。

明治39年に戸長役場が開設され人口は増加してきたが、昭和30年代に入り都市部へ流出し、遠軽町の他は減少傾向が続いている。また、世帯数は14,063世帯で、昭和30年の1世帯55人から3.2人と1世帯当りの人員数が減少し核家族化が進み、世帯数が増加したが現在は横這いである。

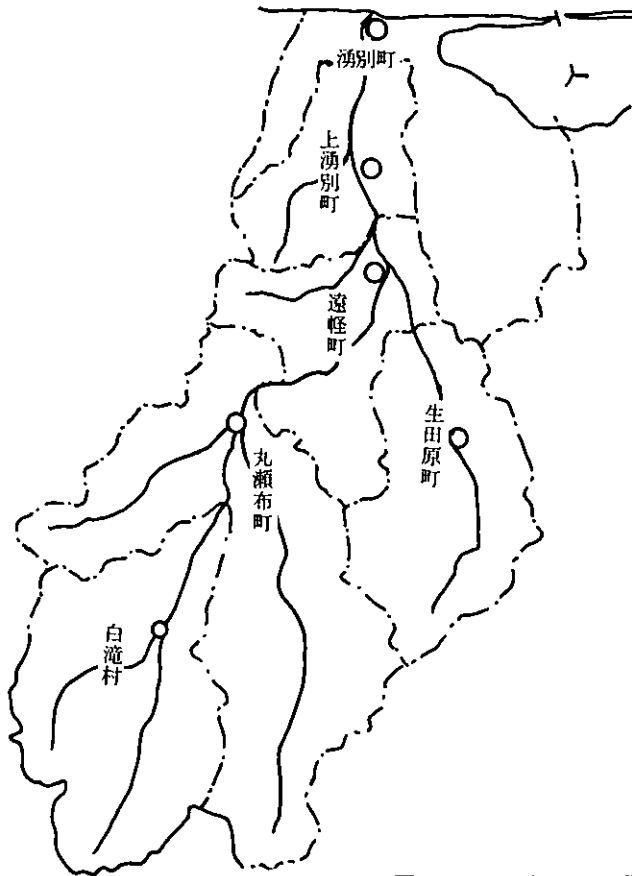


図-28 索引 図

表一25 流域町村人口推移表

	湧別町	上湧別町	遠軽町	丸瀬布町	白滝村	生田原町	合計
明治30年	31戸長役場 2,617						2,617人
" 35							
" 40	39村 9,402						9,402
" 45	④ 4,256	43村 7,093					11,349
大正 5	7,171						
" 10	8,945	7,114	8村 17,492				33,551
" 15	10,138	6,984	12,313			14村 4,767	34,202
昭和 5	10,416	7,986	15,501			4,918	38,821
" 10	12,127	8,463	9町 17,878			6,131	44,599
" 15		8,628	19,292			9,371	49,127
" 20	11,995	9,771	24,049			7,442	53,257
" 25	14,747	10,758	16,026	21村 7,288	21村 4,371	8,160	61,350
" 30	28町 13,719	28町 11,354	18,082	28町 7,800	4,664	29町 8,066	63,665
" 35	12,192	10,792	19,177	7,746	4,797	7,035	61,739
" 40	9,720	10,200	20,346	6,611	4,108	5,851	56,836
" 45	7,627	9,292	20,458	5,045	2,941	4,886	50,249
" 50	6,693	8,324	20,354	3,922	2,367	4,142	45,802
" 51	6,762	8,552	20,462	4,038	2,336	4,207	46,357
" 52	6,730	8,508	20,707	3,950	2,280	4,136	46,311
" 53	6,654	8,382	20,951	3,812	2,261	4,154	46,214
" 54	6,509	8,255	21,034	3,734	2,210	4,062	45,804
" 55	6,193	8,133	21,057	3,424	2,099	3,848	44,754
人口密度	18.1	50.5	100.8	6.7	6.2	14.4	24.4
	一部外流域外	一部流域外					
面積	343	161	209	514	341	268	1,836 km <sup>2</sup>

(2) 土地利用

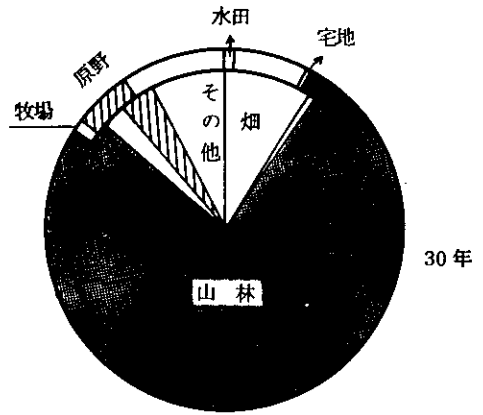
流域の土地利用は、人口が減少しているにもかかわらず、畑、牧場、山林等が漸増している。

(3) 産 業

産業は農業、酪農、林業、漁業の第1次産業が主であり、工業はこれらの加工産業等である。

農業はとうもろこし、小麦、甜菜、ばれいしょ、アスパラガス等が主である。

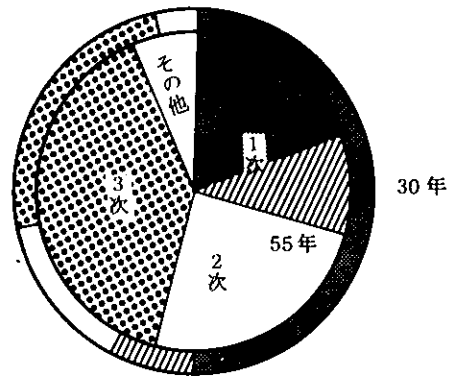
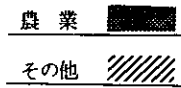
漁業は、ほっけ、さけ等の魚類とほたて貝等である。



図一 29 地目別割合

図一 30 産業別就業者分類

但し1次産業は



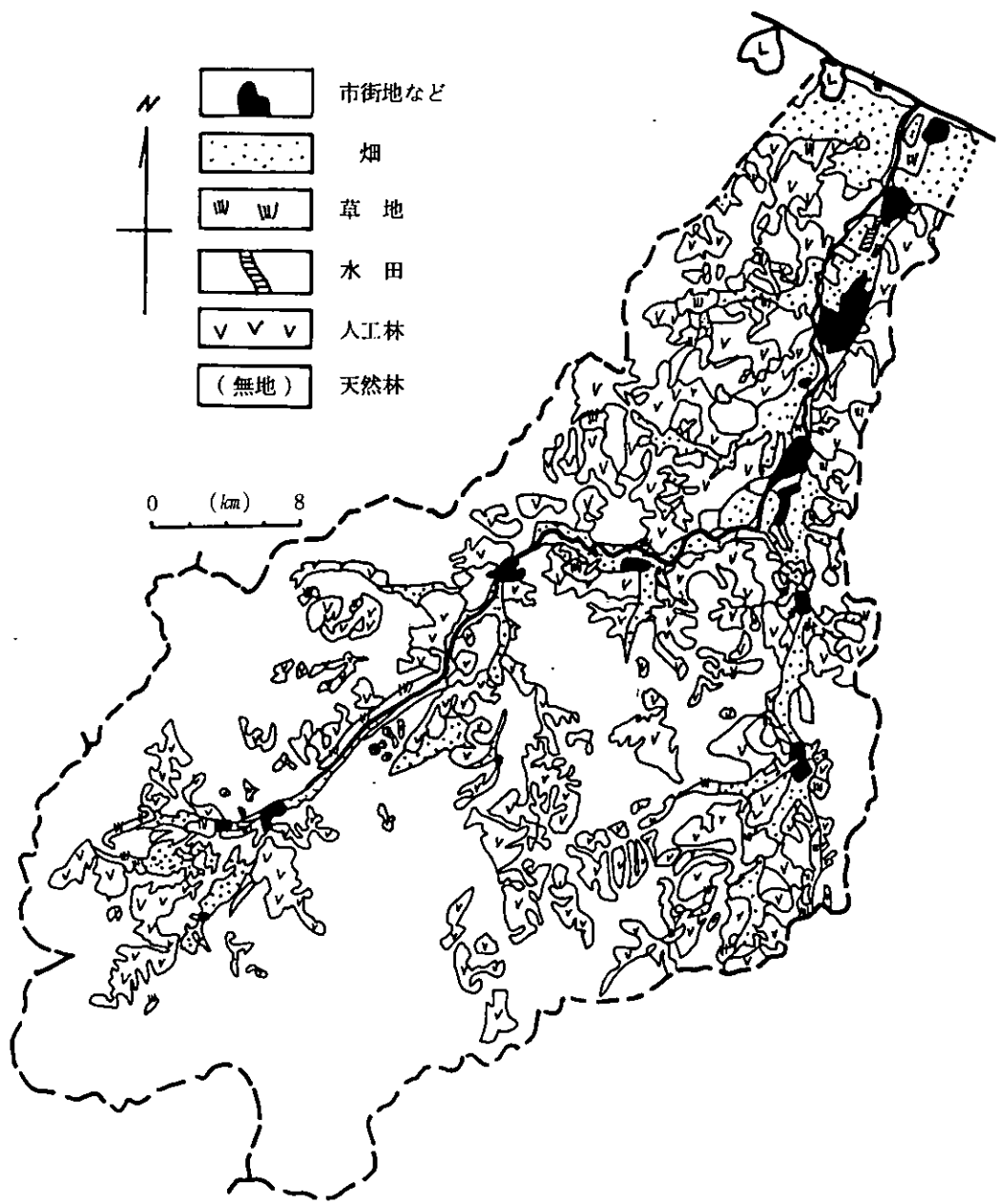


图-31 土地利用分布图

(4) 河川の利用

湧別川流域の降水量は4ヶ所単純平均で年平均(20ヶ年)850.8mmである。これは我が国の中では最も少ないグループに入る。然も冬期は凍結するので、実質的には冬期の河川水利用は限られてくる。流量観測所の記録から年間流出高は560~1,200mmであり、平均800mm程度となっている。

河川水の利用では、農業用取水口(7ヶ所)、排水口(12ヶ所)、水道用取水口(7ヶ所)、工業用取水口(2ヶ所)、工業用排水口(3ヶ所)の他、ダム3ヶ所等の利用がなされている。

表-26 水利権集計表

(m<sup>3</sup>/s)

河川 番号	河川名	区間区分	上水道		鉱工業		農 業		発 電		そ の 他		計	
			件数	取水量	件数	取水量	件数	取水量	件数	取水量	件数	取水量	件数	取水量
1	湧 別 川	指定区間外					1	1.1980			2	0.0189	3	1.2169
		指定区間	1	0.081			1	0.4741	3	23.96			5	24.5151
		小 計	1	0.081			2	1.6721	3	23.96	2	0.0189	8	25.732
2	中士別川	指定区間	1	0.0063								1	0.0063	
5	サナフチ川	〃					8	0.2941				8	0.2941	
6	生田原川	〃					3	0.5752			1	0.1333	4	0.7085
8	ウラシマナイ川	〃			1	0.0075	1	0.0610					2	0.0685
10	武 利 川	〃							1	25.6			1	25.6
11	丸瀬布川	〃	1	0.0078									1	0.0078
計		指定区間外					1	1.1980			2	0.0189	3	1.2169
		指定区間	3	0.0951	1	0.0075	13	1.4044	4	49.56	1	0.1333	22	51.2003
		計	3	0.0951	1	0.0075	14	2.6024	4	49.56	3	0.1522	25	52.4172

河川敷は主に牧草地として利用されてきたが、最近運動施設も増えてきた。

表-27 河川敷利用状況

昭和56年3月31日現在(ha)

畑	牧草地	公 園	運 動 場	自動車練習場	そ の 他	計
8.6	123.3	5.6	9.5	4.2	24.2	175.4

## 4. 災 害 史

(1) 湧別川は古来洪水、乱流が繰り返され、なすすべも無く、人々は逃げまどうだけであり、洪水はアイヌ、和人を問わず人々を恐れさせた。

異郷の地で一夜にして泥海化した畑を見る開拓者の心境は、想像を絶するものがある。

洪水を大別すると、①融雪期と低気圧に伴う豪雨と重なるもの、②台風によるもの、③低気圧による場合があり、本川流域ではいずれの洪水も経験している。

この洪水を防ぐ解決策として、蛇行した河道を直線化し、流速を早め、水位の低下を行い、堤防で流過能力を増大させるものとし、昭和初期から新水路掘削、築堤工事が行なわれた。現在は、かつてのような水害は殆んど見られず、先人の苦勞を知る人も少なくなった。

(2) 1) 明治 31 年 9 月 7 日

春らしい雨が多く 2 日から降りつづいた雨は 6 日夜半から 7 日にかけて、全道に大洪水をもたらした。

湧別川も 7 日の午後急激に洪水が押し寄せ、遠軽の増水は 4.6 m に及んだといわれ、学田農場の大半 1,500 ha を泥海と化し、開拓小屋 20 余戸を押し流し、2 人を溺死させた。

2) 大正 2 年 5 月

融雪出水で 7 日間も湛水し、197 ha の畑が水に浸る。

3) 大正 4 年 4 月 28 日

融雪出水で橋梁 6 ケ所、畑 120 ha が流失し、413 ha が水に浸る。また、5 月には 1 人が溺死している。

4) 大正 7 年 8 月 13 日

水死 1 名

5) 大正 11 年 8 月 24 日

20 日から降雨がつづき、24 日に台風による豪雨が加わったため、道東部を中心とした大水害となった。

遠軽は 4.5 m の増水で、8 人が濁流に吞まれ、23.78 ha が浸水し、被害金額は 90 万円を超えた。

表一28 . 水 害 額

( 単位 : 円 )

明 治 42 年	明 治 43 年	明 治 44 年	明 治 元 年	大 正 2 年
18,170		2,713	10,880	4,963
大 正 3 年	大 正 4 年	大 正 5 年	大 正 6 年	大 正 7 年
815	44,230	37,270	11,164	55,939
大 正 8 年	大 正 9 年	大 正 10 年	大 正 11 年	大 正 12 年
266,567	755,762	7,660	927,789	14,920

この洪水は後の昭和7年の洪水と共に改修計画に大きく影響している。

6) 昭和7年9月6日

被害額30万9千円の大洪水となる。

7) 昭和10年9月26日

8月29日洪水から1ケ月も経たないうちに台風の襲来で家屋・田畑の流失があった。

その後も昭和23, 24, 28年と大きな融雪出水があり、橋梁がその度に流失する等の被害を受けたが、河川改修が進んだ昭和40年代に入ると被害は大幅に減り、昭和56年洪水でも河口付近の湧別町市街の浸水にとどまっている。

8) 最近の二度の被害

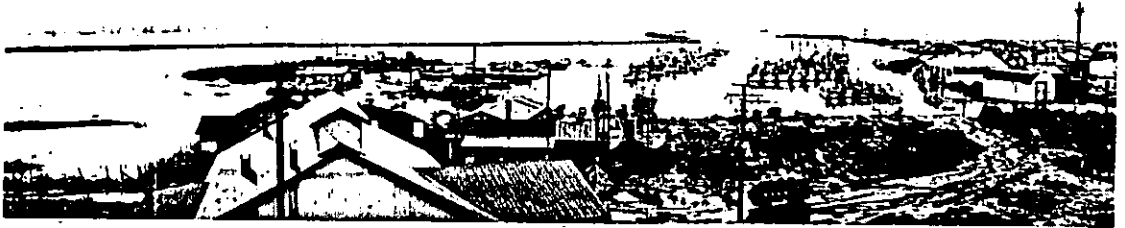
① 昭和50年8月23日

▼湧別川左岸 遠軽町市街住宅地の氾濫浸水状況(撮影23日10h)



㊤ 昭和56年8月6日

▼湧別川河口の増水状況（湧別町湧別漁港）

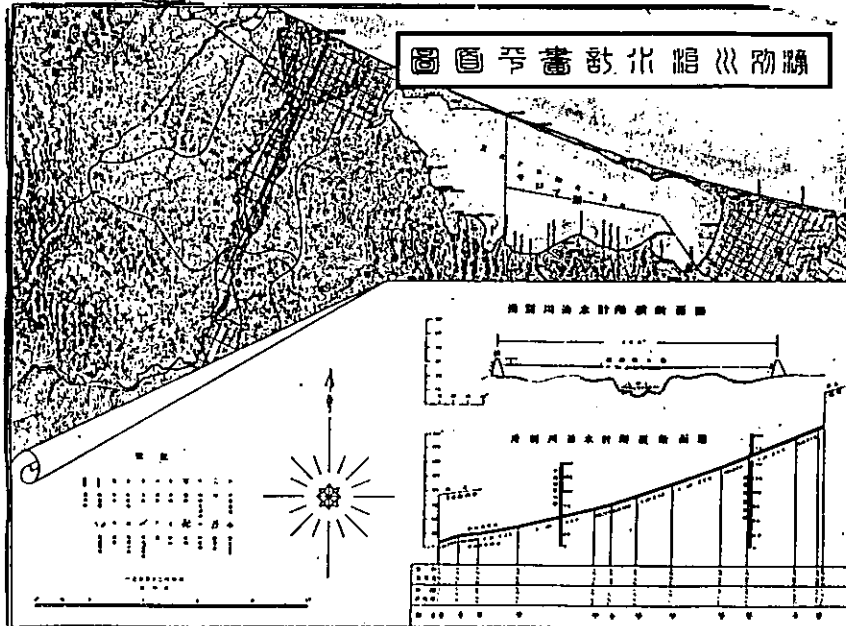


## 5. 治 水

湧別川流域における水害は頻繁にして、かつ開拓民を悲惨な状況に追込むため、この地域の農民にとって重大な問題であった。明治31年は春から雨が多く9月に未曾有の大洪水となり、全道で248人の死者を出す等多大な被害をもたらし北海道開拓に障害となった。

このため翌年、石狩川を初めとし重要26川の河川調査が行われた。

湧別川も大正4年から水位、雨量観測量等が実施され、大正8年に治水計画が立案されたが財政難から着工に至らなかった。この案では被害の最も著しき遠軽下流より河口に至る区間を施行し、



図—32 渚滑川治水計画図



2,300 haを守り 100 haの未開地の開発を促すものとしていた。

着工は見送られたが調査は継続され、流域開発が進んだために年々被害の大きくなる洪水対策の見直しが行われ、大正11年洪水を基にした湧別川第一期工事を第二期拓植計画の一部として、昭和13年より編入する予定となった。しかし、昭和7年に多大な被害をもたらした洪水で湧別川を含む3河川治水達成連絡会が結成され強力な運動が展開され、昭和9年右岸堤防を皮切りに湧別川治水工事が実施された。

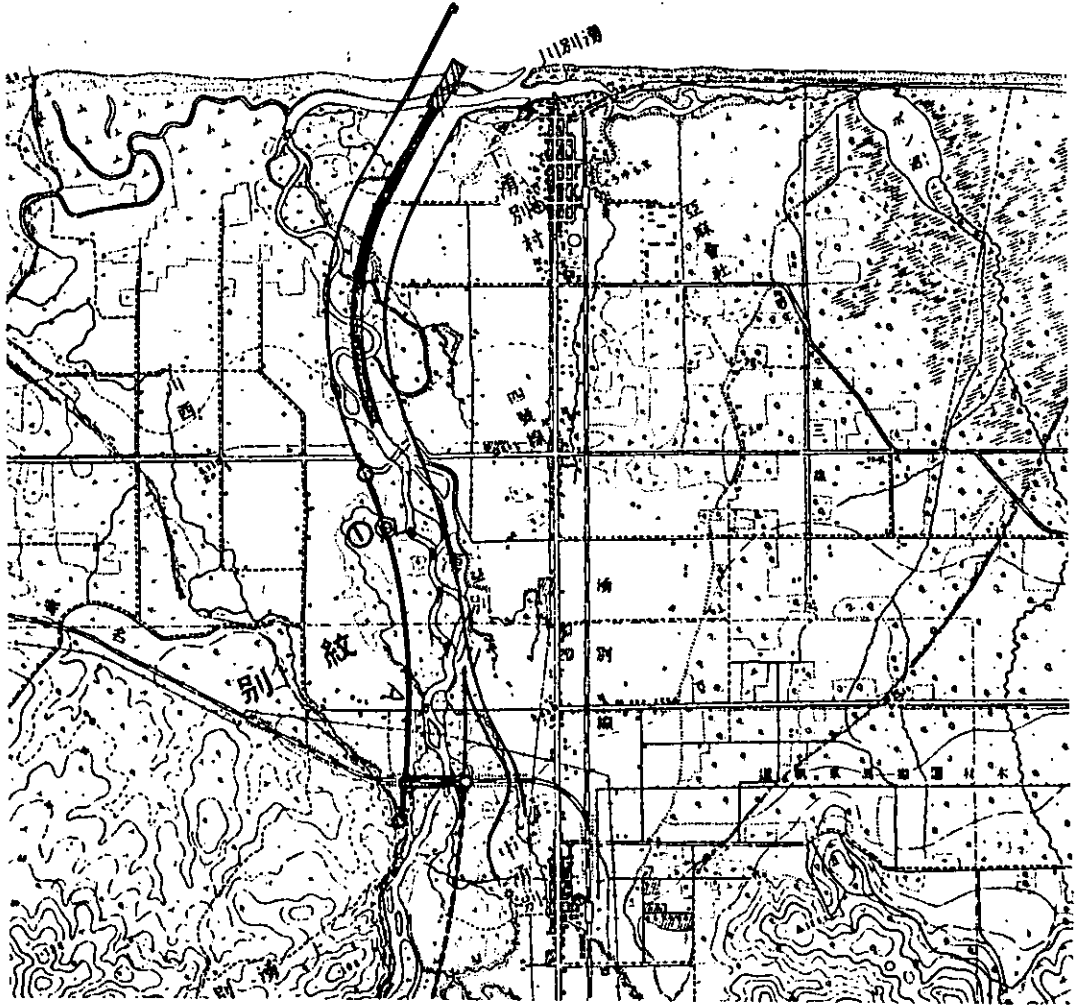


図-33 湧別川河道計画

### 湧別川第一期工事の計画内容

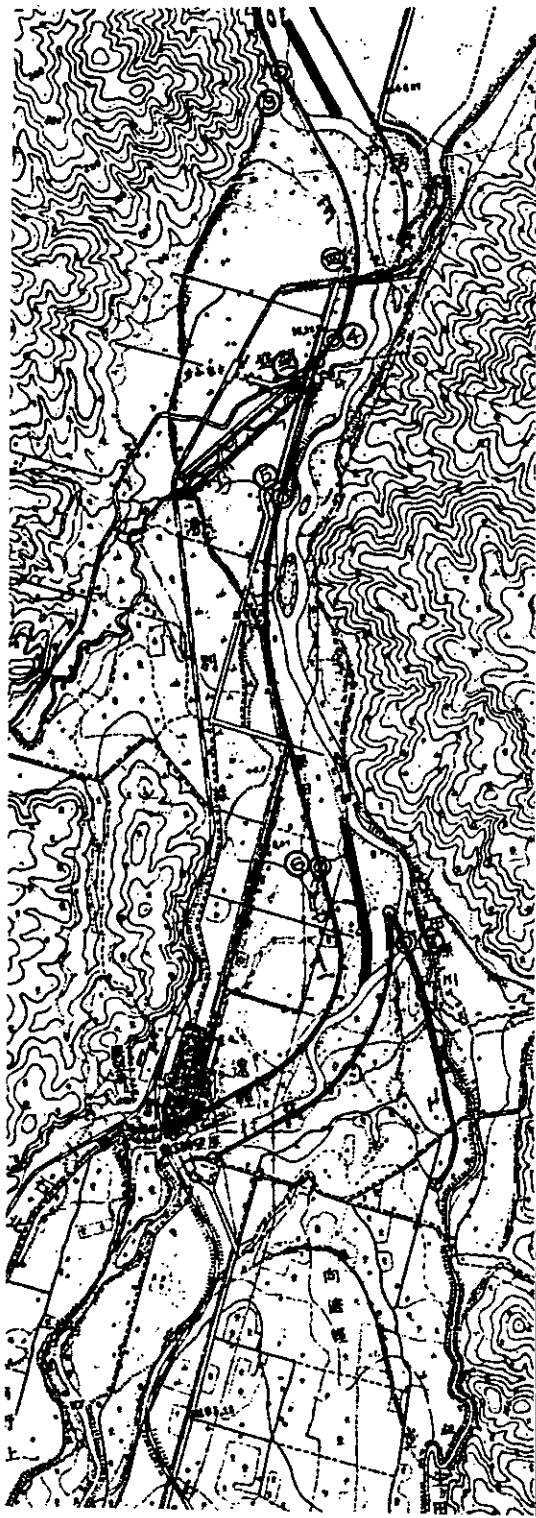
工事区間	河口～上湧別第2鉄道橋(中湧別)
“ 期間	昭和9年度以降5ケ年
工事費総額	60万円
計画流量	70,000立方尺/秒(1,947 m <sup>3</sup> /sec)
堤防	堤間400m, 天端巾2.7m 内法2.5割, 外法2～2.5割 最高3～3.5m, 余裕高0.7～1.5m
切替水路	敷巾60m, 両法2割

昭和13年に応急的な第一期工事は完了したが、最初の目的達成を目ざして第二期工事が、昭和14年以降11ケ年で総事業費460万円を要求し、継続して工事が進められた。

### 湧別川第二期工事の計画概要

切替水路	2ヶ所 1,700m	
堤防	31,281m	合計 土量1,937,500 m <sup>3</sup>
新規完成	17,935m	天幅幅6m, 両法2.5割, 余裕高1.5m
暫定拡幅	9,400m	第一期暫定を完成
支川	3,945m	サナフチ川, 生田原川
護岸	25,000m	
樋門	7ヶ所	
河口導流堤	790m	左岸側
橋梁	3ヶ所	付帯工事(人道橋)

湧別治水工場は技師1人, 番1人, 技手4人, 事務雇1人, 技術雇2人, 守衛1人, 小使1人, 給士1人, 雑役人夫で編成されていた。(昭和14年)



治水工事の経緯

年 月	記 事
大正 4 年	湧別川を初めて調査測量する。
大正 8 年	河口～遠軽橋間の治水計画を立案する。
大正 15 年	本道第 2 期拓殖計画において継続事業として計上される。
昭和 9 年	湧別川改修工事に着手する。
昭和 9 年	第 3 湧別川鉄道橋～25 号間右岸堤防盛土工事着手する。
昭和 9 年	支川ヌンボコマナイ川逆水堤土工事に着手する。
昭和 10 年	湧別左右岸堤防盛土工事に着手する。
昭和 11 年	名寄本線第 3 湧別川鉄道橋拡張工事着手する。
昭和 12 年	同上竣功する。
昭和 12 年	湧別川左右岸堤防のうち左岸 5 号、右岸 1 号、2 号、4 号の排水樋管竣功する。
昭和 12 年	第 3 湧別川鉄道橋～25 号間右岸堤防暫定断面にて竣功する。
昭和 13 年	支川ヌンボコマナイ川逆水堤防竣功する。
昭和 13 年	湧別右岸堤防 0 号～第 3 湧別川鉄道橋間竣功する。
昭和 14 年	湧別左岸堤防 0 号～第 3 湧別川鉄道橋間竣功する。
昭和 15 年	湧別左岸堤防第 3 湧別川鉄道橋～山までの間竣功する。
昭和 15 年	支川社名淵川逆水堤左岸着手する。
昭和 16 年	河口導流堤着手する。
昭和 17 年	遠軽築堤盛土工事着手する。
昭和 18 年	遠軽築堤盛土工事暫定断面にて竣功する。
昭和 19 年	昭和 9 年度着手～昭和 18 年度までの堤防盛土工事の土量 177870 立坪の実績を取廻めた。
昭和 19 年	河口導流堤のケーソン (No. 1～No. 22) 延長 144 m 竣功する。
昭和 20 年	上湧別村地内において護岸工事延長 50.90 m 施行する。
昭和 21 年	上湧別村地内において護岸工事延長 60 m 施行する。
昭和 22 年	広急河川改修費をもつて上湧別村地内において護岸工事延長 570 m、下湧別村地内において水制工事延長 86 m、護岸工事延長 190 m を施工する。
昭和 23 年	広急河川改修工事費をもつて改修工事が再開され、他に維持費をもつて堤防護岸等の工事が実施されることとなった。
昭和 23 年	河口導流堤を石枠工にて延長 120 m 施工する。
昭和 24 年	河口導流堤を石枠工にて 76 m 及び河口左岸水制を並抗工にて 20 m 施工、護岸工は 5 号右岸 150 m、3 号右岸 150 m を施工する。
昭和 25 年	河口導流堤の捨石補充 70 m、河口左岸水制を並抗工にて 27 m 施工、護岸及び水制工は 2 号～遠軽に至る区間において各々 1,840 m、249 m を施工する。 河川調査は河口の深淺調査を実施した。

図-34 治水工事計画と経緯

しかし、戦争の影響で予定の成果を収めることはできず、戦後の混乱期も応急の工事に停まっていた。

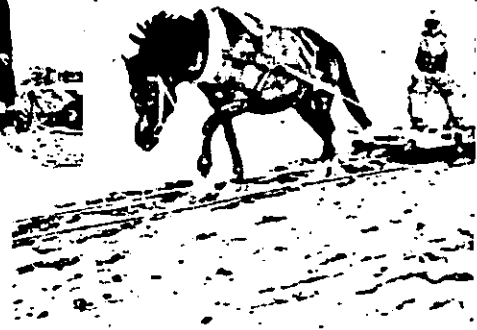
こうした中で我が国は経済を復興し国民生活を安定させるために、国内資源を開発して食糧難の打開と人口問題の解決を図ることがなによりも急がれた。

これを機に北海道開発法が制定され、北海道開発庁が設置された（昭和26年）。

昭和26年7月1日に網走開発建設部湧別川上湧別改修事業所が開設され、河川改修が推進された。

昭和32年、昭和初期に作成された改修計画を、残工事と蓄積された調査資料を基に、改訂が行われた。その結果、計画高水流量は生田原川を境にして1,800 m<sup>3</sup>/sと1,350 m<sup>3</sup>/sとなる。その頃の河川工事は急激に進捗し、人馬運搬から機械運搬へ、また、石・木からコンクリートの護岸への転換期でもあった。

人力運搬  
(モッコ)



馬トロ運搬



捨場荷卸し DL 7 1 15-20馬力 2道

昭和44年3月20日、湧別川の重要性が認められて一級水系に昇格し、制度上も国による治水対策が全面的に実施されるようになった。

現在は築堤が概成し、遠紋地方の中核である遠軽町をはじめとして、社会生活基盤の安定が図られており、また、新しい地域社会の必要性に応えた治水へ向いつつある。



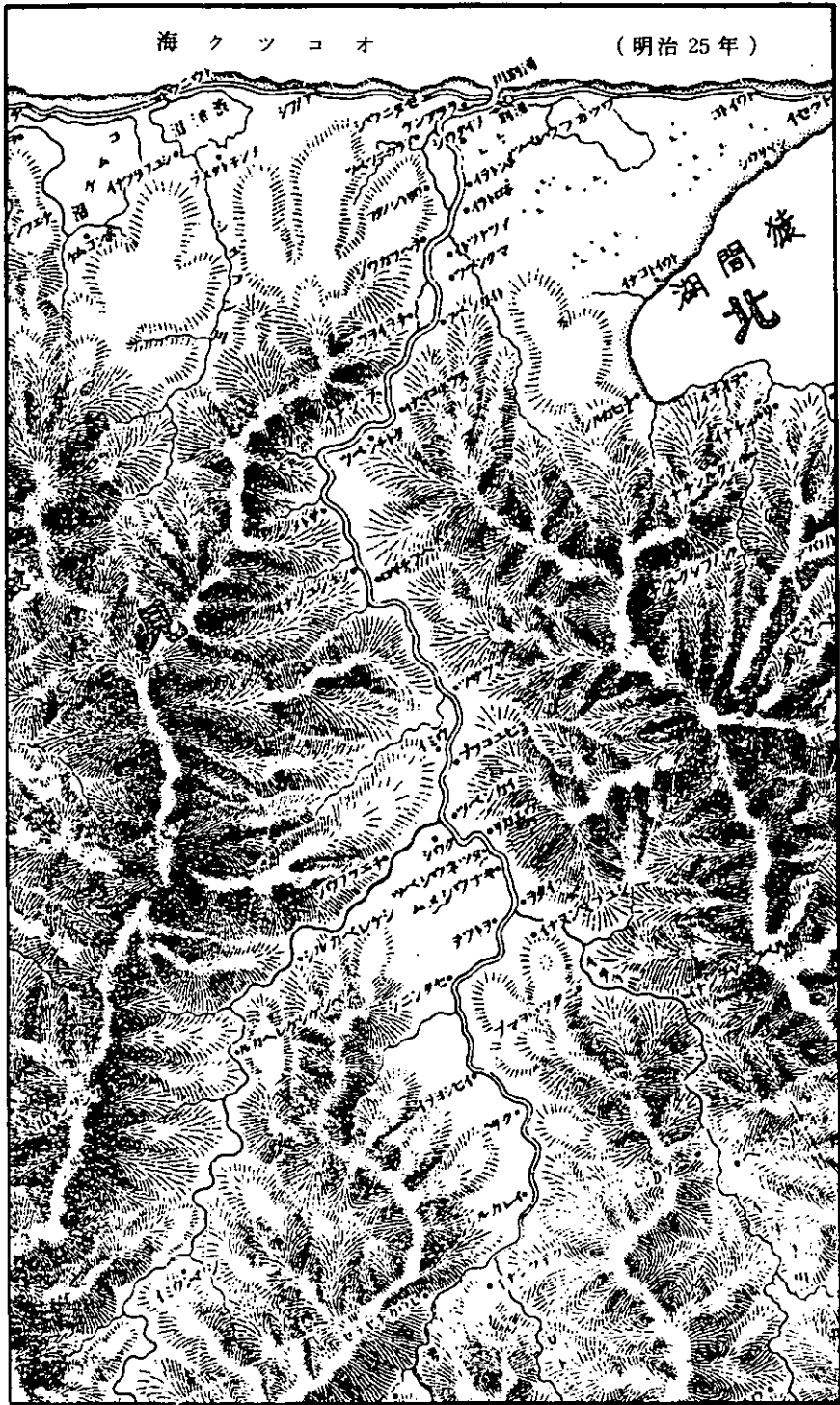


図-35 湧別川地図

オホーツク海 現在

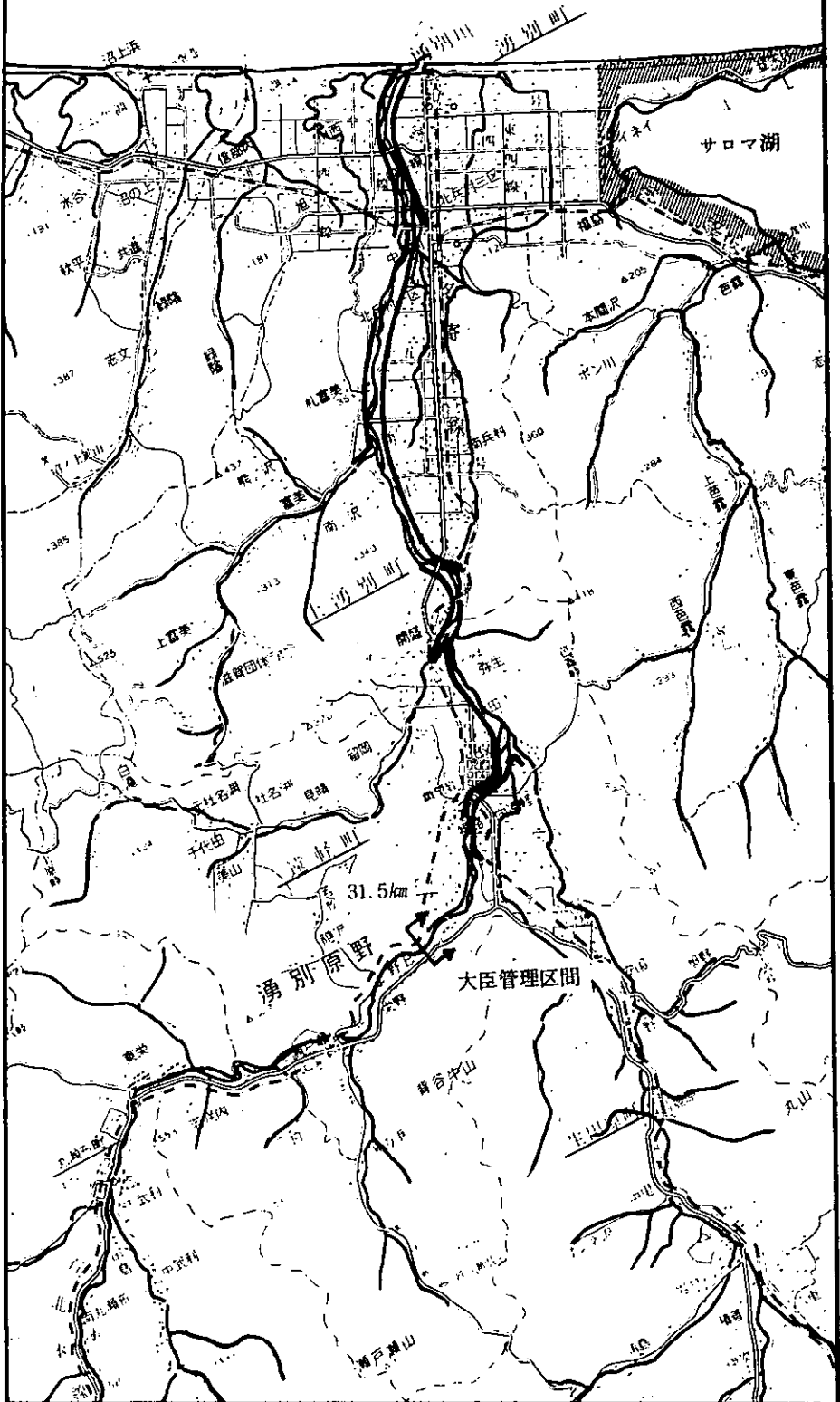


図-36 湧別川地図

## 付 録

### 流 域 景 観

#### ◎ サロマ湖

サロマ湖は湧別川の右岸側にある。この湖はオホーツク海の沿岸流により運搬される砂が堆積して、湾であった現サロマ湖の入口をふさぐ形で砂州（湾口砂州）が発達してできた湖である。全般に浅い湖であるが、海への開口部付近に潮流による深い渚が形成されている（湖沼図サロマ湖，1万分の1，国土地理院）。

サロマ湖の面積は約151.7km<sup>2</sup>，周囲72km，最大深度19.6mあり，全国では，琵琶湖，霞ヶ浦に次いで3番目の大きさである。又，海域と直接つながっていることから湖水は塩水である。従って，ここでは養殖ホタテ，北海シマエビなどが豊富に獲れる。冬期にはこの地方の湖の常として結氷するが，地元独特の漁法（氷下漁）でカレイ，コマイ等が獲れる。海岸の砂州砂丘には原生花園があり，自然環境の保護がされ，アヤメ，ハマナスその他が見られる。

#### ◎ オホーツク海の流氷

オホーツク海は冬期，大陸からの季節風により北西部（シャンタルスキー湾周辺）から凍結し始め，2月にはオホーツク海の大部分は流氷に被われる。流氷の発達状況はその年の北海道及び東北へ大きな影響を与える。

オホーツク海の氷は大部分が海氷であり，一部分河氷も含まれる。漂流するので流氷という。世界的に見て北半球ではこの地域が流氷の南限である。

流氷の生成には塩分と気温が関わる。海水の塩分量が多い程結氷温度は低下する。オホーツク海の表層水は塩分量31～32‰であり，結氷点は-1.7℃位である。塩分量が24,695‰，-1.33℃より多い場合には，結氷点以下になった海水は比重が重くなり対流するので，海水密度の不連続層迄の全体が結氷点以下になってはじめて凍りはじめる。24,695‰以下の場合には表面から凍り始める。従って海氷が生成されるには真水の結氷より厳しい条件を要する。氷は氷晶→泥氷→板状軟氷へと発達していく。オホーツク海の真中付近での結氷期の対流層の深さは35～80mに達する。このことから，気象情報からもこの海域の気象の厳しさがわかる。

北海道のオホーツク海沿岸では夏期には，宗谷暖流（1ノット/h）で南下し，この海流は塩分濃度が高く高温である。一方冬期には樺太東側から南下する低温，低塩分の海流が流れてくる。晩秋，この海流の交替期に塩分濃度を測定し流氷予知を行うことができる。

流氷は北西季節風が弱まる迄増大し続け，3月下旬から4月にかけて後退融解する。





サロマ湖



原生花園

流氷は風向と風力により、一夜にして紋別沖が流氷に被われたり、一斉に水面になったりし、冬の漁業は流氷の接近とともに太平洋側や日本海側に移動して行われる。海明け後毛ガニが獲れる。

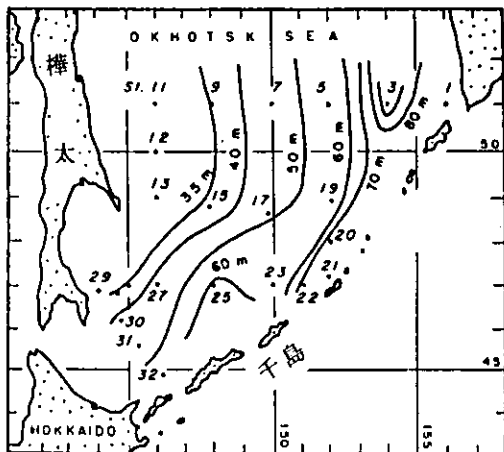


図-37 結氷期の対流層の深さ(田畑, 1960 による)

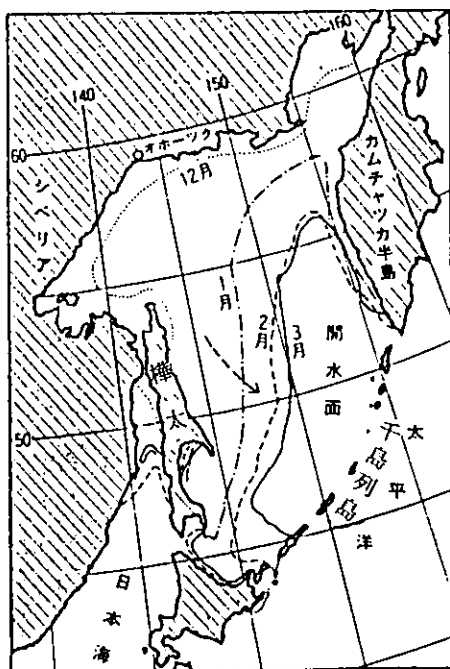


図-38 1968～1975年の平均各月初旬の  
流氷域 = 12月～3月(函館海洋气象台)

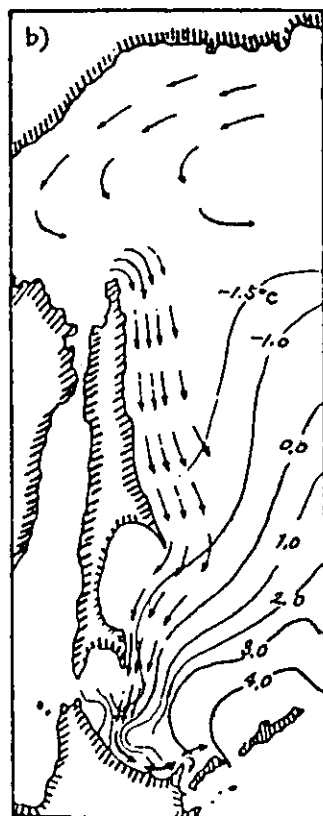
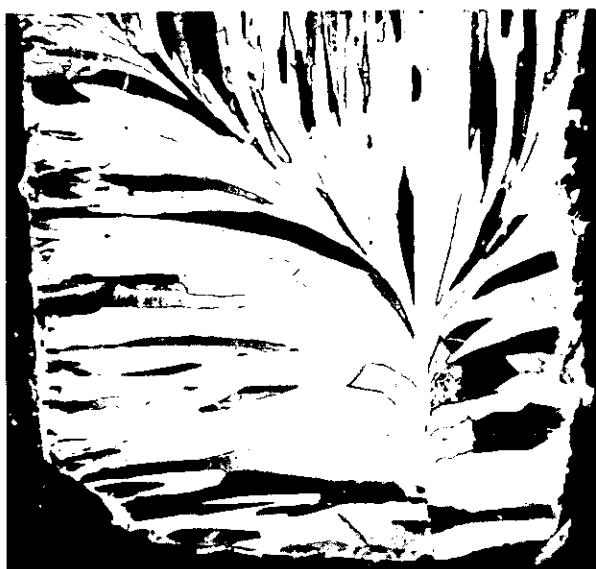


図-39 オホーツク海西部の冬期の  
海流と水温

点線より陸側は既往の資料による平均の表面塩素量が、18.0‰(塩分量、b)は冬期、各等温線は1958年12月26日～31日間の表面水温(渡辺, 1965)



流水結晶断面



製氷機（真水）の水結晶断面

# 北海道資料目次

I	降水量資料 .....	97
I. 1	降水量観測所（所属別、観測機器別、水系別）総括表 .....	99
I. 2	降水量観測所索引図 .....	99
I. 3	降水量観測所一覧表 .....	100
I. 4	降水量観測所月別降水量年表 .....	101
II	水位流量資料 .....	109
II. 1	水位流量観測所（所属別、観測機器別、水系別）総括表 .....	111
II. 2	水位流量観測所索引図 .....	111
II. 3	水位流量観測所一覧表 .....	112
II. 4	流量観測所年別流況表 .....	114
III	水質資料 .....	117
III. 1	水質観測地点（所属別、水系別）総括表 .....	119
III. 2	水質観測地点索引図 .....	119
III. 3	水質観測地点一覧表 .....	120
III. 4	水質分析資料 .....	121
IV	取水口、排水口資料 .....	123
IV. 1	農業用取水口、排水口資料 .....	125
IV. 1. 1. 1	農業用取水口（かんがい面積規模別、水系別）総括表 .....	125
IV. 1. 1. 2	農業用取水口（取水方法別、水系別）総括表 .....	125
IV. 1. 2	農業用取水口一覧表 .....	126
IV. 1. 3	農業用排水口（排水方法別、水系別）総括表 .....	127
IV. 1. 4	農業用排水口一覧表 .....	127
IV. 2	水道用取水口資料 .....	128
IV. 2. 1	水道用取水口（使用事項別、水系別）総括表 .....	128
IV. 2. 2	水道用取水口一覧表 .....	128
IV. 3	工業用取水口、排水口資料 .....	129
IV. 3. 1	工業用取水口（取水方法別、水系別）総括表 .....	129
IV. 3. 2	工業用取水口一覧表 .....	129
IV. 3. 3	工業用排水口（排水方法別、水系別）総括表 .....	130
IV. 3. 4	工業用排水口一覧表 .....	130

V	主要井戸資料	131
V. 1. 1	主要井戸（用途別）総括表	133
V. 1. 2	主要井戸（区市町村別，用途別）総括表	133
V. 2	工業用井戸一覧表	134
V. 3	雑用井戸一覧表	135
VI	上水道及び簡易水道資料	137
VI. 1	水道用水（事業別，主要項目別）総括表	139
VI. 2	上水道及び簡易水道地区一覧表	140
VI. 2. 1	上水道地区一覧表	140
VI. 2. 2	簡易水道地区一覧表	140
VII	工業用水使用状況資料	141
VII. 1	工業用水使用状況（水源別）総括表	143
VII. 2	工業用水使用状況調査一覧表	143
VIII	ダム資料	145
VIII. 1	ダム（主要項目別，水系別）総括表	147
VIII. 2	ダム一覧表	147
IX	水力発電所資料	149
IX. 1	水力発電所総括表	151
IX. 2	水力発電所一覧表	151
X	溜池資料	153
X. 1	溜池（市町村別，使用目的別）総括表	155
X. 2	溜池一覧表	155
X. 2. 1	溜池一覧表（100,000 m <sup>3</sup> 以上）	155
XI	下水道資料	157
XI. 1	下水道一覧表	159
XII	営農用水等資料	161
XII. 1	営農用水等（事業主体別，主要項目別）総括表	163
XII. 2	営農用水等一覧表	164

## I 降水量資料

- I. 1 降水量観測所（所属別，観測機器別，水系別）総括表
- I. 2 降水量観測所索引図
- I. 3 降水量観測所一覧表
- I. 4 降水量観測所月別降水量年表

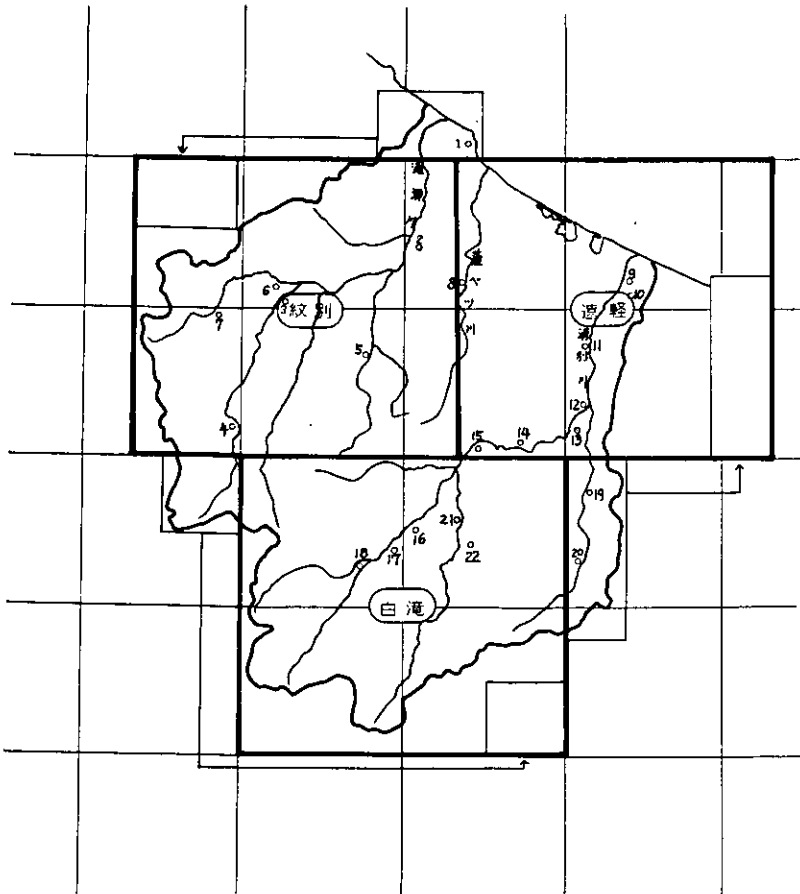


# I 降水量資料

## I. 1 降水量観測所(所属別, 観測機器別, 水系別)総括表

観測機器及び 水系別 所属別	自 記			計
	渚 滑 川	藻 籠 川	湧 別 川	
気 象 庁	2	1	4	7
北 海 道 開 発 局	5		7	12
北 海 道 電 力 機 関			3	3
計	7	1	14	22

## I. 2 降水量観測所索引図





1.3 降水量観測所一覽表

備考のa)は、資料を発表している図番名、b)は資料の整理状況を示す。

対照番号	5万分1地形図名	所属	観測所名	観測所名	水系名	第一次支線川名	川名	所在	観測器の種別	標高 m	緯度	観測時刻		観測資料保存状況	備考
												定時	測日時		
1	秋上	気象庁	秋上	積降川	積降川	—	積降川	秋上市下町1丁目	日記	16	44°20'00" 143°21'00"	毎時	26	網走地方気象台	a)北海道気象月報(札幌管区気象台) b)なし
2	上積	気象庁	上積	—	—	—	—	秋上市下町番外地	—	41	44°14'54" 143°15'54"	9時	62	網走地方気象台	a)なし b)雨量年表(建設省)
3	滝上	気象庁	滝ノ上	—	—	—	—	滝上町字3条通り	—	130	44°11'30" 143°05'00"	—	34	—	a)なし b)雨量年表(建設省)
4	積降岳	気象庁	滝ノ上	—	—	—	—	—	—	360	44°02'00" 143°00'00"	—	24	—	a)なし b)雨量年表(建設省)
5	立牛	気象庁	上立牛	立牛川	立牛川	立牛川	立牛川	秋上市上積町上立牛	—	205	44°04'10" 143°12'06"	—	24	—	a)なし b)雨量年表(建設省)
6	滝上	気象庁	滝ノ上	サクム川	サクム川	サクム川	滝上町字一區	—	—	165	44°10'05" 143°03'00"	毎時	58	網走地方気象台	a)気象月報(札幌管区気象台) b)なし
7	積降岳	気象庁	美礼久留	—	—	—	—	—	—	225	44°10'18" 142°58'24"	9時	24	網走地方気象台	a)なし b)雨量年表(建設省)
8	上積	気象庁	上積別	—	—	—	—	秋上市上積別5	—	85	44°11'06" 143°20'01"	毎時	20	網走地方気象台	a)北海道気象月報(札幌管区気象台) b)気象月報(札幌管区気象台)
9	中積	気象庁	中積別	—	—	—	—	積降川	—	6	44°12'09" 143°36'00"	—	42	—	a)なし b)雨量年表(建設省)
10	—	気象庁	中積別	—	—	—	—	上積別町中積別	—	9	44°11'48" 143°35'54"	9時	65	網走地方気象台	a)なし b)雨量年表(建設省)
11	—	気象庁	中積別	—	—	—	—	—	—	56	44°05'43" 143°32'48"	—	65	網走地方気象台	a)なし b)雨量年表(建設省)
12	—	気象庁	速	—	—	—	—	—	—	82	44°02'54" 143°31'50"	—	67	—	a)なし b)雨量年表(建設省)
13	—	気象庁	速	—	—	—	—	速	—	90	44°02'04" 143°31'03"	毎時	20	網走地方気象台	a)気象月報(札幌管区気象台) b)なし
14	—	気象庁	速	—	—	—	—	—	—	133	44°01' 143°26'	9時	2	北海道電力 通電電力所	a)なし b)雨量年表(建設省)
15	—	気象庁	速	—	—	—	—	—	—	185	44°00'18" 143°20'30"	—	39	網走地方気象台	a)なし b)雨量年表(建設省)
16	—	気象庁	速	—	—	—	—	—	—	270	43°29' 143°16'	—	2	北海道電力 通電電力所	a)なし b)雨量年表(建設省)
17	—	気象庁	速	—	—	—	—	—	—	354	43°53'04" 143°12'24"	—	27	網走地方気象台	a)雨量年表(建設省) b)気象月報(札幌管区気象台)
18	—	気象庁	速	—	—	—	—	—	—	370	43°52'07" 143°10'08"	毎時	42	網走地方気象台	a)なし b)雨量年表(建設省)
19	—	気象庁	速	—	—	—	—	—	—	175	43°55'18" 143°32'10"	9時	29	網走地方気象台	a)なし b)雨量年表(建設省)
20	—	気象庁	速	—	—	—	—	—	—	198	44°53'01" 143°31'06"	毎時	20	網走地方気象台	a)北海道気象月報(札幌管区気象台) b)なし
21	—	気象庁	速	—	—	—	—	—	—	266	43°56' 143°21'	9時	2	北海道電力 通電電力所	a)なし b)雨量年表(建設省)
22	—	気象庁	速	—	—	—	—	—	—	270	43°54'48" 143°20'18"	—	24	網走地方気象台	a)なし b)雨量年表(建設省)

1.4 降水量観測所月別降水量年表

対照番号	1			所 属 名		気 象 庁			水 系		落 滑 川		該 当 河 川 名		落 滑 川	
	観 測 所 名			地 形 図 名		観 測 所 名			所 在 地		該 別 市 南 ケ 丘 町 1 丁 目					
昭 和 年 (西 暦 年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年	最 多 日 量 (月 日)	雨 天 日 数	
															≥0.1mm	≥0.1mm
36(1961)	52	77	31	26	129	20	124	93	110	43	44	73	822	46 (2/12)	-	-
37(1962)	103	19	41	39	45	65	126	198	97	48	37	37	855	50 (7/24)	-	-
38(1963)	59	52	61	57	31	106	55	84	114	74	27	71	791	54 (6/21)	-	-
39(1964)	25	27	36	84	53	82	124	170	106	29	77	29	842	42 (4/2)	-	-
40(1965)	119	50	36	52	22	83	82	94	173	49	99	38	897	50 (1/9)	-	-
41(1966)	86	43	104	69	71	124	144	224	135	150	48	51	1,249	53 (9/10)	-	-
42(1967)	23	13	50	43	64	174	111	67	157	52	25	20	799	53 (6/29)	-	-
43(1968)	25	42	34	14	53	40	57	86	142	99	64	42	698	58 (9/30)	-	-
44(1969)	51	37	26	12	110	92	71	190	67	66	68	51	841	46 (5/26)	-	-
45(1970)	42	61	57	45	50	100	67	26	117	84	37	31	717	33 (6/26)	-	-
46(1971)	48	38	30	28	102	42	124	54	122	147	30	37	802	59 (10/31)	-	141
47(1972)	49	37	83	24	50	120	137	37	109	97	203	70	1,016	80 (7/7)	-	154
48(1973)	62	59	22	56	106	31	110	281	85	126	57	29	1,024	148 (8/18)	-	159
49(1974)	97	30	16	66	71	82	15	125	94	61	83	37	777	49 (8/14)	-	150
50(1975)	65	39	132	49	126	91	148	171	136	116	90	28	1,191	79 (8/23)	-	138
51(1976)	35	24	28	31	20	71	50	74	77	225	87	44	766	45 (10/10)	-	133
52(1977)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(-)	-	-
53(1978)	-	-	-	-	124	76	9	151	85	68	-	-	(513)	(-)	-	-
54(1979)	-	-	-	-	-	47	80	13	154	231	-	-	(525)	(-)	-	-
55(1980)	-	-	-	-	-	127	22	101	30	97	-	-	(377)	70 (6/18)	-	-
總 計	(941)	(648)	(787)	(695)	(1,227)	(1,573)	(1,656)	(2,239)	(2,110)	(1,862)	(1,076)	(688)	(15,502) 14,087	-	-	(875)
年 数	16	16	16	16	17	19	19	19	19	19	16	16	(17年4ヶ月) 16	-	-	6
平 均	58.8	40.5	49.2	43.4	72.2	82.8	87.2	117.8	111.1	98.0	67.3	43.0	(894.3) 880.4	-	-	145.8

既往最多年降水量 1,249 mm (昭和41年)  
 " 最少年 " 698 mm (昭和43年)  
 " 最多月 " 281 mm (昭和48年8月)  
 " 最少月 " 9 mm (昭和53年7月)  
 " 最多日 " 148 mm (昭和48年8月18日)

最多3時間 " (昭和 年 月 日 時~ 日 時)

最多1時間 " (昭和 年 月 日 時~ 日 時)

对照番号	3			所属名	北海道 開発局			水 系		渚 滑 川			該当河川名	渚 滑 川		
観測所名	滝 / 上			地形図名	滝 上			所 在 地		滝上町字3条通り						
昭和年 (西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年	最多日量(月日)	雨天日数	
															≥0.1mm	≥0.1mm
36(1961)	72.7	117.3	24.0	13.4	127.1	47.3	121.6	92.2	114.7	58.2	39.6	95.8	923.9	53.4 (2/7)	118	109
37(1962)	361.2	29.7	30.5	25.2	-	75.3	151.9	244.9	83.9	64.8	39.6	12.7	(1,119.7)	143.3 (1/2)	110	100
38(1963)	76.0	60.3	48.4	36.1	32.5	105.3	75.5	97.2	122.7	55.0	35.5	53.1	797.6	35.0 (1/8)	115	112
39(1964)	41.5	24.0	22.5	89.2	59.4	106.1	103.1	179.3	134.1	66.0	63.6	20.0	908.8	54.5 (9/1)	117	111
40(1965)	115.5	40.0	34.0	26.5	26.4	116.4	71.3	94.2	233.0	27.0	74.5	10.0	868.8	46.5 (8/30)	113	102
41(1966)	80.0	19.8	103.0	78.4	44.8	116.2	148.7	280.2	134.9	104.5	35.1	35.0	1,180.6	69.0 (8/12)	108	103
42(1967)	16.4	49.2	46.0	28.0	76.5	152.0	86.0	43.8	188.1	70.7	25.0	13.5	795.2	45.0 (9/22)	115	100
43(1968)	17.0	34.0	28.0	25.0	68.1	24.7	90.9	101.0	136.7	71.0	78.0	30.0	704.4	48.0 (9/30)	102	95
44(1969)	29.2	29.0	21.5	25.5	129.6	57.6	60.0	197.0	92.5	44.6	56.4	46.5	789.4	50.7 (5/26)	137	112
45(1970)	16.0	46.0	41.0	20.1	21.3	107.1	84.2	32.4	130.5	82.5	53.0	43.7	677.8	45.0 (7/31)	120	90
46(1971)	51.6	30.0	26.0	35.3	88.7	40.4	85.7	69.9	142.1	194.7	36.6	25.0	826.0	28.5 (9/29)	117	107
47(1972)	72.5	42.5	49.5	20.0	53.1	71.7	119.7	77.3	103.4	80.4	138.2	96.1	924.4	75.0 (7/7)	130	111
48(1973)	85.0	63.1	1.6	58.0	66.7	26.8	129.4	309.8	138.5	113.2	58.3	39.2	1,089.6	111.0 (8/18)	134	122
49(1974)	95.0	33.5	18.5	51.6	77.9	100.2	51.1	235.5	128.0	68.4	96.0	36.0	991.7	86.1 (8/7)	140	124
50(1975)	56.0	54.1	33.6	27.3	124.1	113.0	131.4	210.3	183.0	132.5	98.3	85.7	1,249.3	105.0 (8/23)	132	119
51(1976)	35.8	29.4	28.9	26.7	20.3	109.0	29.4	162.3	71.8	193.5	89.7	37.4	834.2	43.0 (8/12)	124	109
52(1977)	67.2	36.5	11.5	57.8	74.6	21.0	71.0	152.2	80.1	42.5	68.0	51.4	733.8	51.0 (8/16)	122	104
53(1978)	89.0	47.0	21.0	51.6	152.3	57.5	27.7	170.1	110.8	84.3	68.5	73.6	953.4	74.5 (8/10)	149	133
54(1979)	46.8	38.0	220.3	21.7	67.6	73.3	98.9	33.1	146.5	229.5	112.6	52.5	1,140.8	110.6 (3/31)	121	103
55(1980)	72.2	33.3	29.9	53.4	44.5	113.7	33.9	102.6	71.3	65.0	54.0	60.0	733.8	73.0 (6/17)	144	122
總 計	1,496.6	856.7	839.7	770.8	(0,355.5)	1,634.6	1,771.4	2,885.3	2,546.6	1,848.3	1,320.5	917.2	(18,243.2) 17,123.5	-	2,468	2,188
年 数	20	20	20	20	19	20	20	20	20	20	20	20	(19年11ヶ月) 19	-	20	20
平 均	74.8	42.8	42.0	38.5	71.3	81.7	88.6	144.3	127.3	92.4	66.0	45.9	(916.0) 901.2	-	123.4	109.4

既往最多年降水量 1,249.3 mm(昭和50年)  
 " 最少年 " 677.8 mm(昭和45年)  
 " 最多月 " 361.2 mm(昭和37年1月)  
 " 最少月 " 1.6 mm(昭和48年3月)  
 " 最多日 " 118.7 mm(昭和33年8月12日)  
 最多3時間 " 66.0 mm(昭和47年7月8日0時~ 日3時)  
 最多1時間 " 42.5 mm(昭和47年7月8日1時~ 日時)

対照番号	6			所属名		気象庁		水系		猪瀬川			該当河川名	ヤフル川		
	観測所名			地形図名		滝上		所在地		滝上町字一区						
昭和年 (西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年	最多日量(月日)	雨天日数	
															≥0.1mm	≥0.1mm
36(1961)	73	128	30	11	133	48	114	93	99	83	48	107	967	(74/2/7)	-	132
37(1962)	225	29	44	-	-	-	114	252	85	70	35	-	(854)	(-)	-	-
38(1963)	-	39	70	41	49	110	47	104	139	73	38	69	(779)	(-)	-	130
39(1964)	31	31	29	94	52	129	124	199	149	28	106	24	996	(52/8/16)	-	149
40(1965)	150	48	68	27	12	107	54	104	186	28	125	24	933	(47/6/30)	-	146
41(1966)	79	25	49	83	47	89	152	259	163	113	83	69	1,211	(61/9/10)	-	156
42(1967)	45	30	58	40	82	132	84	29	193	80	46	26	845	(48/9/22)	-	143
43(1968)	-	-	-	13	55	27	84	77	146	70	-	54	(526)	(-)	-	-
44(1969)	78	51	42	17	99	52	59	206	86	48	78	89	905	(47/5/26)	-	159
45(1970)	70	147	374	33	16	98	81	29	116	75	55	77	1,171	(96/3/16)	-	151
46(1971)	95	128	92	9	-	-	79	-	127	173	55	43	(801)	(86/10/31)	-	148
47(1972)	80	104	94	28	51	73	83	75	93	116	172	145	1,114	(71/12/1)	-	148
48(1973)	136	115	41	47	65	20	111	268	114	109	88	60	1,174	(86/8/18)	-	167
49(1974)	173	56	30	63	64	90	45	197	113	74	107	70	1,082	(68/1/25)	-	154
50(1975)	70	80	170	29	136	103	120	210	208	137	121	53	1,437	(111/8/23)	-	136
51(1976)	51	49	61	28	12	110	24	126	61	188	97	79	886	(39/10/10)	-	134
52(1977)	63	59	29	74	66	16	64	194	73	36	87	68	829	(51/8/16)	-	133
53(1978)	73	24	51	45	122	49	22	147	24	77	76	83	793	(77/8/10)	-	146
54(1979)	44	48	79	24	60	76	-	-	88	240	109	70	(838)	(-)	-	-
55(1980)	46	24	52	48	28	107	49	83	57	65	54	60	673	(44/6/18)	-	152
総計	(1,582)	(1,215)	(1,463)	(754)	(1,149)	(1,436)	(1,510)	(2,652)	2,320	1,883	(1,580)	(1,270)	(18,814) 15,016	-	-	(2484)
年数	18	19	19	19	18	18	19	18	20	20	19	19	(18年10ヶ月) 15	-	-	17
平均	87.9	63.9	77.0	39.7	63.8	79.8	79.5	147.3	116.0	94.2	83.2	66.8	(999.0) 1001.1	-	-	146.1

既往最多年降水量 1,437mm(昭和50年)  
 " 最少年 " 673mm(昭和55年)  
 " 最多月 " 374mm(昭和45年3月)  
 " 最少月 " 9mm(昭和46年4月)  
 " 最多日 " 111mm(昭和50年8月23日)  
 最多3時間 " -mm(昭和 年 月 日 時~ 日 時)  
 最多1時間 " -mm(昭和 年 月 日 時~ 日 時)

对照番号	9			所属名		気象庁		水系		湧別川		該当河川名		湧別川		
	観測所名	湧別		地形図名		中湧別		所在地		湧別町鹿町						
昭和年 (西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年	最多日量(月日)	雨天日数	
															≥0.1mm	≥0.1mm
36(1961)	67	104	30	23	101	31	93	94	81	47	31	56	758	( - )	-	-
37(1962)	169	32	61	41	28	57	111	209	68	45	20	30	871	( - )	-	-
38(1963)	145	58	80	51	31	73	64	78	81	57	43	62	823	( - )	-	-
39(1964)	32	35	33	71	50	117	133	168	115	17	76	14	861	( - )	-	-
40(1965)	113	143	117	27	34	111	106	105	158	35	53	19	1,021	( - )	-	-
41(1966)	108	61	-	66	58	119	69	169	89	159	41	21	(960)	( - )	-	-
42(1967)	17	8	35	40	39	139	51	-	115	42	26	25	(537)	( - )	-	-
43(1968)	15	36	55	14	26	26	32	42	72	56	47	40	461	( - )	-	-
44(1969)	53	40	25	14	101	75	67	140	68	35	72	-	(690)	( - )	-	-
45(1970)	43	47	104	33	35	87	86	37	92	-	39	38	(641)	( - )	-	-
46(1971)	61	27	23	8	59	37	105	54	132	141	15	18	680	<sup>66</sup> (10/31)	-	-
47(1972)	65	32	114	5	31	78	67	60	118	89	177	54	890	<sup>49</sup> (3/2)	-	102
48(1973)	121	83	54	42	104	21	95	211	92	145	58	31	1,057	<sup>80</sup> (8/18)	-	127
49(1974)	181	76	23	78	71	77	28	121	72	46	71	48	892	( - )	-	143
50(1975)	120	43	-	49	154	89	122	161	128	119	97	50	(1,132)	( - )	-	146
51(1976)	44	30	28	44	27	61	42	101	74	189	79	47	766	<sup>50</sup> (10/10)	-	141
52(1977)	79	101	36	57	102	12	50	164	65	17	101	73	857	<sup>57</sup> (8/5)	-	119
53(1978)	61	20	62	23	88	70	26	163	56	72	47	47	735	<sup>79</sup> (8/10)	-	123
54(1979)	42	50	117	21	59	54	93	8	76	208	60	49	837	<sup>77</sup> (10/1)	-	113
55(1980)	45	18	82	59	27	121	15	90	21	58	21	44	601	<sup>67</sup> (6/18)	-	116
總計	1,581	1,044	(0,079)	766	1,225	1,455	1,455	(2,175)	1,773	(1,577)	1,174	(766)	(16,070) 12,110	-	-	(1,130)
年数	20	20	18	20	20	20	20	19	20	19	20	19	(19年7ヶ月) 15	-	-	9
平均	79.1	52.2	59.9	38.3	61.3	72.8	72.8	114.5	88.7	83.0	58.7	40.3	(820.6) 807.3	-	-	125.6

既往最多年降水量 1,132mm(昭和50年)  
 " 最少年 " 461mm(昭和43年)  
 " 最多月 " 211mm(昭和48年8月)  
 " 最少月 " 5mm(昭和47年4月)  
 " 最多日 " 80mm(昭和48年8月18日)  
 最多3時間 " -mm(昭和 年 月 日 時~ 日 時)  
 最多1時間 " -mm(昭和 年 月 日 時~ 日 時)

对照番号	13			所属名		気象庁		水系		湧別川		該当河川名		湧別川		
観測所名	道 経			地形図名		道 経		所在地		道経町字區路						
昭和年 (西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年	最多日量(月日)	雨天日数	
															≥0.1mm	≥0.1mm
36(1961)	36	52	13	19	86	29	84	106	87	51	38	74	675	39 (8/3)	-	101
37(1962)	110	19	26	44	33	98	138	230	71	33	43	21	866	68 (8/15)	-	113
38(1963)	89	62	57	43	34	85	64	93	133	65	23	62	810	34 (9/22)	-	137
39(1964)	25	38	36	54	43	123	74	200	95	17	84	12	801	42 (8/25)	-	125
40(1965)	117	18	44	40	30	109	125	85	176	17	93	7	861	47 (7/29)	-	122
41(1966)	81	28	100	64	31	152	79	266	84	131	32	39	1,087	57 (6/29)	-	130
42(1967)	39	10	47	45	46	148	76	34	178	65	20	37	745	54 (6/6)	-	115
43(1968)	24	56	32	9	45	32	54	68	129	83	46	47	625	56 (9/30)	-	98
44(1969)	25	78	23	20	126	56	72	161	80	25	67	43	776	73 (5/26)	-	129
45(1970)	90	90	120	19	23	101	75	55	71	60	30	58	792	56 (7/31)	-	138
46(1971)	99	63	55	31	81	19	83	54	109	172	31	26	823	110 (10/31)	-	133
47(1972)	88	57	172	47	47	102	52	80	118	75	185	89	1,112	106 (3/2)	-	150
48(1973)	168	95	35	26	68	17	84	230	132	115	64	27	1,061	72 (1/25)	-	154
49(1974)	275	45	24	62	52	76	31	144	110	64	57	50	990	137 (1/25)	-	149
50(1975)	169	63	160	92	155	87	93	160	89	125	110	56	1,359	110 (1/17)	-	135
51(1976)	51	49	61	28	12	110	24	126	61	188	97	79	886	39 (10/10)	-	134
52(1977)	51	85	30	78	75	18	51	151	53	17	97	53	759	52 (8/5)	-	123
53(1978)	49	14	36	27	94	63	41	109	114	52	48	34	681	63 (8/10)	-	119
54(1979)	33	51	91	33	40	48	93	7	107	193	69	55	820	97 (10/1)	-	132
55(1980)	48	16	49	33	27	100	63	83	23	68	20	41	571	50 (6/16)	-	126
總 計	1,667	989	1,211	814	1,148	1,573	1,456	2,442	2,020	1,616	1,254	910	17,100	-	-	2,563
年 数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	-	-	20
平 均	83.4	49.5	60.6	40.7	57.4	78.7	72.8	122.1	101.0	80.8	62.7	45.5	855.2	-	-	128.2

既往最多年降水量 1,359 mm(昭和50年)  
 " 最少年 " 571 mm(昭和55年)  
 " 最多月 " 275 mm(昭和49年1月)  
 " 最少月 " 7 mm(昭和54年8月)  
 " 最多日 " 137 mm(昭和49年1月25日)  
 最多3時間 " - mm(昭和 年 月 日 時~ 日 時)  
 最多1時間 " - mm(昭和 年 月 日 時~ 日 時)

对照番号	17			所属名		北海道 開発局		水 系		湧 別 川			該当河川名	湧 別 川		
	観測所名	白 滝		地形図名		白 滝		所 在 地		白滝村字白滝						
昭和年 (西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年	最多日量(月日)	雨天日数	
																≥0.1mm
36(1961)	64.8	100.5	41.0	34.9	86.1	31.7	86.4	82.7	93.2	115.8	30.5	80.7	848.3	68.0 (10/10)	150	124
37(1962)	113.2	6.6	45.2	30.3	51.3	70.9	128.1	215.1	79.2	55.5	57.7	30.7	883.8	78.3 (8/3)	150	122
38(1963)	52.4	62.5	12.9	26.2	45.0	82.3	90.5	231.6	76.2	49.1	34.7	41.6	805.0	55.5 (8/25)	154	117
39(1964)	33.7	30.2	42.2	68.1	47.0	105.3	65.2	241.9	91.8	31.0	104.8	22.5	883.7	67.7 (8/16)	167	123
40(1965)	108.3	17.0	38.1	44.6	44.1	126.6	88.2	107.8	170.9	24.8	85.7	22.6	878.7	38.8 (8/22)	163	139
41(1966)	61.0	41.5	51.1	83.6	59.5	152.7	126.9	233.6	83.8	131.1	73.1	35.8	1,133.7	67.0 (8/19)	156	136
42(1967)	9.8	13.5	28.7	57.3	65.0	161.3	57.7	19.6	186.0	90.1	29.4	15.3	733.7	54.8 (6/6)	133	98
43(1968)	18.8	24.0	26.0	6.4	91.8	33.9	147.0	135.3	132.6	78.5	78.5	27.7	800.5	38.0 (8/2)	124	102
44(1969)	36.9	21.2	22.7	13.2	86.7	77.5	42.0	187.4	117.8	48.1	46.0	19.0	718.5	58.0 (9/25)	159	103
45(1970)	57.7	32.7	60.5	41.1	17.7	95.3	100.0	44.1	102.6	74.8	24.8	26.1	677.4	71.0 (7/31)	134	91
46(1971)	47.7	43.0	35.0	17.2	59.0	60.3	99.9	79.3	142.2	155.1	47.0	25.7	811.4	77.8 (10/31)	163	115
47(1972)	54.5	90.5	63.0	23.6	45.5	78.9	103.3	56.4	118.3	102.6	117.5	46.2	900.3	68.2 (9/17)	168	129
48(1973)	58.5	19.8	19.1	38.6	44.2	33.3	80.7	363.2	125.3	103.9	52.6	26.0	965.2	79.5 (8/18)	151	112
49(1974)	93.0	35.3	15.0	51.2	50.6	75.7	56.4	155.8	108.9	100.9	17.0	48.5	808.3	34.9 (9/9)	152	109
50(1975)	83.0	47.8	123.9	17.6	103.4	77.9	129.4	186.6	91.1	148.5	89.8	63.1	1,162.1	124.4 (8/23)	144	106
51(1976)	21.5	47.1	45.8	40.5	28.2	86.1	35.0	92.9	78.1	114.5	62.9	49.4	702.0	34.8 (6/27)	148	110
52(1977)	23.8	36.6	16.6	46.4	53.6	40.5	55.9	108.0	62.8	28.1	79.8	56.5	608.6	46.6 (8/15)	138	98
53(1978)	49.2	13.5	11.9	33.8	123.2	82.9	37.8	195.4	115.7	79.6	59.9	39.4	842.3	71.2 (8/10)	158	116
54(1979)	36.9	43.0	52.2	19.8	50.9	66.8	97.1	33.4	152.9	163.5	97.5	65.2	879.2	76.0 (10/19)	155	104
55(1980)	32.9	13.3	42.3	18.8	31.1	98.7	105.0	110.0	65.7	122.1	47.4	52.2	739.5	37.7 (8/19)	174	111
総 計	1,057.6	739.6	793.2	713.2	1,183.9	1,638.6	1,732.5	2,880.1	2,195.1	1,817.6	1,236.6	794.2	16,782.2	-	3,041	2,265
年 数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	-	20	20
平 均	52.9	37.0	39.7	35.7	59.2	81.9	86.6	144.0	109.8	90.9	61.8	39.7	839.2	-	152.1	113.3

既往最多年降水量 1,162.1mm(昭和50年)  
 " 最少年 " 608.6mm(昭和52年)  
 " 最多月 " 391.6mm(昭和30年8月)  
 " 最少月 " 6.4mm(昭和43年4月)  
 " 最多日 " 201.2mm(昭和30年8月10日)  
 最多3時間 " 52.5mm(昭和45年8月1日4時~ 日6時)  
 最多1時間 " 27.5mm(昭和38年8月3日12時~ 日 時)

对照番号	18			所属名		気象庁			水系		湧別川		該当河川名		湧別川	
	観測所名			地形図名		白滝			所在地		白滝村字白滝742-1					
昭和年 (西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年	最多日量(月日)	雨天日数	
															≥0.1mm	≥0.1mm
36(1961)	32	52	13	38	85	24	90	84	82	83	37	61	681	33 (10/10)	-	124
37(1962)	96	16	40	29	54	82	125	213	83	56	51	40	885	75 (8/3)	-	161
38(1963)	39	41	18	39	46	73	63	239	84	45	30	45	762	70 (8/25)	-	134
39(1964)	16	13	20	56	44	114	70	210	79	41	104	21	788	62 (8/16)	-	131
40(1965)	89	22	30	46	54	144	59	108	177	22	126	37	914	49 (8/22)	-	153
41(1966)	91	49	115	65	51	122	108	219	82	104	67	76	1,149	66 (8/19)	-	158
42(1967)	55	23	48	42	62	144	42	15	173	82	64	23	773	55 (6/6)	-	123
43(1968)	45	36	34	10	82	29	132	175	130	68	81	66	888	58 (8/3)	-	129
44(1969)	78	59	35	24	79	61	39	-	119	54	84	94	(726)	61 (9/25)	-	150
45(1970)	65	63	93	45	18	88	98	38	99	90	51	81	829	78 (7/31)	-	135
46(1971)	82	74	71	24	62	62	94	67	139	-	70	94	(839)	32 (7/19)	-	151
47(1972)	64	79	64	51	52	75	106	64	102	109	165	222	1,153	85 (12/1)	-	151
48(1973)	92	44	25	39	35	30	71	387	112	-	123	37	(995)	(-)	-	-
49(1974)	82	39	23	59	48	78	45	152	66	100	71	95	858	40 (12/14)	-	158
50(1975)	71	70	181	28	110	77	126	180	90	148	112	63	1,256	119 (8/23)	-	151
51(1976)	44	35	47	54	20	70	32	86	20	152	81	87	728	40 (10/20)	-	140
52(1977)	59	50	29	83	-	15	61	123	61	35	100	56	(672)	(-)	-	140
53(1978)	73	18	40	58	104	65	25	185	113	73	80	76	910	72 (8/10)	-	159
54(1979)	54	58	57	33	48	51	104	31	116	194	97	71	914	71 (10/1)	-	164
55(1980)	38	29	73	-	31	77	77	94	64	97	53	65	(698)	36 (7/23)	-	-
総計	1,265	870	1,056	(823)	(1,085)	1,481	1,567	(2,670)	1,991	(1,553)	1,647	1,410	(17,418) 13,488	-	-	(2,612)
年数	20	20	20	19	19	20	20	19	20	18	20	20	(19年7ヶ月) 15	-	-	18
平均	63.3	43.5	52.8	43.3	57.1	74.1	78.4	140.5	99.6	86.3	82.4	70.5	(889.4) 899.2	-	-	145.1

既往最多年降水量 1,256 mm (昭和50年)  
 " 最少年 " 681 mm (昭和36年)  
 " 最多月 " 387 mm (昭和48年8月)  
 " 最少月 " 13 mm (昭和39年2月)  
 " 最多日 " 119 mm (昭和50年8月23日)  
 最多3時間 " mm (昭和 年 月 日 時~ 日 時)  
 最多1時間 " mm (昭和 年 月 日 時~ 日 時)





## II 水位流量資料

- II. 1 水位流量觀測所(所屬別, 觀測機器別, 水系別)總括表
- II. 2 水位流量觀測所索引圖
- II. 3 水位流量觀測所一覽表
- II. 4 流量觀測所年別流況表

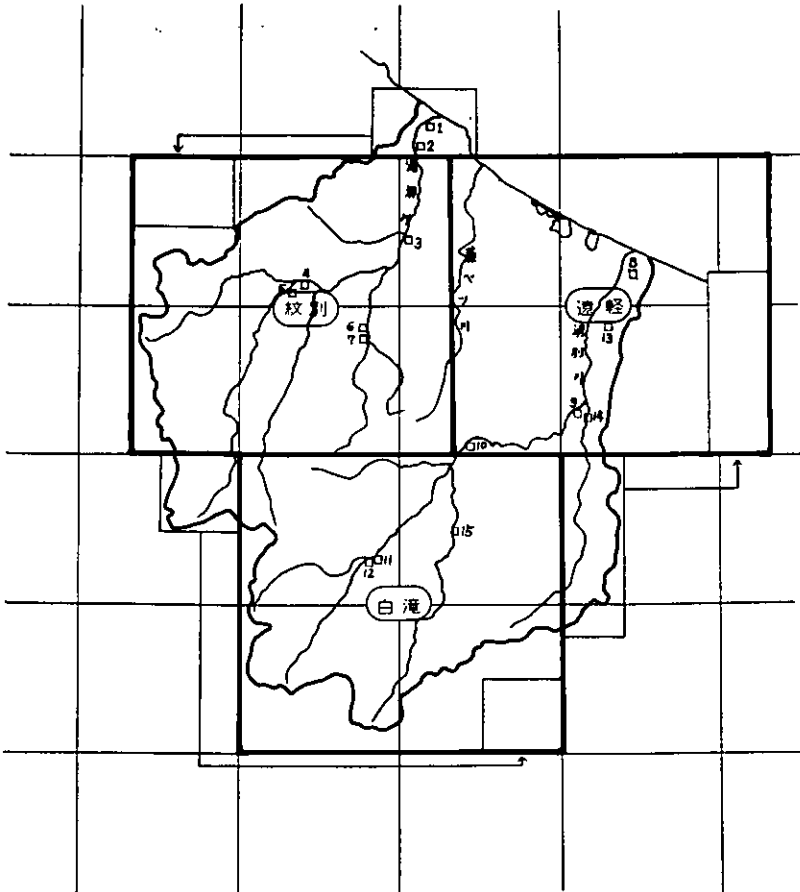


## Ⅱ. 水位 流量 資料

### Ⅱ. 1 水位流量観測所(所属別, 観測機器別, 水系別)総括表

観測機器及び 水系名  所属名	流量観測所		計
	自 記		
	渚 滑 川	湧 別 川	
北海道開発局	5	6	11
北海道電力㈱	2	2	4
計	7	8	15

### Ⅱ. 2 水位・流量観測所索引図



II. 3 水位・流量観測所一覧表

対照 番号	5 万 分 1 地形図名	所 属 名	観 測 所 名	水 系 名	第 一 次 支 派 川 名	該 当 河 川 名	所 在 地	観 測 器 種 類
							市 郡 町 村 字 番 地	
1	紋 別	北海道開発局	渚 滑 橋	渚 滑 川	—	渚 滑 川	紋別市渚滑町3線	自 記
2	"	"	ウツツ橋	"	—	"	" " 9線	"
3	上 渚 滑	"	上 渚 滑	"	—	"	" 上渚滑	"
4	滝 上	"	滝 ノ 上	"	—	"	滝上町	"
5	"	北海道電力網	"	"	—	"	" 旭町	"
6	立 牛	"	立 牛 川	"	立 牛 川	立 牛 川	紋別市字立牛	"
7	"	北海道開発局	"	"	"	"	" 上渚滑町中立牛	"
8	中 湧 別	"	中 湧 別	湧 別 川	—	湧 別 川	上湧別町中湧別	"
9	遠 軽	"	遠 軽	"	—	"	遠軽町川向	"
10	丸 瀬 布 北 部	"	丸 瀬 布	"	—	"	丸瀬布町	"
11	白 滝	北海道電力網	幽 仙 橋	"	—	"	白滝村字東区	"
12	"	北海道開発局	白 滝	"	—	"	" 白滝	"
13	遠 軽	"	開 盛	"	中 土 場 川	中 土 場 川	上湧別町字開盛	"
14	"	"	対 遠 橋	"	生 田 原 川	生 田 原 川	遠軽町向遠軽	"
15	丸 瀬 布 南 部	北海道電力網	滝	"	武 利 川	武 利 川	丸瀬布町武利滝	"

- ・備考のa)は資料を発表している図書名、b)は資料の整理状況を示す。
- ・備考の察はS52.1.1付で電源開発局から譲り受けた。

水位 定時	観測区分及び時刻			河口又は 合流点よ りの距離 km	流域 面積 km <sup>2</sup>	水位標の 零点高の 標高 m	観測開始 年月日	観測資料保存状況		備 考
	実流量観測の範囲							期間 年	場 所	
	低水時	全水位	高水時							
6時 18時		○		2.1	1,225.6	- 0.5	(普)T 7. 3. 1 (自)S27. 3.20	64	網走開発建設部	a)なし b)良好
"		○		7.0	1,198.2	5.0	(普)S27. 4. 1 (自)S28. 8. 1	30	"	a)" b)"
"		○		19.3	1,050.6	36.0	(普)T 7. 3. 1 (自)S28. 6. 1	64	"	a)流量年表(建設省) b)"
"		○		39.9	240.4	124.1	(普)T 9. 8. 1 (自)S44. 5.10	31	"	a)なし b)"
常時		○		40.0	251.0	125.0	S29. 1. 1	28	北海道電力 土木部土木計画課	a)" b)"
"		○		合流点より 12.0	162.0	125.0	S39.10. 1	18	"	a)" b)"
6時 18時		○		9.0	163.1	117.0	(普)S45.1.20 (自)S46. 5. 1	11	網走開発建設部	a)" b)"
"		○		5.2	1,452.5	8.5	(普)T 6. 5. 1 (自)S28. 4.10	65	"	a)" b)"
"		○		25.7	1,149.3	77.0	(普)T 4.11. 1 (自)S27. 7. 1	48	"	a)" b)"
"		○		46.2	994.7	174.0	(普)T 4.10. 1 (自)S30. 4.18	27	"	a)" b)"
常時		○		65.0	276.3	338.44	S32.11. 8	5	北海道電力 土木部土木計画課	a)" b)察
6時 18時		○		65.7	514.7	336.6	(普)T 2. 6. 1 (自)S47. 1.	30	網走開発建設部	a)" b)"
"		○		18.9	1,402.5	50.5	(普)T 6. 5. 1 (自)S29. 4.	30	"	a)流量年表(建設省) b)"
"		○		合流点より 1.5	290.5	72.8	(普)S42. 6. 1 (自)S43. 4.10	15	"	a)なし b)"
常時		○		11.0	261.5	236.43	S32.11. 8	5	北海道電力 土木部土木計画課	a)" b)察

II. 4 流量観測所年別流況表

対照番号 観測所名	3	所 属 名		北 海 道 開 発 局		水 系		流 況 量 (m <sup>3</sup> /sec)		比 流 量 (m <sup>3</sup> /sec/100km <sup>2</sup> )		流 出 高	
		地 形 因 名		上 渚 滑		所 在 地		年 総 量		最 大		年 平 均	
		最 大	平 水	低 水	最 小	最 大	平 水	低 水	最 小	最 大	平 水	低 水	最 小
昭和 46 年 (1971)	763.99	18.87	10.59	5.96	5.47	35.09	1.10633	7.28	3.8	1.8	1.0	0.6	3.3
昭和 47 年 (1972)	577.91	18.95	8.71	5.64	4.32	30.01	9.4937	5.50	2.9	1.8	0.8	0.5	2.8
昭和 48 年 (1973)	593.95	22.81	12.02	8.04	6.90	47.44	1.49582	5.65	4.8	2.2	1.1	0.8	4.5
昭和 49 年 (1974)	278.22	19.27	10.13	4.35	3.48	33.52	1.05611	2.64	3.2	1.8	1.0	0.4	3.2
昭和 50 年 (1975)	700.89	23.54	11.40	3.44	2.84	46.71	1.47309	6.67	4.5	2.2	1.1	0.3	4.4
昭和 51 年 (1976)	173.50	10.84	6.84	3.77	2.89	22.11	7.0654	1.65	2.3	1.0	0.6	0.3	2.1
昭和 52 年 (1977)	338.88	2.590	1.133	7.05	4.04	27.32	8.6175	3.22	2.5	1.1	0.7	0.4	2.6
昭和 53 年 (1978)	270.31	2.418	6.61	3.58	2.94	25.11	7.9182	2.57	2.3	1.2	0.6	0.3	2.4
昭和 54 年 (1979)	507.88	4.221	7.42	3.66	2.54	33.90	1.06893	4.83	4.0	1.8	0.7	0.3	3.2
昭和 55 年 (1980)	202.08	2.399	7.74	5.18	4.24	21.89	6.9234	1.92	2.3	1.0	0.7	0.5	2.1
既往 合 計	1989.74	836.93	46.476	27.490	15.892	803.79	25.36654	18.932	79.7	44.2	26.1	15.1	7.65
年 数	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
既往 平 均	76.499	32.19	17.88	10.57	6.11	30.92	975.64	72.8	3.1	1.7	1.0	0.6	2.9

对照番号	13	所属名		北海道開拓局		水系		湧別川 上湧別町字南盛	湧別川		湧別川 1.4.0.2.5 川					
		地形図名		通 経		所在地			比 較 量 (m <sup>3</sup> /sec/100ha)			流出高				
		最大	最小	最大	最小	年平均	最大		最小	年平均						
昭和46年 (1971)	793.77	466.8	209.3	12.07	698	6.47	35.76	1,127.70	56.6	3.3	1.5	0.9	0.5	2.5	804.06	
昭和47年 (1972)	258.17	314.8	17.38	9.19	251	1.24	28.55	900.68	18.4	2.2	1.2	0.6	0.2	2.0	642.19	
昭和48年 (1973)	416.78	49.91	24.99	16.84	11.34	9.31	47.29	1,491.06	29.8	3.5	1.8	1.2	0.8	3.4	1,063.14	
昭和49年 (1974)	260.48	426.4	24.40	13.42	10.04	8.25	36.02	1,135.66	18.6	3.0	1.7	0.9	0.7	2.6	809.73	
昭和50年 (1975)	901.38	56.77	32.83	15.44	7.87	6.01	53.08	1,673.99	64.3	4.0	2.3	1.1	0.6	3.8	1,193.57	
昭和51年 (1976)	117.91	27.98	12.60	10.30	8.6	5.47	23.06	729.19	8.4	2.0	0.9	0.7	0.6	1.6	519.92	
昭和52年 (1977)	210.48	24.80	11.91	9.37	7.61	5.91	26.94	849.76	15.0	1.8	0.8	0.6	0.5	1.9	605.88	
昭和53年 (1978)	212.19	25.53	14.34	9.83	6.50	5.95	26.51	835.95	15.1	1.8	1.0	0.7	0.5	1.9	596.04	
昭和54年 (1979)	506.41	34.20	16.71	9.92	6.78	4.74	32.21	1,015.81	36.1	2.4	1.2	0.7	0.5	2.3	724.28	
昭和55年 (1980)	184.68	26.24	15.30	10.70	8.30	5.79	24.69	780.86	13.1	1.9	1.1	0.8	0.6	1.8	556.76	
既 往 合 計	23,435.88	977.36	569.25	342.88	222.68	188.14	926.05	29,235.75	1,671.0	69.7	40.6	24.4	15.9	13.4	66.0	20,845.45
年 数	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
既 往 平 均	901.38	37.59	21.89	13.19	8.56	7.24	35.62	1,124.45	64.3	2.7	1.6	0.9	0.6	2.5	801.75	





### Ⅲ 水 質 資 料

- Ⅲ. 1 水質觀測地点（所属別，水系別）總括表
- Ⅲ. 2 水質觀測地点索引圖
- Ⅲ. 3 水質觀測地点一覽表
- Ⅲ. 4 水質分析資料

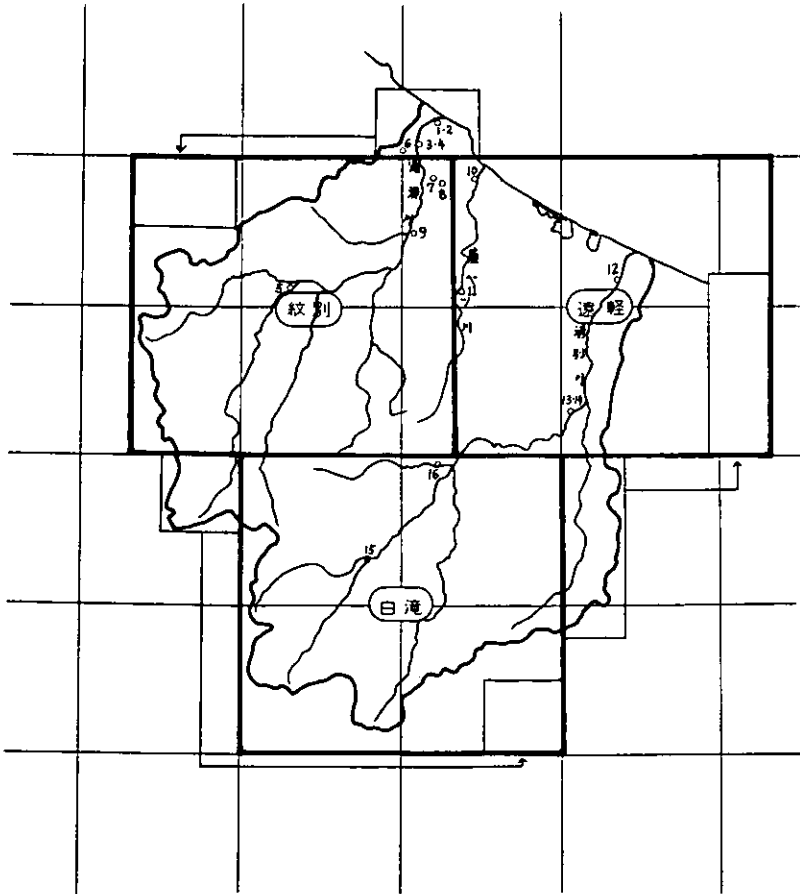


### Ⅲ. 水 質 資 料

Ⅲ. 1 水質観測地点（所属別，水系別）総括表

所属別 \ 水系別	渚滑川	深館川	湧別川	計
北海道開発局	2		1	3
北海道	7	2	4	13
計	9	2	5	16

Ⅲ. 2 水質観測地点索引図



Ⅲ. 3 水質観測地点一覧表

備考のa)は、資料を公表している図号名、b)は資料の整理状況を示す。

対照番号	5万分1地形図名	所属名	調査地点名	水系名	該河川名	所在地	河口又は合流点の上距離	観測間隔	採水所名	分析所名	分析項目数	分析資料保存状況		備考
												期間	保管場所	
1	紋別	北海道 北網走局	清内川 清内川橋	清内川	清内川	紋別市清内町	0.6	年6回	北海道 防正研究所	北海道 防正研究所	10	北海道生活環境部	北海道環境白書(北海道) b)良 好	
2	"	"	"	"	"	"	"	月1回	北海道 防正研究所	北海道 防正研究所	18	網走開発建設部	a)なし b)"	
3	"	"	紋別市上水花園 清水橋取水口	"	"	"	6.4	年6回	北海道 防正研究所	北海道 防正研究所	6	北海道生活環境部	a)北海道環境白書(北海道) b)"	
4	"	"	クツツ川橋	"	"	"	"	月1回	北海道 防正研究所	北海道 防正研究所	18	網走開発建設部	a)日本河川水質年鑑(昭和三十九年) b)"	
5	滝上	北海道	滝ノ上橋	"	"	滝上町	37.8	年6回	北海道 防正研究所	北海道 防正研究所	5	北海道生活環境部	a)北海道環境白書(北海道) b)"	
6	紋別	"	岡田橋	"	クツツ川	紋別市	合流点より 11.6	"	"	"	"	"	"	a)" b)"
7	上清内	"	榎野橋	"	中清内 森登川	"	2.0	"	"	"	9	"	"	a)" b)"
8	"	"	豊原 山 麓 取水 入渠	"	"	"	5.5	"	"	"	"	"	"	a)" b)"
9	"	"	上清内橋	"	清内川	上清内町	0.5	"	"	"	"	"	"	a)" b)"
10	"	"	宝生橋	深淵川	深淵川	"	6.0	年4回	"	"	6	"	"	a)" b)"
11	"	"	坂橋	"	"	"	20.1	"	"	"	"	"	"	a)" b)"
12	中湧別	"	中湧別橋	湧別川	湧別川	上湧別町字北浜村3区	5.3	"	"	"	5	10	"	a)" b)"
13	遠軽	"	遠軽橋	"	"	遠軽町字梅町1丁目	25.5	年6回	"	"	"	"	"	a)" b)"
14	"	北海道 北網走局	"	"	"	"	"	月1回	北海道 防正研究所	北海道 防正研究所	18	網走開発建設部	a)なし b)"	
15	滝白	北海道	滝白橋	"	"	滝白町	66.0	年4回	北海道 防正研究所	北海道 防正研究所	5	北海道生活環境部	a)北海道環境白書(北海道) b)"	
16	九海 南	"	九海 南 町 橋 取水口	"	九海川	九海町	合流点より 1.0	"	"	"	"	"	"	a)" b)"

Ⅲ. 4 水質分析資料

対照番号	5万分1地形図名	所屬名	調査地点名	水系名	該当河川名	所在地	P H					D O (PPM)					B O D (PPM)				
							5.1	5.2	5.3	5.4	5.5	5.1	5.2	5.3	5.4	5.5	5.1	5.2	5.3	5.4	5.5
1・2	紋別	北海道(網走局)	浜市捕獲場	猪狩川	猪狩川	紋別市猪狩町	6.9	7.0	7.0	7.0	7.1	11.6	12.0	11.0	12.0	11.0	1.5	1.1	1.0	0.6	0.7
3・4	"	"	紋別市上花園浄水場取水口(ウララツ橋)	"	"	"	7.0	7.0	7.0	7.2	12.1	11.0	11.0	12.0	12.0	1.2	0.9	0.8	0.6	0.9	
5	滝上	北海道	滝ノ上橋	"	"	滝上町	6.9	7.4	7.1	7.4	7.3	10.1	9.1	9.4	10.0	11.0	0.7	0.7	0.6	0.7	0.6
6	紋別	"	岡田橋	"	ウツ川	紋別市	6.9	7.2	7.0	7.2	7.2	9.9	9.4	9.2	10.0	10.0	0.8	0.6	0.7	0.8	0.5
7	上猪狩	"	盤石橋	"	中猪狩川	"	7.0	7.2	7.0	7.0	7.2	8.6	9.7	9.6	10.0	9.5	0.7	0.6	0.9	0.8	0.6
8	"	"	楚鼻股取水口	"	"	"	6.9	7.1	7.4	7.0	6.9	9.2	10.0	10.0	9.4	9.6	0.6	1.2	0.6	0.8	0.7
9	"	"	上猪狩橋	"	猪狩川	上猪狩町	6.9	7.0	7.3	7.4	7.3	9.8	10.0	8.8	9.8	10.0	0.5	0.7	0.6	0.8	0.6
10	"	"	宝生橋	熊鷹川	熊鷹川	"	7.0	6.9	6.9	6.9	6.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11	"	"	坂橋	"	"	"	7.0	7.0	6.9	7.0	7.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
12	中湧別	"	中湧別橋	湧別川	湧別川	上湧別町字北谷村3区	6.9	7.0	7.3	7.1	7.4	11.1	12.0	11.0	12.0	11.0	1.8	1.4	1.4	0.9	0.8
13・14	遠軽	北海道(網走局)	遠軽橋	"	"	遠軽町字南町1丁目	7.0	7.0	7.1	7.1	7.3	12.1	12.0	12.0	12.0	12.0	1.4	1.2	1.0	1.0	0.7
15	白滝	北海道	白滝橋	"	"	白滝村字白滝	7.1	7.2	7.1	7.4	7.4	9.7	9.7	9.5	9.5	11.0	1.0	1.3	0.8	0.7	
16	丸瀬布	"	丸瀬布町浄水場取水口	"	丸瀬布川	丸瀬布町	7.1	7.5	7.3	7.3	7.4	10.1	10.0	9.9	9.9	11.0	0.7	0.7	0.9	0.7	0.7

対照番号	5万分1地形図名	所屬名	調査地点名	水系名	該当河川名	所在地	COD (ppm)					SS (ppm)					大腸菌群数 (MPN/100ml)								
							51	52	53	54	55	51	52	53	54	55	51	52	53	54	55				
1・2	秋別	北海道(開港場)	雄勝港	雄勝川	雄勝川	秋別市雄勝町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.55	1.1	1.1	8	1.5	2.2×10 <sup>3</sup>	5.2×10 <sup>3</sup>	1.1×10 <sup>3</sup>	2.0×10 <sup>3</sup>	3.2×10 <sup>3</sup>
3・4	"	"	秋別市上水花園(春水場) (クダツタ)	"	"	"	-	-	-	-	-	-	-	-	1.92	3.3	3.6	7	2.1	2.5×10 <sup>3</sup>	2.1×10 <sup>3</sup>	6.4×10 <sup>3</sup>	3.2×10 <sup>3</sup>	4.8×10 <sup>3</sup>	
5	滝上	北海道	滝ノ上橋	"	"	滝ノ上町	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	5	1.2	8	5	3.1×10 <sup>3</sup>	5.5×10 <sup>3</sup>	1.5×10 <sup>3</sup>	5.1×10 <sup>3</sup>	1.5×10 <sup>3</sup>	
6	秋別	"	岡田橋	"	クツツ川	秋別市	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8	2.0	4	2.9	1.3	8.0×10 <sup>3</sup>	9.8×10 <sup>3</sup>	2.5×10 <sup>3</sup>	1.0×10 <sup>3</sup>	5.8×10 <sup>3</sup>	
7	上猪苗	"	笹釘橋	"	中猪苗登雲川	"	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0	8	8	1.3	8	4.6×10 <sup>3</sup>	2.1×10 <sup>3</sup>	5.5×10 <sup>3</sup>	7.0×10 <sup>3</sup>	3.5×10 <sup>3</sup>	
8	"	"	足早殿鞍山乳水橋入橋	"	"	"	-	-	-	-	-	-	-	-	4.0	1.1	6	1.4	1.5	1.7×10 <sup>3</sup>	1.6×10 <sup>3</sup>	5.5×10 <sup>3</sup>	1.3×10 <sup>3</sup>	1.7×10 <sup>3</sup>	
9	"	"	上猪苗橋	"	猪瀬川	上猪苗町	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	2	4	3	1.5	2.4×10 <sup>3</sup>	1.6×10 <sup>3</sup>	1.6×10 <sup>3</sup>	6.7×10 <sup>3</sup>	3.3×10 <sup>3</sup>	
10	"	"	宝生橋	猪瀬川	猪瀬川	"	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	"	"	橋	"	"	"	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	中猪別	"	中猪別橋	猪別川	猪別川	上猪苗町字北浜村3区	-	-	-	-	-	-	-	-	1.79	1.3	9	1.4	1.0	8.2×10 <sup>3</sup>	5.4×10 <sup>3</sup>	2.7×10 <sup>3</sup>	9.2×10 <sup>3</sup>	6.5×10 <sup>3</sup>	
13・14	遠艇	北海道(開港場)	遠艇橋	"	"	遠艇町字舟町1丁目	-	-	-	-	-	-	-	-	9.0	8	7	1.8	1.0	4.4×10 <sup>3</sup>	4.3×10 <sup>3</sup>	2.4×10 <sup>3</sup>	1.6×10 <sup>3</sup>	1.7×10 <sup>3</sup>	
15	白滝	北海道	白滝橋	"	"	白滝村字白滝	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0	1.9	3.3	5	1.2	1.5×10 <sup>3</sup>	3.4×10 <sup>3</sup>	1.2×10 <sup>3</sup>	5.9×10 <sup>3</sup>	2.8×10 <sup>3</sup>	
16	丸瀬布(附)	"	丸瀬布町節水口(節水橋)	"	丸瀬布川	丸瀬布町	-	-	-	-	-	-	-	-	2.5	1	7	<1	2	1.6×10 <sup>3</sup>	1.2×10 <sup>3</sup>	5.2×10 <sup>3</sup>	7.7×10 <sup>3</sup>	1.2×10 <sup>3</sup>	

## IV 取水口，排水口資料

### IV. 1 農業用取水口，排水口資料

IV. 1. 1. 1 農業用取水口（かんがい面積規模別，水系別）総括表

IV. 1. 1. 2 農業用取水口（取水方法別，水系別）総括表

IV. 1. 2 農業用取水口一覧表

IV. 1. 3 農業用排水口（排水方法別，水系別）総括表

IV. 1. 4 農業用排水口一覧表

### IV. 2 水道用取水口資料

IV. 2. 1 水道用取水口（使用事項別，水系別）総括表

IV. 2. 2 水道用取水口一覧表

### IV. 3 工業用取水口，排水口資料

IV. 3. 1 工業用取水口（取水方法別，水系別）総括表

IV. 3. 2 工業用取水口一覧表

IV. 3. 3 工業用排水口（排水方法別，水系別）総括表

IV. 3. 4 工業用排水口一覧表





IV 取水口，排水口資料

IV. 1 農業用取水口，排水口資料

IV. 1. 1. 1 農業用取水口（かんがい面積規模別，水系別）総括表

水系別	かんがい 面積別		かんがい 面積別		計
	0~19.9 ha	20.0~49.9 ha	50.0~99.9 ha	100.0~199.9 ha	
渚滑川	11	1	1	2	15
湧別川	3	4			7
計	14	5	1	2	22

IV. 1. 1. 2 農業用取水口（取水方法別，水系別）総括表

水系別	取水方法別		取水方法別		計	
	井堰によるかんがい ヶ所	面積(ha)	自然取水によるかんがい ヶ所	面積(ha)	ヶ所	面積(ha)
渚滑川	3	388.9	12	123.2	15	512.1
湧別川	6	148.5	1	24.4	7	172.9
計	9	537.4	13	147.6	22	685.0

IV. 1. 2 發榮用取水口一覽表

※許可水量の上段は最大取水量、下段は常時取水量の許可を示す。

対照番号	5万分1地形図名	水系名	第1次支線川名	次級河川名	当該河川名	当川名称	用水名称	土壌改良区又は団体(管理者)の名称	団地面積ha	かんがい面積ha	取水量(㎡/sec)			取水期間	取水施設	規模	備考
											最大	電時	許可水量				
S-1	碓上	碓上川	—	碓上川	碓上川	碓上川	碓上川	碓上川	8.57	1.31043	0.87361	1.31043	5.1~9.20	鉄筋コンクリート	H=0.87 L=27.0		
S-2	立	—	—	—	—	—	—	—	132.9	0.91019	0.60679	0.91019	5.1~9.20	溢流式	H=0.97 L=23.0		
S-3	—	—	—	—	—	—	—	—	170.3	1.26439	0.84292	1.26439	5.1~9.20	鉄筋コンクリート	H=2.0 L=33.0		
S-4	碓上	—	メナシベツ川	メナシベツ川	メナシベツ川	—	—	—	5.4	0.01233	0.00822	0.01233	4.20~9.20	自然取水			
S-5	立	—	オンラネツ川	オンラネツ川	オンラネツ川	—	—	—	9.2	0.02676	0.01784	0.02676	5.1~9.20	(コンクリート)			
S-6	—	—	—	—	—	—	—	—	21.9	0.00963	0.00642	0.00963	4.20~9.20	自然取水			
S-7	—	—	—	—	—	—	—	—	11.2	0.02797	0.01865	0.02797	4.20~9.20	—			
S-8	—	—	—	—	—	—	—	—	9.5	0.02376	0.01584	0.02376	4.20~9.20	—			
S-9	—	—	—	—	—	—	—	—	1.20	0.02626	0.01751	0.02626	4.20~9.20	—			
S-10	—	—	—	—	—	—	—	—	6.0	0.01500	0.01000	0.01500	4.20~9.20	—			
S-11	碓上	—	—	—	—	—	—	—	6.0	0.00883	0.00589	0.00883	4.20~9.20	—			
S-12	—	—	—	—	—	—	—	—	9.7	0.02022	0.01348	0.02022	4.20~9.20	(コンクリート)			
S-13	—	—	—	—	—	—	—	—	7.5	0.01722	0.01148	0.01722	4.20~9.20	自然取水			
S-14	—	—	—	—	—	—	—	—	5.0	0.01462	0.00975	0.01462	4.20~9.20	—			
S-15	碓上	—	—	—	—	—	—	—	1.98	0.0493	0.03302	0.0493	4.20~9.20	—			
U-1	丸瀬布	碓上川	—	碓上川	碓上川	碓上川	碓上川	碓上川	2.80	1.70920	0.85460	1.70920	5.1~9.20	土砂吐2門	H=1.8 L=19.3		
U-2	北	—	—	—	—	—	—	—	4.58	0.47410	0.34520	0.47410	5.1~9.20	溢流コンクリート	H=2.42 L=5.20		
U-3	碓上	—	—	—	—	—	—	—	17.4	0.16400	0.12620	0.16400	5.1~9.20	溢流コンクリート	H=1.0 L=3.00		
U-4	丸瀬布	—	—	—	—	—	—	—	6.2	0.02490	0.01910	0.02490	4.20~9.20	溢流コンクリート	H=0.8 L=1.20		
U-5	生田	—	—	—	—	—	—	—	3.64	0.5405	0.41580	0.5405	4.20~9.20	溢流コンクリート	H=1.0 L=3.00		
U-6	碓上	—	—	—	—	—	—	—	1.47	0.03380	0.02650	0.03380	4.20~9.20	溢流コンクリート	H=0.5 L=1.00		
U-7	丸瀬布	—	—	—	—	—	—	—	2.44	0.06100	0.04640	0.06100	5.1~9.20	溢流コンクリート	H=1.0 L=3.00		

IV. 1. 3 農業用排水口（排水方法別，水系別）総括表

排水方法別 水系別	自然排水			計		
	ヶ所	全流域面積 ha	計画排水量 m <sup>3</sup> /sec	ヶ所	全流域面積 ha	計画排水量 m <sup>3</sup> /sec
渚滑川	3	2,700	35.95	3	2,700	35.95
湧別川	12	7,414	44.16	12	7,414	44.16
計	15	10,114	80.11	15	10,114	80.11

IV. 1. 4 農業用排水口一覽表

対照 番号	5万分1 地形図名	水系名	第1次 支線川名	該当 河川名	排水 名称	土地改良区 又は団体(管 理者)の名称	団 体 面 積 ha	全流域 面積 ha	計画 排水量 m <sup>3</sup> /S	排水設備		排水 期間	備考
										施設	規模		
S-1	秋別	渚滑川	コタン川 (川向川)	コタン川 (川向川)	第一号渠	秋別市農桑合 協同組合	210	710	10.80	自然排水	土水路	年間	
-2	"	"	—	下渚滑 十二線川	第二号 幹線	"	475	780	9.29	"	"	"	
-3	上渚滑	"	中渚滑 豊盛川	中渚滑 豊盛川	"	秋別市	121	1,210	15.86	"	"	"	
U-1	中湧別	湧別川	ポント川	ポント川	番号幹線	湧別町	1,003	2,030	8.70	"	"	"	
-2	"	"	"	"	基線	"	98	180	0.70	"	"	"	
-3	"	"	"	"	東2線	"	203	320	1.30	"	"	"	
-4	"	"	"	"	東3線	"	210	380	1.50	"	"	"	
-5	"	"	"	"	1号幹線	"	104	150	0.60	"	"	"	
-6	"	"	"	"	東5線	"	492	930	4.30	"	"	"	
-7	"	"	"	"	東6線	"	133	300	1.80	"	"	"	
-8	九 北 瀬 布 部	"	富奥川	共栄の 川	第三号 渠	上湧別町	150	740	0.50	"	ブロック 築工 計=1.50m	"	
-9	遠 野	"	開盛川	開盛川	開盛幹線	"	196	500	2.5	"	土水路	"	
-10	"	"	福田川	福田川	中央幹線	遠野土地改良区	400	712	9.26	"	"	"	
-11	"	"	安第一幹線	安第一幹線	中央支線	"		192	2.50	"	"	"	
-12	白 滝	"	"	"	支湧別 幹線	白滝村	239	980	10.5	"	"	"	

IV. 2 水道用取水口資料

IV. 2. 1 水道用取水口（使用事項別，水系別）総括表

水系別	使用事項別		上水道		簡易水道		計	
	ヶ所	取水量 m <sup>3</sup> /sec	ヶ所	取水量 m <sup>3</sup> /sec	ヶ所	取水量 m <sup>3</sup> /sec	ヶ所	取水量 m <sup>3</sup> /sec
渚滑川	3	0.27246	1	0.00382	4	0.27628		
湧別川	2	0.08725	5	0.03041	7	0.11766		
計	5	0.35971	6	0.03423	11	0.39394		

IV. 2. 2 水道用取水口一覽表

対照 番号	5万分1 地形図名	水系名 支派川名	第1次 支派川名	該当 河川名	取水地点	事業者名 (工場名)	給水区域 (工場 所在地)	主要 使用 事項	水利権者	取水量 (m <sup>3</sup> /sec)			取水設備 施設 規模	備考
										最大	常時	許可 水量		
S-1	紋別	渚滑川	—	渚滑川	紋別市渚滑町 元西185	紋別市	市街地全域	上水道	紋別市			0.247	自然 取水	
S-2	上渚滑	"	渚滑川	渚滑川	紋別市上渚滑 町有林紋別 事業区82林班	"	上渚滑町 全	簡易 水道	"			0.00382	"	
S-3	滝上	"	サクル川	北嶺川	滝上町サクル 原野3034	滝上町	滝上市街地 濁川市街地	上水道	滝上町			0.00810	"	
S-4	"	"	"	影の沢川	滝上町字北丸	"	"	"	"			0.01736	"	
U-1	丸瀬布 北	湧別川	—	湧別川	遠軽町渚川 494番地	遠軽町	市街地全域	"	遠軽町			0.081	"	
U-2	遠軽	"	中土堀川	中土堀川	上湧別町 南1区386	上湧別町	屯田市街地 中湧別 市街	"	上湧別町			0.00625	堰上 取水	
U-3	生田原	"	生田原川	仁田布川	生田原町 生田原 安田事業区5	生田原町	安田地区	簡易 水道	生田原町			0.00204	自然 取水	
U-4	"	"	"	オンネ ナイ川	生田原町 字生田原769	"	本町地区	"	"			0.00534	"	
U-5	丸瀬布 南	"	瀬戸瀬川	高橋沢川	遠軽町瀬戸 瀬ノ里 5林班	遠軽町	瀬戸瀬地区	"	遠軽町			0.00176	"	
U-6	丸瀬布 北	"	丸瀬布川	松田の 川	丸瀬布町上 丸有林遠軽 事業区268林班	丸瀬布町	本町地区	"	丸瀬布町			0.01262	"	
U-7	白滝	"	支湧別川	湯ノ沢	白滝村字白 滝田有林白 滝事業区3林班	白滝村	市街地全域	"	白滝村			0.00865	"	

IV 3 工業用取水口・排水口資料

IV 3 1 工業用取水口（取水方法別，水系別）総括表

取水方法 水系別	自然取水		ポンプによる取水		計	
	ヶ所	取水量 $m^3/sec$	ヶ所	取水量 $m^3/sec$	ヶ所	取水量 $m^3/sec$
滑川	1	0.0021	5	0.0528	6	0.0549
藻籠川	1	0.25000			1	0.25000
湧別川	1	0.00528	1	0.00750	2	0.01278
計	3	0.25738	6	0.0603	9	0.31768

IV. 3. 2 工業用取水口一覧表

対照 番号	5 万分 1 地形図名	水系名	第 1 次 支流川名	飲 当 河 川 名	取水地点	事業者名 (工場名)	給水区域 (工場 所在地)	主要使用 事 項	水利権者	取水量 ( $m^3/sec$ )			取水設備		備考
										最大	常時	許可 水量	施設	規模	
S-1	上落所	滑滑川	—	滑滑川	紋別市滑滑町 7丁目 17番地	佐藤木材 工業㈱	紋別市 上落所	原木散布	佐藤木材 工業㈱			0.0021		自然 取水	
S-2	滝上	#	—	#	滝上町オンパ ネップ原野 北線 279	滝上木材 加工㈱	滝上町 字濁川西	原料散布	滝上木材 加工㈱			0.00750		ポンプ	
S-3	紋別	#	滑滑古川	滑滑古川	紋別市滑滑町 3丁目 13の2	日本化学 肥料㈱	紋別市滑滑町 3丁目	化学飼料	日本化学 肥料㈱			0.03000		#	
S-4	滝上	#	五十二川	五十二川	滝上町上落 滑原野 1線 1910	佐藤薬粉 工場	滝上町	でんぷん	佐藤 忠			0.00560		#	
S-5	#	#	サクルー川	サクルー川	滝上町サク ルー原野 1538	滝上林産 工業㈱	滝上町 字滝美	原木散布	滝上林産 工業㈱			0.00750		#	
S-6	#	#	#	#	# 1545	野原薬粉 工場	滝上町	でんぷん	野原健二			0.00220		#	
Mo-1	上落所	藻籠川	—	藻籠川	紋別市元紋 別 222	北見バルブ ㈱	紋別市元 紋別 243	原木散布	北見バル ブ ㈱			0.25000		自然 取水	
U-1	生田原	湧別川	生田原川	ウラシマ ナイ川	生田原町 字生田原 704	牧野木材㈱	生田原町	原木散布	牧野木材 ㈱			0.00750		ポンプ	
U-2	白滝	#	十勝 石沢川	十勝 石沢川	白滝村 字白滝 1341	山本芳男	白滝村	でんぷん	山本芳男			0.00528		自然 取水	

IV. 3. 3 工業排水口（排水方法別、水系別）総括表

排水方法別 水系別	自然排水		ポンプによる排水		計	
	ヶ所	排水量 $m^3/sec$	ヶ所	排水量 $m^3/sec$	ヶ所	排水量 $m^3/sec$
渚 滑 川	5	0.0758	1	0.0231	6	0.0989
湧 別 川	3	0.0195			3	0.0195
そ の 他	1	0.2500			1	0.2500
計	9	0.3453	1	0.0231	10	0.3684

IV. 3. 4 工業用排水口一覧表

対照 番号	5万分1 地形図名	水系名	第1次 支流川名	該 当 河 川 名	排 水 地 点	事 業 者 名 又 は 事 業 名	計 画 排 水 量 $m^3/S$	排 水 設 備		備 考
								施 設	規 模	
S-1	紋 別	渚 滑 川	—	渚 滑 川	紋別市渚滑町	北海道協乳業協	0.0231	ポンプ 埋設コンクリ ート管		
S-2	滝 上	#	—	#	滝上町オンラネップ原野	滝上木材加工協	0.0021	自然排水		小河川に放流
S-3	紋 別	#	渚滑古川	渚滑古川	紋別市渚滑町	日本化学肥料協	0.0550	#		直接放流
S-4	#	#	#	#	#	神 戸 商 店	0.0052	#		#
S-5	#	#	渚滑 コタン川	渚滑 コタン川	#	丸 銀 漁 業 協	0.0024	#		排水路
S-6	#	#	#	#	#	日 岳 協	0.0111	#		放流管
O-1	上渚滑	オホー ツク海	—	—	# 元紋別	北見バルブ 協	0.2500	#		暗渠排水溝 オホーツク海へ直接放流
U-1	中湧別	湧 別 川	ブイタウン 川	ブイタウン 川	湧別町曙町	あけぼの食品協 湧別工場	0.0093	#		直接放流
U-2	#	#	中土場川	中土場川	上湧別町字北兵村	ホクユウ食品 工業協	0.0093	#		#
U-3	遠 軽	#	#	中土場川 支 流	#	天野食品工業協	0.0009	#		排水路

## V 主要井戸資料

V. 1. 1 主要井戸（用途別）総括表

V. 1. 2 主要井戸（縣市町村別，用途別）総括表

V. 2 工業用井戸一覧表

V. 3 雑用井戸一覧表





V. 主要井戸資料

V. 1. 1 主要井戸 (用途別) 総括表

用途別 県別	工業用井戸		雑用井戸		計	
	本数	揚水量 $m^3/d$	本数	揚水量 $m^3/d$	本数	揚水量 $m^3/d$
北海道	30	12,046	7	2,288	37	14,334

V. 1. 2 主要井戸 (県市町村別, 用途別) 総括表

用途別 市町村別	工業用井戸		雑用井戸		計	
	本数	揚水量 $m^3/d$	本数	揚水量 $m^3/d$	本数	揚水量 $m^3/d$
紋別市	7	3,260			7	3,260
遠軽町	17	4,426	4	1,452	21	5,878
上湧別町	4	2,000	3	836	7	2,836
湧別町	2	2,360			2	2,360
計	30	12,046	7	2,288	37	14,334

V. 2 工業用井戸一覽表

対照番号	5万分1地形図名	井戸の位置	所有者又は管理者	用途	作年月	井深度	井径	自然水位 (観測年月日)	揚水水位 (観測年月日)	揚水量 (観測年月日) m <sup>3</sup> /D	水温 (観測年月日) ℃	ストレート管の位置	備考
1	萩	萩別	石川商店	水産加工	S48.6	深				200			
2			丸銀漁業協		44.3	淺				400			
3			神戸商店		50.3	深				150			
4	上諸清	元萩別	萩別生コンクリート工業	コンクリート製造	43.4					385			
5	萩	萩別	森丹商店	水産加工	42.9	深				165			
6			池沢商店		45.9					160			
7			日本化学材料協	卸	52.4					1,800			
1	遠	遠	萩西尾商店	冷蔵工場	37.11	浅				378			
2			井上産業協	冷蔵工場	42.8					594			
3			遠雄木材工業協		32.6					317			
4			萩産マツ子船木物産工場		26.10					298			
5			萩山口産商		30.5					486			
6			白井木材工業協	製材用	26.7					225			
7			萩箱		24.10					311			
8			萩原木材協		34.6					214			
9			萩光産業	ワイラー製材用	48.1	浅				266			
10			大塚木材物産工場	製材用						218			
11			共立産業		47.12					187			
12			萩若花製粉所	製粉用	48.1					168			
13			萩翁木木材	製材用	47.8					142			
14			萩遠雄生コンクリート工場	ワイラー生コン	50.10					113			
15			小野寺製粉	製材用	50.6					112			
16	丸瀬布北部		笠木木材協		49.5					176			
17			中沢木材店		23.5					221			

村 照 番 号	5 万 分 1 地 形 図 名	井 戸 の 位 置	所 存 者 又 は 管 理 者	用 途	作 年 月	井 深 度 井 径	自 然 水 位 (観測年月日)	揚 水 水 位 (観測年月日)	揚 水 量 (観測年月日) m <sup>3</sup> /D	水 温 (観測年月日) °C	ス ト レ ー ナ の 位 置	考 査
1	中 湧 別	上 湧 別 町 字 北 湧 別 4.7	菅 印 乳 業 株 中 湧 別 工 場	乳 製 品 製 造	S.44.6				1,000			
2	"	字 北 湧 別 1 区 106 番 1	ホ ク ニ ュ ー 食 品 工 業 株	洗 浄 ・ 冷 却	41.5	機			400			
3	遠 湧 別	上 湧 別 町 字 屯 田 市 街 地	池 内 工 業 株	ポ イ ラ ー 用	40.4				200			
4	"	"	"	冷 却 用	44.10				400			
1	中 湧 別	湧 別 町 字 湧 別	ス ノ ー 食 品 工 業 株	農 産 物 加 工	42.5	機			1,520			
2	"	" 湧 町	あ け ぼ の 食 品 株	農 水 産 物 貯 蔵	44.8				840			

V. 3 雑 用 井 戸 一 覧 表

村 照 番 号	5 万 分 1 地 形 図 名	井 戸 の 位 置	所 存 者 又 は 管 理 者	用 途	作 年 月	井 深 度 井 径	自 然 水 位 (観測年月日)	揚 水 水 位 (観測年月日)	揚 水 量 (観測年月日) m <sup>3</sup> /D	水 温 (観測年月日) °C	ス ト レ ー ナ の 位 置	考 査
1	遠 湧 別	遠 湧 別 1 条 止 1 丁 目	遠 湧 厚 生 総 合 病 院	雑 用 ポ イ ラ ー	S.32.12				252			
2	"	" 岩 塚 湯 南 1 丁 目	遠 湧 中 央 病 院	"	30.6				163			
3	"	" " 北 1 丁 目	遠 湧 学 田 病 院	"	35.12				137			
4	"	" 字 田	遠 湧 地 区 衛 生 事 業 組 合	飲 用 雑 用	42.10				900			
1	中 湧 別	上 湧 別 町 字 北 湧 別 859	村 上 組 株	砂 利 洗 浄	43.4				548			
2	遠 湧 別	" 字 南 沢 村 1 区	段 辺 組 株	"	47.9				168			
3	"	" 字 岡 登	丹 野 工 業 株	"	52.6				120			



## VI 上水道及び簡易水道資料

VI. 1 水道用水（県事業別，主要項目別）総括表

VI. 2 上水道及び簡易水道地区一覧表

VI. 2. 1 上水道地区一覧表

VI. 2. 2 簡易水道地区一覧表



VI. 上水道及び簡易水道資料

VI. 1 水道用水（県事業別、主要項目別）総括表

主要項目別 県事業別	ヶ所	計画給水区域内 の計画給水人口 (人)	給水区域内 の現在人口 (a) (人)	給水区域内 の現在給水人口 (b) (人)	現況 普及率 (b)/(a) %	日最大取水実績量		摘 要
						地下水 (m <sup>3</sup> /d)	地表水 (m <sup>3</sup> /d)	
北海道	12	79,806	68,765	61,867	90.0		29,674	
上水道	4	66,670	58,478	52,418	89.6		25,324	
簡易水道	8	13,136	10,287	9,449	91.9		4,350	



VI. 2 上水道及び簡易水道地区一覽表

VI. 2. 1 上水道地区一覽表

対照番号	5 万分 1 地形図名	所在地	事業主体者名	設置年度	計		給水区域現在人口	現在給水面積	現在給水人口	普及率 ( $\frac{b}{a} \times 100$ ) %	計画1人1日当りの平均水量	日最大給水能力		日最大取水量	日最大取水増量		使用井数	許水量	備考	
					給水区域面積	人口						認可	現在		地下水	地表水				井数
1	鞍別上落帯	鞍別市落帯町元西	鞍別市	63	17.0	37,200	29,587	11.4	29,345	99.2	408	20,250	20,250	21,262	-	15,750	-	-	0.247	
2	丸瀬布北部	遠藤町清川	遠藤町	65	20.0	18,000	18,651	7.5	14,215	76.2	245	6,300	6,300	6,930	-	5,997	-	-	0.081	
3	中湧別	上湧別町南丘村	上湧別町	57	25.0	6,200	5,530	25.0	4,181	75.6	100	900	930	930	-	1,331	-	-	0.00625	
4	滝上	滝上町字北丸	滝上町	64	4.5	5,270	4,710	4.5	4,677	99.3	418	2,000	2,000	2,200	-	2,246	-	-	0.02546	

VI. 2. 2 簡易水道地区一覽表

対照番号	5 万分 1 地形図名	所在地	事業主体者名	設置年度	計		給水区域現在人口	現在給水面積	現在給水人口	普及率 ( $\frac{b}{a} \times 100$ ) %	計画1人1日当りの平均水量	日最大給水能力		日最大取水量	日最大取水増量		使用井数	許水量	備考	
					給水区域面積	人口						認可	現在		地下水	地表水				井数
1	上落帯	鞍別市上落帯	鞍別市	51	1.5	2,200	1,576	1.5	1,258	79.8	100	330	330	330	-	450	-	-	0.003819	
2	"	" 小向	"	63	1.2	256	226	1.2	213	94.2	297	136	136	150	-	156	-	-	0.00173	
3	中湧別	" 沼の上	"	40	0.6	1,000	398	0.6	390	98.0	100	150	150	165	-	387	-	-	0.00191	
4	生田原	生田原町本町	生田原町	51	2.0	2,800	2,161	2.0	2,085	96.5	100	420	420	462	-	513	-	-	0.00534	
5	生田原	" 安田	"	58	2.4	1,000	741	2.4	688	92.8	107	160	160	176	-	171	-	-	0.00204	
6	丸瀬布北部	遠藤町瀬戸瀬	遠藤町	62	1.5	480	452	1.0	299	66.2	210	138	138	152	-	109	-	-	0.00176	
7	丸瀬布北部	丸瀬布町	丸瀬布町	50	2.1	3,800	3,184	2.1	3,078	96.7	180	1,090	1,090	1,090	-	1,816	-	-	0.01261	
8	白滝	白滝村	白滝村	62	2.2	1,600	1,549	2.2	1,438	92.8	355	680	680	1,000	-	748	-	-	0.00865	

## Ⅶ 工業用水使用状況資料

Ⅶ. 1 工業用水使用状況（水源別）総括表

Ⅶ. 2 工業用水使用状況調査一覧表



Ⅶ. 工業用水使用状況資料

Ⅶ. 1 工業用水使用状況(水源別)総括表

用途別 県名	1日当りの淡水平均実績水量 (m <sup>3</sup> /d)						地下水の使用 井戸本数	備 考
	工業用水道	地 表 水	地 下 水	上 水 道	そ の 他	合 計		
北 海 道	—	21,600	7,085	1,274	12,340	42,299	8	浅井戸・深井戸の別不明

Ⅶ. 2 工業用水使用状況調査一覧表

市町村名	主要業種 (中分類)	1日当り淡水平均実績水量 (m <sup>3</sup> /d)						地下水の使用井戸本数		備 考
		工業用水道	地 表 水 (伏流水を含む)	地 下 水	上 水 道	そ の 他 (回取水を含む)	合 計	浅井戸 本	深井戸 本	
紋 別 市	パルプ・紙 紙加工品	—	21,600	4,890	1,255	12,180	39,925	4	—	
上 湧 別 町	食 料 品	—	—	2,078	—	160	2,238	3	—	
滝 上 町	木材・ 木製品	—	—	117	19	—	136	1	—	



## Ⅷ ダム資料

Ⅷ. 1 ダム（主要項目別，水系別）総括表

Ⅷ. 2 ダム一覧表



Ⅳ. ダム資料

Ⅳ. 1 ダム (主要項目別, 水系別) 総括表

主要項目別 水系別	ダム数	有効貯水量 (10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> )	経済効果別ダム数		備考
			水調達ダム	発電(ダム)	
湧別川	1	500	1ヶ所	1ヶ所	25,000 瓩

Ⅳ. 2 ダム一覧表

対照番号	5万分1 地形図名	ダム名	位置	目的	水系名	該当 河川名	堰堤		有効 貯水量 10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	経済効果				使用開始年 月	使用者名	事業主体者名 (管理者名)	備考		
							高さ m	型式		洪水調節量 計画貯水量 m <sup>3</sup> /S	かんがい (面積) ha	発電 (最大出力) 瓩	上水道 (日給水量) m <sup>3</sup> /D					工業用水 (日給水量) m <sup>3</sup> /D	
1	丸瀬布 南部	武利	丸瀬布町 字上武利	P	湧別川	武利川	271 (低) 330 (高) 601	15.5	中央アスファ ルトシヤ水 泥型フィル ダム	500	1,350	—	—	25,000	—	—	S 55.4	北海道電力 株式会社	北海道電力 株式会社

直……直轄ダム

間……他流域からの導水





## IX 水力発電所資料

IX. 1 水力発電所総括表

IX. 2 水力発電所一覧表



IV. 水力発電所資料

IV. 1 水力発電所総括表

主要項目別 水系別	発電所数	形式分類		使用水量		発電力		年間発電 電力量 MWH	企業者別の数
		ダム	水路式	最大m <sup>3</sup> /sec	常時m <sup>3</sup> /sec	最大	常時		
港滑川	2	—	2	6.62	3.31	404	236	3,816	北海道電力4 白滝村農協1
湧別川	3	—	1	35.56	14.35	25,890	690	113,087	
計	5	—	3	42.18	17.66	26,294	926	116,903	

IV. 2 水力発電所一覽表

対照番号	5万分1 地形図名	水系名	該当 河川名	事業所名	発電所名	型式	位置		流域 面積 km <sup>2</sup>	使用水量		発電力		年間発電 電力量 MWH	貯水(調整)池			水位(ELm)	発電 開始 年月日	備考			
							取水口	放水口		最大 m <sup>3</sup> /S	常時 m <sup>3</sup> /S	最大 m	常時 m		最大 MW	常時 MW	ダム 高さ m				ダム構造 型式	有効 容量 10 <sup>4</sup> m <sup>3</sup>	取水 水位 m
1	滝上	港滑川	港滑川	北海道 電力社	滝川	水 路	滝上町字 滝上原野	滝上町字 オンオン 原野	486	2.22	1.11	19.18	19.18	292	146	2,822	6.4	重力式 コンクリート	—	114	93	S 10.10.8	取水ダム・水溜は 滝上町土地改良区 設備
2	"	"	"	"	滝ノ上	"	滝上町 3条通	滝上町 1条通	457	4.40	2.20	6.97	8.48	112	90	994	2.3	"	—	123	114	T 14.12.2	
3	丸瀬布 北	湧別川	湧別川	"	湧別川	ダム 水路	滝上町字 滝上原野	滝上町字 滝上原野	880	6.96	6.96	13.03	13.03	690	690	5,861	14.6	重力式 コンクリート ダム	500	132	114	T 10.3.9	S 55.4.23 取水ダム改造
4	白滝	"	"	白滝村 白滝協同 組合	白滝村 白滝原野	水路	白滝村字 白滝原野	白滝村字 白滝原野	280	3.0	2.5	16.2	16.2	200	—	—	—	—	—	—	—	S 27.5.29	
5	丸瀬布 北	湧別川	湧別川	北海道 電力社	湧別川	ダム 水路	丸瀬布町 字上成利	丸瀬布町 字上成利	271 (計 330間 計 601)	25.60	4.89	114.30	128.40	25,000	—	107,226	15.5	中央アスファ ルト・水溜 コンクリート	500	262	132	S 55.4.23	湧別川より支水路 で取水

(注) (1).....紅後堀水面積  
(2).....他流域からの湧水面積



## X 溜池資料

X. 1 溜池(市町村別, 使用目的別)総括表

X. 2 溜池一覽表

X. 2.1 溜池一覽表(100,000  $m^3$ 以上)



X. 溜池 池 資 料

X. 1 溜池（市町村別、使用目的別）総括表

使用目的別	発電用溜池		有効貯水量
	ヶ所数		
	10万㎡以上	1万~10万㎡	
速 産 町	1		500,000㎡

X. 2 溜池 一 覧 表

X. 2. 1 溜池 一 覧 表（100,000㎡以上）

対照番号	名称	5万分1地形図名	所在地	事業主体	工事時期	管理者	目的	受益面積 ha	堰堤形式	有効貯水量 ㎡	堰堤高 m	堰堤長 m	溜池の現況	備 考
1	駒別川調整池	丸瀬布北郷	速産町字新野上番外地	北海道電力株式会社	S 52.6 ~ 55.4	北海道電力株式会社	P	-	コンクリート重力ロックアップ式 複合型	500,000	14.6	547.3	異常なし	





## XI 下水道資料

### XI. 1 下水道一覽表



料 資 道 水 下

表 概 一 道 水 下 1. N

村 番 号	5 万 分 1 地 形 図 名	水 系 名	縣 当 河 川 名	排 水 地 点	町 市 村 或 其 他 名 称	排 水 区 域 面 積 ha	計 西 排 水 人 口	計 西 排 水 量 m <sup>3</sup> /S	排 水 施 設		備 考
									施 設 規 模	規 模	
1	校 別 上 落 前	オ ン ネ ナ イ 川	オ ン ネ ナ イ 川	校 別 市 南 ケ 丘 畑 立 地	校 別 市	480	21,000	0.131	自 然 排 水	放 流 渠	
2	遠 越 町	オ ン ネ ナ イ 川	オ ン ネ ナ イ 川	遠 越 町 字 田 2 番 地	遠 越 町	215	10,900	0.04185			



## XII 営農用水等資料

XII. 1 営農用水等（事業主体別，主要項目別）総括表

XII. 2 営農用水等一覽表



Ⅷ. 営農用水等資料

Ⅷ. 1 営農用水等(事業主体別、主要項目別)総括表

事業主体別	主要項目別	ヶ所	取水量(m <sup>3</sup> /a)		受益対象			摘	要
			最大	常時	戸数	牛	その他		
国		5	855.7	549.4		5,616		地下水利用の地区	1ヶ所
北海道		7	716.74	477.88	706	8,675	154	地表水	4 "
上野別町		1	928	656	446	1,340		地下水	1 "
								地表水	6 "
								地下水	1 "
								地表水	1 "
計		13	2,500.44	1,683.28	1,152	15,631	154	地下水	2 "
								地表水	11 "



Ⅶ. 2 営農用水等一覽表

村照番号	5万分1地形図名	市町村名(地区名)	事業主体名	事業主体	事業年度	水			取水		浄水方法	受益対象				備考
						地表水(含む伏流水)	地下水	井戸	深	最大		常時	(戸)	戸数	乳用牛	
					S	水系名	河川名	井戸	深			戸数	乳用牛	肉用牛	馬豚	
1	教別	教別市(鶴岡地区)	田	校別市	草地開墾事業	若布川	川向川	-	-	9.3	-	(350)	-	-	-	川向団地(人数は50中落団地分を含む)
2	教別上落	教別市(教別地区)	北海道	"	開拓地整備	オンネナイ川	オンネナイ川	-	-	109.8	73.2	106	268	-	-	旧施設を48年度整備
3	上落	若布(元教別地区)	"	"	畑	藤野川	シマララキ川	-	-	2.60	1.76	30	681	-	-	
4	中落	教別市(教別地区)	"	"	開拓地整備	シブノツナ川	シブノツナ川	-	-	351.5	234.3	230	695	584	-	本事業では配水費の改修のみで施設は旧開拓事業で実施(豚)154
5	上落	教別市(鶴岡地区)	田	"	草地開墾事業	若布川	若布川	1	浅	22.8	-	(-)	-	350	-	中落団地
6	中落	上落町(上落地区)	上落町	上落町	農村総合センター	若布川	若布川	-	-	928	656	446(11560)	180	995	-	簡水共同事業
7	"	上落町(上落地区)	田	"	開墾事業	"	スップコヤマナイ川	-	-	47.9	25.6	(-)	153	-	-	地区範囲なし
8	中落	若布(元教別地区)	"	"	"	"	札島川	-	-	12.7	6.8	(-)	-	451	-	"
9	中落	上落町(鶴岡地区)	北海道	上落町	菅田水	"	支流の沢川	-	-	4.11	2.74	44	1,085	413	-	
10	中落	若布(元教別地区)	"	"	畑	"	川日沢川	-	-	2.78	1.85	34	767	296	-	
11	中落	若布(西落地区)	"	若布町	菅田水	"	"	1	深	4.25	2.83	44	1,109	548	-	
12	中落	若布(東地区)	"	"	開拓地整備	本間沢川	本間沢川	-	-	241.7	161.2	218	508	217	-	施設は46~47年度は54~55
13	上落	若布(上地区)	田	若布町	開墾事業	若布川	若布川	-	-	763	517	(-)	2,006	661	1,193	地区範囲なし

## 付 録

### 1. 主要水系調査作業要領

昭和54年3月

#### 1 目 的

本調査は、広域にわたる水利用計画の策定に資する目的をもって、国土調査法第2条第4項に規定する水調査として、既存の水文・利水資料の収集整理を中心として総合的な調査を行うものである。

この結果は、5万分の1利水現況図及び簿冊に作成する。

#### 2 調査内容

次のものに関して調査を行う。

- |                  |                                                          |           |         |
|------------------|----------------------------------------------------------|-----------|---------|
| (1) 水文資料         | 1) 降水量                                                   | 2) 水位、流量  |         |
|                  | 3) 水質                                                    | 4) 地下水位など |         |
| (2) 利水関連資料       | 1) 河川等の管理区分                                              | 2) 農業用水   | 3) 上下水道 |
|                  | 4) 工業用水                                                  | 5) 水力発電所  |         |
|                  | 6) 利水関連の施設(ダム、取水堰、樋門、樋管ポンプ場、集水埋渠、井戸、溜池、浄水場、下水処理場)及び受益地域等 |           |         |
| (3) 治山治水<br>関連資料 | 1) 保安林                                                   |           |         |

#### 3 調査作業実施機関

- (1) 調査は、関係都道府県に委託し、又は国の出先機関に依頼して実施するものとする。
- (2) 利水現況図の編集図化は、国土地理院に支出委任して実施するものとする。
- (3) 簿冊の編集は、国土庁土地局国土調査課が行う。

#### 4 調査実施期間

調査作業期間は、表1により2ヶ年とする。

#### 5 調査地域

本調査は、全国を対象として一級水系を中心とする主要水系を含む地域について、逐次調査を行うものとする。

表1 主要水系調査標準工程表

	第一年度			第二年度																									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
予備打合	●																												
現地説明会		●																											
資料作成				-----																									
基図作成				-----																									
資料作成指導																													
最終報告会 (於東京)																													
原稿図作成																													
同上修正																													
簿冊原稿作成																													
同上修正																													
現地調査																													
現地閲覧																													
図印刷校正				(利水現況図は基図とも9色刷とする。)																									
簿冊印刷校正																													

昭和〇～〇年度調査の地域は別紙1に示すとおりとする。(省略、実施に当たり付す。)

## 6 利水現況図作成

### (1) 利水現況図図式

利水現況図図式は「主要水系調査の利水現況資料図作成要領」(昭和54年3月)によるものとする。

### (2) 利水現況資料図

#### ア 作成方針

(ア) 利水現況資料図は、原則として調査項目ごとに1枚の地図に記入するものとする。ただし地域の実態と相関連する調査項目、及び地図表現上の複雑さ等を考慮して、2種以上の調査項目を1枚の地図に図示してもよい。

(イ) 利水現況資料図の使用地図は、原則として、国土地理院発行の1/50,000地形図とするが、下記の第11～13図は、縮尺1/10,000～1/30,000程度の地図でもよい。

(ウ) 印刷された既存の地図がある場合は、これを利用又は加除して差支えない。

## イ 調査項目

- 第1図 水系流域界，河川法適用区間，各種（降水量，水位，流量，水質及び地下水位）観測所の位置，河道横断の水門及びその他の堰の位置とし，これらの指定区間の上流端に横線をひいて区間を明示する。
- 第2図 農業用の用水路，取水・排水施設等の位置，農業用ダム
- 第3図 上，下水道の用排水路，その各益地区の範囲，及び関係取水・排水施設等の位置，上水用ダムとし，下水道は公共下水，流域下水を対象とし，都市下水は除く。
- 第4図 工業用排水路，その各受益地区の範囲及び関係取水・排水等施設の位置，工業用ダム。
- 第5図 水力発電所の位置，発電用取水堰及び水路，発電用ダム，水位調節，多目的ダム及び関係取水施設の位置（各ダムについては基本計画決定のもの及び工事中のもの位置，計画湛水区域についても記入すること。）
- 第6図 農業用井戸地点の位置図（第2図との合併可）
- 第7図 水道用井戸地点の位置図（第3図との合併可）
- 第8図 工業用井戸地点の位置図（第4図との合併可）
- 第9図 雑用・冷房用井戸地点の位置図。
- 第10図 地下水規制区域の範囲（第9図との合併可）
- 第11図 治山，治水関係の施設及び区域
- 第12図 工事中の埋立地の海岸線

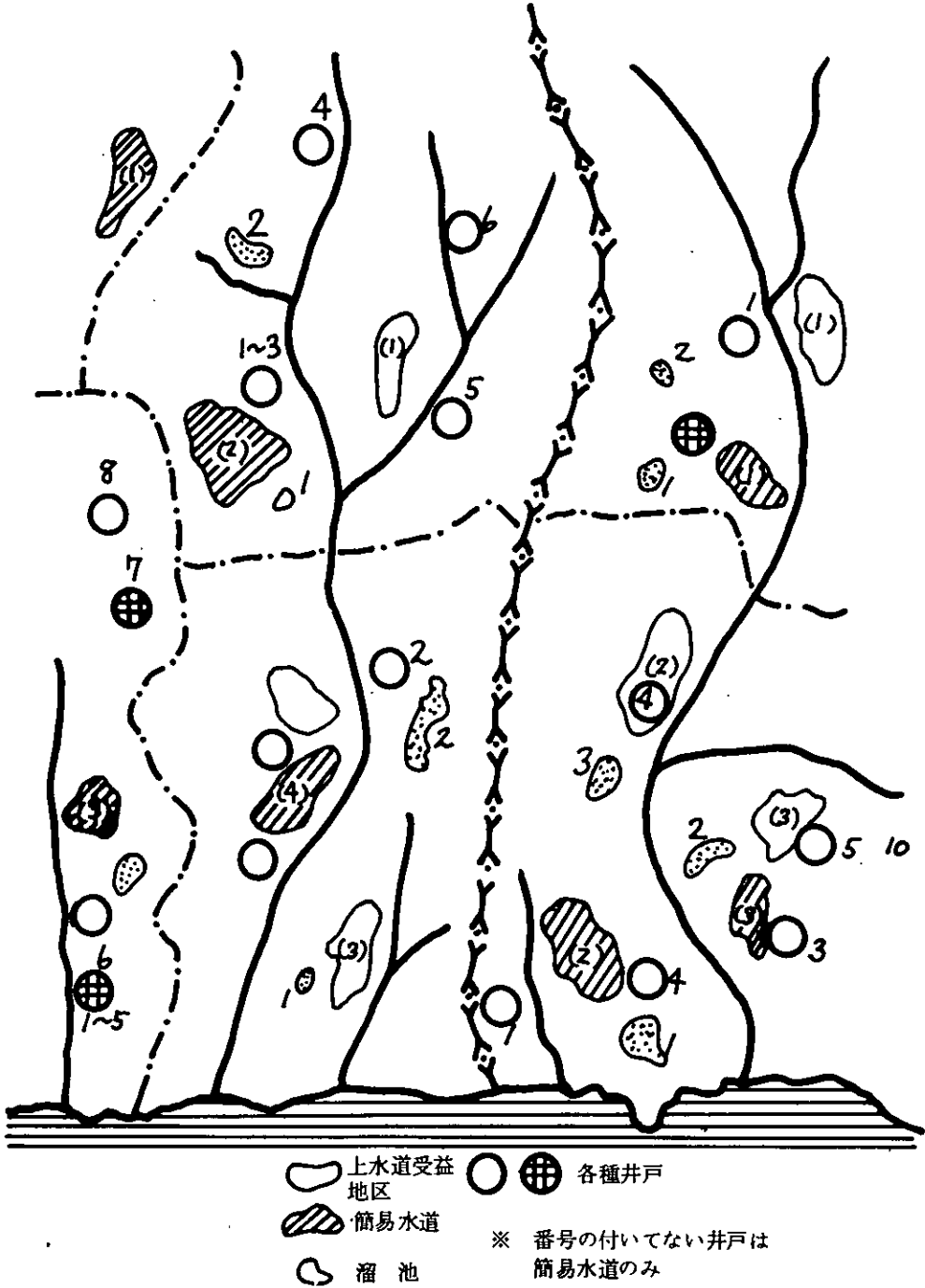
上記各図に記入する事項についての適用範囲，記号表現法は，主要水系調査の利水現況資料図作成要領によるものとする。なお調査票，一覧表との対象ができるよう整理番号を付すること。

番号のふり方は，原則として次の基準による。

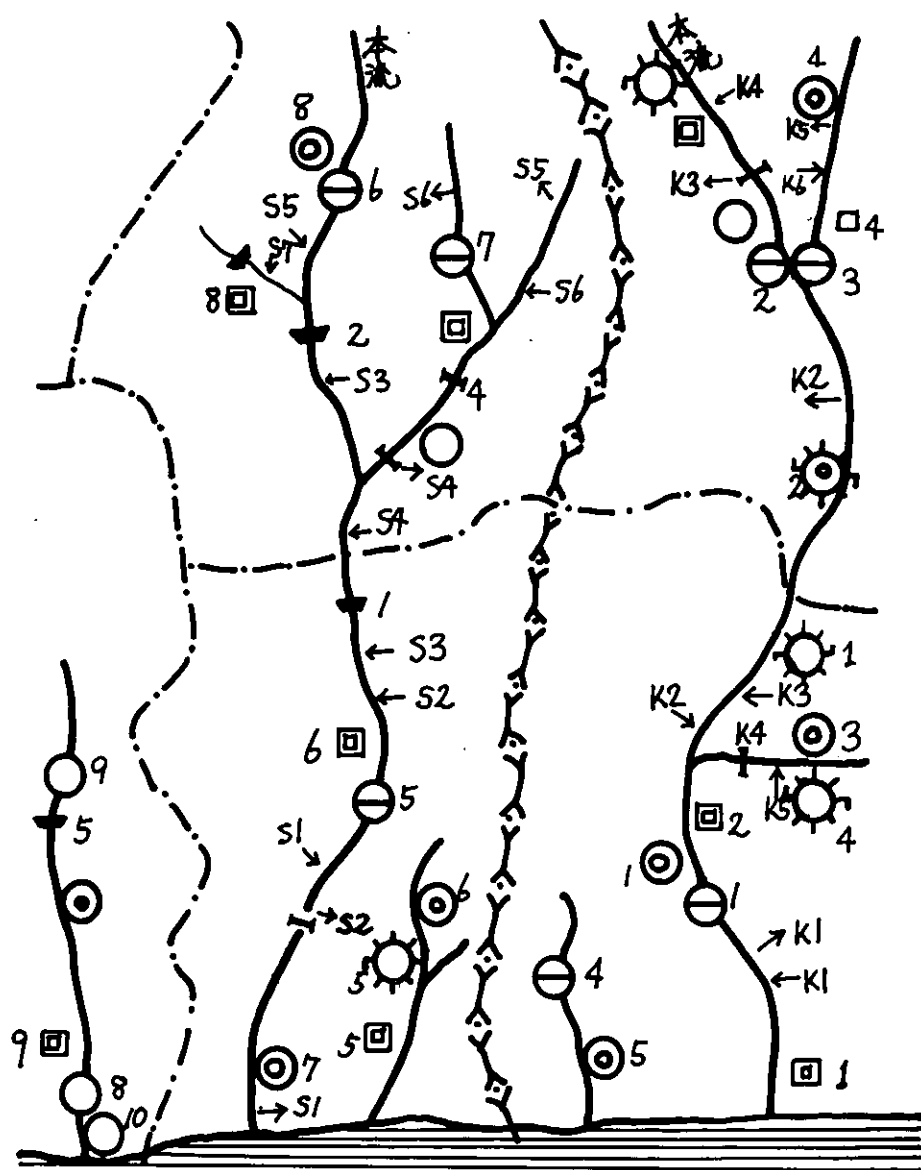
(7) 市町村別に番号をふるもの

(東から西に向けて)

(下流から上流に向けて)



(f) 水系別に番号をふるもの



- |          |           |         |
|----------|-----------|---------|
| ↑↑↑ 取水施設 | ◎ 降水量観測所  | ▲ ダム    |
| ↓↓↓ 排水 " | □ 水位・流量 " | ☼ 水力発電所 |
|          | ○ 水質 "    |         |

## 7 調査書資料表の作成

水文及び利水関連等の調査資料は、正副2部とし、利水現況資料図との対応には、十分な注意を払って作成すること。(地図上の整理番号及び観測所名、名称などと一致させること。)

### (1) 降水量資料

- ア. 調査区域内に設置されている全降水量観測所について、様式1号の調査表(B5版)に必要事項を記入する。
- イ. 個々の降水量観測所の年表とりまとめについては、長期間(20年以上のデータのあるもの)の資料のある観測所を対象とし、観測データを様式2号の月別降水量年表にとりまとめること。

### (2) 水位・流量資料

- ア. 調査区域内に設置されている全水位、流量観測所について、様式3号の調査票(B5版)に必要事項を記入する。
- イ. 個々の流量観測所の年表とりまとめについては長期間(10年以上のデータのあるものとする。)の資料のある観測所を対象とし、流況表を様式4号の年表にとりまとめること。なお、整理方法が異なる場合は、様式を変更して差支えない。

### (3) 水質資料

- ア. 調査区域内に設置されている全水質調査地点について、様式5号の調査票(B5版)に必要事項を記入する。
- イ. 健康、生活環境に係る環境基準及び排水基準表を作成する。
- ウ. 水質調査地点ごとの水質経年変化表(年度平均)を最近5年について作成する。  
イ、ウの様式は任意とする。

### (4) 地下水位資料

- ア. 調査地区内に設置されている全地下水位観測井戸について、様式6号の調査表(B5版)に必要事項を記入する。

### (5) 取水口及び排水口資料

- ア. 調査区域内にある取水口、排水口について
  - (ア) かんがい用排水の取水口、排水口については10ha以上の受益面積のものを様式7号、8号に従って記入すること。(10ha未満の受益面積の地区については、資料図に取水口、排水口の位置のみを記入すること)。
  - (イ) 上水道、工業用水及び多目的用水の取水口、排水口については様式9号、10号に従い記入すること。
- イ. 一覧表中の調査項目について

- (ケ) 用水名称は、用水又は堰の一般に広く知られている通称とすること。
- (ク) 土地改良区又は団体の名称で、2つ以上の団体が共同管理している場合は、並記すること。
- (ク) 土地改良区が組織されていない地区の団体面積は、費用負担面積、費用負担がない場合には実面積を記入すること。地区内に畑地かんがい地区がある場合には、田、畑に分けて記入すること。
- (カ) かんがい面積及び団体面積が明らかでない場合は約〇〇haと記すること。
- (カ) 取水量のうち最大取水量は、洪水時を除くかんがい期間中の最大流量とする。常時取水量は代掻時期出穂期、落水時期以外のかんがい期間中の常時取水量とする。許可水量は河川法による水利権量とし、その許可期間を( )書で記入すること。ただし協定、慣行の水利権量は( )とし備考欄にその旨を記入すること。

(カ) 取水設備について

- a 施設のうち取水堰は、木堰、練石堰、コンクリート堰の別とし、可動堰の場合は( )書で一部可動又は全可動と記入する。また、樋門、樋管、集水埋渠、ポンプ等の区別をし、2つ以上を有するものは列記する。なおこれらの取水、排水施設がなく、掘割などによって取水口まで導入しているものは自然取入とし、備考欄にその旨を記入する。排水施設についても樋門、樋管、ポンプ、自然排水の別を記入すること。

b 規模については

樋門、樋管	巾(B)m×高さ(H)m×門数
取水堰	長さ(L)m×高さ(H)m
可動堰	各々適宜
ポンプ	口径 $\phi$ mm×馬力(VP)×台数
集水埋渠	径 $\phi$ mm×延長(L)m

キ 一個の取・排水施設で2つ以上の使用目的を有するものは、それぞれの一覧表に記入し備考欄に他の目的別の表にも記載のある旨を注意する。地図にはそれぞれの目的別の整理番号を併記すること。

(6) 主要井戸資料

- ア. 調査区域内にある地下水(井戸)について、揚水量500 $\text{m}^3$ /日以上井戸につき使用目的別(農業、工業、上下道、その他)に様式11号の一覧表に従い調査記入すること。
- イ. 用途は農業、工業、上下道、簡易水道、その他に区分し記入すること、自然水位は地表からの深さを記入すること。ストレーナーの位置はできるだけ詳細に記入すること。
- ウ. 1つの井戸で2つ以上の使用目的を有するものは、それぞれの一覧表に記入し、備考欄に他の目



的別の表にも記載のある旨を注記する。その場合地図にはそれぞれの番号を併記すること。

(7) 上水道及び簡易水道地区資料

ア. この調査は水道法にもとづく水道事業、簡易水道事業、専用水道及び水道用水供給事業であつて、昭和※年※月※日までに認可又は確認を受けている水道事業を調査記入すること。なお飲料水供給施設（計画給水人口100人以下の供給施設）はこの調査の対象外とする。（※実施時決定）

イ. 様式12号の各項目について上水道、簡易水道その他別に調査記入すること。

ウ. 一覧表のうち、計画給水区域面積及び人口は、水道法の認可をえた計画給水区域の面積及び人口を記入すること。現況普及率は  $\frac{\text{現在給水人口(b)}}{\text{給水地区内現在人口(a)}} \times 100$  の数字とする。（小数点以下1位とし、2位は4捨5入すること）許可水量は、水利権を有する水量と法定、慣行、協定についての区分を ④ ③ ② を付して記入すること。

使用井戸、取水口などの対照番号を備考欄に記入すること。

(8) 下水道地区資料

ア. 下水道一覧表は、公共下水道及び流域下水道について様式13号に従って調査記入すること、なお公共下水道台帳及び流域下水道台帳の調査事項を参考にすること。

(9) 工業用水使用状況資料

ア. 調査区域内にある工場について用水量1,000 m<sup>3</sup>/日以上施設を対象として様式14号の一覧表に市郡別集計をそれぞれ取得水源別（工業用水道・地表水・地下水・上水道・その他）に調査記入すること。

イ. 業種名は工業統計表の業種別分種によること。

ウ. 淡水水源の内、工業用水道は契約日量を、地表水は1日の平均実績を、地下水は浅井戸及び深井戸について、1日の平均実績取水量を、上水道・簡易水道は1日の平均使用量を記入すること。

エ. 地下水の使用井戸本数については、深度30m以浅のものを浅井戸、また30m深のものを深井戸として記入すること。

オ. 工場敷地の位置及び整理番号はとくに図示しない。

(10) ダム資料

ア. ダム一覧には、ダムの高さ15m以上のものについては様式15号に従って調査記入すること。

なお、有効貯水量は建設当初のものでなく、堆砂量を考慮して昭和※年※月の推定有効貯水容量を記入すること。（※：実施年度に決定する。）

イ. 一覧表の調査項について

(ウ) 目的は A：かんがい

F：洪水調節

P：発電

W：上水道

I：工業用水道に分類記入すること。

(イ) 型式はタイプと材料名を記入すること。(例. 重力式コンクリート)

(ロ) 経済効果については基本計画等により公表されている該当項目の数字を記入すること。

(ハ) 使用開始の欄で一部湛水の場合は「使用開始 年 月 日に一部湛水」と併記する。また、工事中のもの、若しくは各事業主体において着工の決定したものは工事中と記入し、備考に竣工予定時期を記入すること。

#### 01) 水力発電所資料

ア. 水力発電所一覧表には、電力会社、電源開発株式会社、公営電気事業、自家用電気事業（出力 10 kW 以上）を対象とし、昭和※年 4 月現在電気事業の認可を受けて運転開始しているもの、工事中のもの、電源開発調整審議会で着工の決定したものについて様式16号に従って水系ごとに下流より調査記入すること。（※：実施年度の 4 月）

イ. この調査は通産省、通商産業局において調査記入すること。

ウ. 一覧表の調査項目について

(イ) 型式は水路式、ダム水路式、ダム式、調整池式に分類記入すること。

(ロ) 使用水量、有効落差、発電力の欄で一部発電のものは、( ) 書で記入すること。

(ハ) ダム構造型式は、タイプと材料名を記入すること。

(例：重力式コンクリートダム。)

(ニ) 有効貯水容量は建設当初のものではなく、堆砂量を考慮して昭和 年 月 の推定有効量を記入すること。

(ホ) 発電開始の欄で一部発電の場合は、発電開始年月日欄に一部発電と併記する。また工事中のもの、若しくは電源開発調整審議会において着工地点に決定したものは工事中と記入し、備考に竣工予定時期を記入すること。

#### 02) 溜池資料

ア. 溜池一覧表には農業用、水道用、工業用、その他の各項目別に有効貯水量 10,000 m<sup>3</sup> 以上のものについて、様式 17 号に従って調査記入すること。

イ. 対象となる溜池のうち、有効貯水量 100,000 m<sup>3</sup> 以上の溜池には対照番号を付し、位置を地図上に記入する。

ウ. 有効貯水量は建設当初のものではなく、堆砂量を考慮して昭和※年 4 月現在の推定有効貯水容

量を記入すること。（※：実施年度）

- エ. 現況については、満水しない、堤体より漏水、池敷より漏水、土砂堆積、堤体に変化、余水吐又は放水路の断面不足、取水装置不良、などについて溜池現況を記入すること。

水 系 ( 北 上 ) 川	降 水 量 観 測 所 台 帳				昭 和 47 年 8 月 作 成	
番 号 ( 1 )					所 属 名 ( 建 設 省 )	
観 測 所 名 ( 川 舟 )					該 当 河 川 名 ( 和 賀 川 )	
第 1 次 支 派 川 名 ( 和 賀 ) 川	第 2 次 支 派 川 名 ○ ○ 川		地 形 図 名			
所 在 地 ( 岩 手 県 和 賀 郡 沢 内 町 川 舟 )						
観 測 時 刻	定 時	強 雨 時	観 測 機 器 の 種 類	標 高	緯 度	経 度
	( 9 時 )	( 毎 時 )	( 自 記 )	( 10 m )		
設 置 年 月 日 ( S 20. 3 )	観 測 資 料 保 存 期 間 ( S 20. 4 ~ 現 在 ま で )					
観 測 開 始 年 月 日 ( S 10. 4. 1 )	観 測 資 料 保 存 場 所 ( 東 北 地 方 建 設 局 河 川 管 理 課 )					
備 考	a )( 雨 量 年 表 ( 建 設 省 河 川 局 ) S 13 年 ~ S 44 年 ) b )( 良 好 )					

注 ( 1 ) 備 考 欄 に a ) 資 料 を 発 表 し て い る 図 書 名 及 び 発 行 年 月 日 を 記 入 す る こ と。

b ) 資 料 の 整 理 状 況 を 記 入 す る こ と。

( 2 ) 観 測 機 器 の 種 類 の 欄 に は、自 記 又 は 指 示 と 記 入 す る こ と。な お 併 設 の 場 合 に は 自 記 指 示 と 記 入 す る こ と。

( 3 ) 設 置 年 月 日、観 測 開 始 年 月 日、観 測 資 料 保 存 期 間 の 年 表 示 は 明 治 M、大 正 T、昭 和 S で 記 入 す る こ と。

(様式2号)

〇〇降水量観測所別降水量年表

〇〇県〇〇郡〇〇村大字〇〇

5万分の1地形図名 〇〇水系〇〇川

整理番号

年(西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年	最多日量 (月日)	雨天日数		
															≥1.0mm	≥1.0mm	
総計																	
年																	
平均																	

既往最多年降水量

〇〇年

〇〇月

〇〇月

〇〇日

最多3時間

最多1時間

年)

年)

年 月)

年 月)

年 日)

年 日時~日時)

年 日時)

注1注)①欠測日を含む月

( )

( )

欠測月を含む年

( )

閉鎖年

( )

不完全な年を含む年数

( )

不完全な年を含む合計年数(ヶ月)

( )

不完全な年を含む年平均

( )

)を付す。

②不完全データがあるときは一欄に2行書とする。

水系 (雄物川)	水位観測所台帳		昭和(47)年(8)月作成	
番号 (50)	流量		所属名 (建設省)	
観測所名 (柳田橋)	川		該当河川名 (雄物川)	
第1次支派川名 (〇〇川)	川			
所在地	地形図名			
観測時刻 (9)時	定時	実流量	観測機器の種類	水位標竿点 高の標高
		低水のみ	範囲	
		全水位	河口又は合流 点よりの距離	流域面積
		(〇)		
設置年月日 (S 30. 10)			観測資料保存期間 (S 31. 4 ~ 現在まで)	
観測開始年月日 (S 31. 1. 1)			観測資料保存機関 (東北地方建設局河川管理課)	
備考	a) 流量年表(建設省河川局) S 31年~S 44年 b) 良好			

注 (1) 備考欄に a) 資料を発表している場合、その図書名及び発行所その他を記入すること。

b) 資料の整理状況を記入すること。

(2) 水位のみの観測所の場合は標記の「水位 観測台帳」の文字のうち、流量を—で消すこと。

(3) 実流量観測の範囲欄には、流量観測を実際に行っている水位の状況により大別すること。

(4) 観測機器の種類欄には、自記又は普通と記入すること。

(5) 設置年月日、観測開始年月日、観測資料保存期間の年表示は明治M、大正T、昭和S で記入すること。

(様式4号)

〇〇流量観測所流況表

〇〇県〇〇郡〇〇村大字〇〇〇〇

整理番号 5万分の1地形図名 流域面積、〇〇km<sup>2</sup>

年(西暦年)	流 量 m <sup>3</sup> /sec						年 総 量 × 10 <sup>6</sup> m <sup>3</sup>	比 流 量 ( m <sup>3</sup> /sec / km <sup>2</sup> )				流出高 mm			
	最大	豊水	平水	低水	渇水	最小		年平均	最大	豊水	平水		低水	渇水	最小
昭和 年( )															
~~~~~															
既 往 合 計															
調 査 年 数															
既 往 平 均															

( 様式 5 号 )

水系	( 太 田 川 )	水 質 調 査 地 点 台 帳		昭 和 年 月 作 成	
番 号	10			所 属 名	建 設 省
調 査 地 点 名	( 旭 橋 )			所	
第 1 次 支 派 川 名	○ ○ ○	第 2 次 支 派 川 名	○	該 当 河 川 名	
所 在 地	広 島 県 広 島 市 庚 牛	5 万 分 の 1 地 形 図 名			
観 測 開 隔	月 1 回	対 応 水 位 流 量 観 測 所 名	感 潮	河 口 又 は 合 流 点 よ り の 距 離	
( 観 測 頻 度 )		淀	④ 無	3.1 km	
採 水 所 名	中 国 地 方 建 設 局 太 田 川 工 事 事 務 所				
分 析 所 名	中 国 地 方 建 設 局 広 島 技 術 事 務 所				
調 査 開 始 年 月 日	S 39 年 10 月	分 析 資 料 保 管 場 所	中 国 地 建 ・ 河 川 部 河 川 管 理 課		
分 析 項 目 数					
備 考					



水、	(太田)川			昭和(47)年(8)月作成	
番	(10)	地下水観測井戸台帳		所	属名 (広島県)
観測井戸名	(〇〇〇小学校内)			河川名	(太田川)
所在地	(広島県広島市〇〇)				
	(広島県企画部)	5万分の地形図名			
観測目的	(地盤沈下)	井戸掘さく年月日	(S 35.4)	井戸孔径	mm (350)mm
井戸深度若しくはス トレーナー深度	(100 m (75 ~ 80 m, 90 ~ 95 m))				
沈下計の有無	有	観測の頻度	週 1 回	観測計器の種類	普通 (手観測)
観測の対象となっ ている水位	(静水位)			観測井戸の地盤高	(5)m
観測開始年月日	(S 35. 5. 1)	資料保管場所		(広島県企画部)	
備考					

農業用取水口一覽表 (様式7号)

整理番号	5万分1地形図名	河川名	第1次支派川名	該当河川名	用水名称	土地改良又はは団体(管理者名)の名称	団地面積 ha	かんがい面積 ha	取水量			取水設備		取水期間	備考
									最大 m <sup>3</sup> /sec	常時 m <sup>3</sup> /sec	許可水量	施設	規模		

農業用排水口一覽表 (様式8号)

整理番号	5万分1地形図名	河川名	第1次支派川名	該当河川名	排水名称	土地改良区又はは団体(管理者名)の名称	団地面積 ha	全流域面積 ha	計排水量 m <sup>3</sup> /sec	排水設備		当排水口が受ける用水の番号・名称	排水期間	備考
										施設	規模			

水道用(工業用)取水口一覽表 (様式9号)

整理番号	5万分1地形図名	河川名	第1次支派川名	該当河川名	取水地点	事業者名(工場名)	給水区域(工場所在地)	主要使用事項	水利権者	取水量			取水設備		備考
										最大	常時	許可水量	施設	規模	

(様式10号)

工業用排水口一覽表

整理番号	5万分1地形図名	河川名	第1次支流川名	該河川名	排水地点	事業者名又は事業者名	計排水量	排水設備施設規模	当排水口が受ける用水の番号・名称	備考

(様式11号)

使用目的別井戸一覽表

整理番号	5万分1地形図名	井戸の位置	所有者又は管理者	用途	作井年月	深度m	井径mm	自然水位 観測(年月日)m	揚水水位 観測(年月日)m	揚水量 観測(年月日)	水温 観測(年月日)°C	ストレーナの位置 m	備考

(様式12号)

上水道及び簡易水道地区一覽表

整理番号	5万分1地形図名	所在地	事業主体者名	計画目標年次	計画給水区城面積	計画給水人口	現在給水面積	現在給水人口	現在普及率 $b/a \times 100$	状況 計画/日当たり平均給水量 均給水量	最大給水能力 認可済	最大給水能力 現在公称	計画日最大取水量 m <sup>3</sup> /d	日最大取水量 地下水	日最大取水量 地表水	使用井戸本数	許可水量 m <sup>3</sup> /sec	備考	
																			給水人口(a)人

下水道一覽表 (様式13号)

整理番号	5万分1地形図名	河川名	該河川名	排水地点 (放流)	事業者 または 事業名	排水区域 面積	計画排水 人口	計画排水量	排水施設		備考
									施設	規模	

工業用水使用状況調査一覽表 (様式14号)

都市名	主要業種 (中分類)	主要事業 所名と事 業所数	1日当たり淡水最大実績水量 (m <sup>3</sup> /日)				計 合	備考
			工業用水道	地下水	上水道	その他 (回収水を含む)		

ダム一覽表 (様式15号)

整理番号	5万分1地形 図名	ダム名	位置	目的	水系名	該河川名	集水面積 km <sup>2</sup>	堰堤 高さ	有効 貯水量 10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	経済効果			使用 者名 (管理者名)	事業主体 名 (管理者名)	備考
										洪水調節 計画洪水量 m <sup>3</sup> /日	発電 出力 (最大出力) kW	上水道 日給水量 m <sup>3</sup> /日			

水力発電所一覽表 (様式16号)

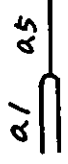
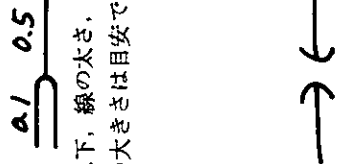
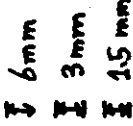
五万分一地形図名	水該当河系名	事業者名	発電所名	型式	位置		流域面積 km <sup>2</sup>	使用水量		有効落差		発電力		年間発電電力量	貯水(調整)池			水位(Lm)		発電開始年月日	備考		
					取水口 (取水河川名)	放水口		最大 m <sup>3</sup> /sec	常時 m <sup>3</sup> /sec	最大 m	常時 m	最大 kW	常時 kW		ダム高 m	ダム構形式	有効容量 10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	取水位 m	放水位 m				

溜池一覽表 (様式17号)

整理番号	名称	5万分1地形図名	所在地	事業主体	工事期間	管理者	目的	受益面積 ha	堰堤型式	有効貯水量 m <sup>3</sup>	堤高 m	堤長 m	溜池の現況	備考

## 2. 主要水系調査の利水現況図資料図作成要領

昭和54年3月


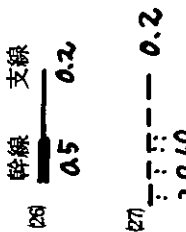
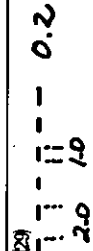
資料図種	区分	名称	適用範囲	表示区分等	資料図の図式	
					形(寸法)	色
第1図	河	一級河川(1)	1. 河川法による一級河川の適用区間を表示する。	a 指定区間の上流端に横線を引いて区間を明示する。	(1) 	紫
		二級河川(2)	2. 河川法による二級河川の適用区間を表示する。	b 形状は原則として5万分の1地形図に合わせる。ただし、埋立、干拓河川改修による変化、大きな隈りの場合は訂正する(その他の河川を含む) c 河川名を注記する。 d 自然河川が用排水路を兼ねる場合は河川で表示する e 立体交差はトンネル記号使用	(2) 	茶
水系流域界(3)	川		1. 大流域界, 中流域界, 小流域界に区分して表示する。 2. 山地から平野部にいたり流域界が不明瞭になる部分は省略する。 3. 河川名, 流域面積を付記する。	a 流域界は次の3段階に分けて表示する。 大流域界は 600 km <sup>2</sup> 以上のもの 中流域界は 200 km <sup>2</sup> - 600 km <sup>2</sup> 小流域界は 15 km <sup>2</sup> - 200 km <sup>2</sup> b 河川名, 流域面積は, 大流域	(3) a 	界線は 紫ボカシ 又は黄色









資料図 No	区分	名称	適用範囲	表示区分等	資料図の図式	
					形(寸法)	色
第 1 図	河川	河道横断の水門(4)	(流域面積は県で保有する既存の資料、例えば建設省に提出した河川関係資料を参照のこと)	については本流の河口部に、中流域については支派川が合流する周辺に、小流域についてはその中央部に記入する。	(3)b <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           河川名            流域面積         </div>	柴
			洪水防止、水位調節、潮止等を目的にした施設で、取水目体以外の水門を表示する。	実長 10 m 以上を図示する。	(4)  (上流側)	黒
水 文 観 測 所	降水量観測所(5) 水位“(6) 流量“(7) 地下水位“(8) 水質調査地点(9)	1. 調査区域に設置されている全水文観測所(5~9)を表示する。	a 各水文観測所には調査書の番号に対象する整理番号及び観測所名を付記する。	普通	自記  (5)	黒
		2. 観測点を含む。	b 整理番号は建設省、農林省(林野庁)、通産省、気象庁、国鉄、県、電力会社等事業所別に水系ごとに河口から一連番号を付し、水系順に従い全部を一連とする。	普通	 (6)	”
		3. 1ヶ所で水位と流量の両方を観測している場合は流量観測所の記号で表示する。	c 記号の中心を観測所の真位置に一致するように図示する。	普通	 (7)	”
		4. 降水量観測所の自記、指示の区別を、水位、流量、地下水水位観測所は自記、普通の区別をして表示する。		普通	 (8)	”
				普通	 (9)	”
				普通	 (5)	黒
				普通	 (6)	”
				普通	 (7)	”
				普通	 (8)	”





資料図式	資料図の図式		表示区分等	適用範囲	名称
	形(寸法)	色			
第2図 (農業施設関係)	(17)		取水	これの目的別整理番号をそれぞれの色で併記し、紫のカッコでくくること。	農業(用水)ポンプ場 (17)
	(18)		排水	5. 取水堰は常時取水量による区分はしない。	農業(排水)ポンプ場 (18)
	(19)		用排水	6. 取水堰には農業用溜池を含めない。	農業(用排水)ポンプ場 (19)
	(20)		用水	7. 有効貯水量100,000 m <sup>3</sup> 以上の農業用溜池には整理番号を付す。	多目的ポンプ場 (20)
	(21)		排水	8. 10ha以上の受益面積の取水堰はすべて記入する。	農業用集水埋渠 (21)
	(22)		用排水	9. ダムは堰高15m以上のものを表示し、整理番号を付す。	多目的集水埋渠 (22)
	(23)		排水	10. ダムは有効貯水量が建設当初のものではなく堆砂量を考慮して、推定有効貯水量による。	農業用取水堰 (23)
	(24)		ダム	11. ダムの利用目的の区分で問題のあるものは、計画当初の利用目的(水利権)によって判断す	農業用ダム (24)
				e 集水埋渠200m以上、取水堰100m以上は実長で図示する。	
				f ダムの整理番号は水系ごとに一連番号をつけ、水系順に従って全部を一連とする。	
				g 整理番号は調査時とすべて対象させる。	
			h 工事中のダムの計画湛水区域の外周を破線で図示する。		
			i 5万分1地形図に表示されて		









第2図 (農業施設関係)	取水、排水施設	農業用工事中のダム	<p>る。</p> <p>12. 工事中のダムには、規模の変更したダム等を含む。</p>	<p>いる農業用貯水池、溜池が埋められて存在しない場合は×印を図示する。</p> <p>j 溜池の対照番号は自治省のコードNoの市町村順に従い、市町村ごとに一連番号をつける。</p>	 <p>工事中</p>	緑
第3図 (上・下水道関係)	水路	<p>上水道 (㉞)</p> <p>簡易水道 (㉟)</p> <p>専用水道 (㊱)</p>	<p>1. 上水道及び簡易水道、専用水道は水道法にもとづく水道事業、簡易水道事業及び専用水道、水道供給事業認可または確認を受けているものを表示する。</p> <p>2. 飲料水供給施設が計画給水人口100人以下の場合は省略する。</p>	<p>a 水源、浄水道をつなぐ導水管、送水管に必ず表示する。</p> <p>b 上水道は現地で幹線、主要な支線と云われているものを表示し、簡易水道は幹線のみを表示する。</p> <p>c 幹線水路には名称を付記する。</p> <p>d 簡易水道はとくに取水、配水経路を明瞭にする。</p> <p>e 専用水道は上水道の表示に準ずる。</p>		赤 赤
第3図 (上・下水道関係)	水路	<p>下水道 (㊲)</p> <p>工事中の下水道 (㊳)</p>	<p>下水道は公共下水及び流域下水道を対象とし都市下水は除く。</p> <p>工事中の下水道、下水道は延長1,000m以上または工事区域50ha以上のものかぎり表示する。</p>	<p>幹線及び主要な支線を表示する。</p> <p>工事中的ものはその旨を注記する。</p>		緑 橙 緑







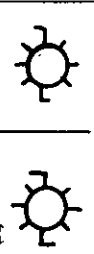
資料図 No	区分	名称	適用範囲	表示区分等	資料図の図式	
					形(寸法)	色
第 3 図 (上・下水道関係)	河川の取水、排水施設	地表水自然取水 (1)	1. 各取、排水施設は、次の3段階に区分して表示し、それぞれ A、B、C の記号を付記する。C は省略してもよい。 常時取水量 3 m <sup>3</sup> /sec 以下 A " 3 m <sup>3</sup> /sec - 1 m <sup>3</sup> /sec B " 1 m <sup>3</sup> /sec 以下 C	a 対照番号は各取、排水設備 (ダムを除く) とし、系列頭文字をつけて水系毎に河口から一連番号を付しそれぞれの色で図示する。 b 対照番号は調査書の番号に対象させる。 c 各施設のうち名称のあるものは付記する。 d 取・排水施設の記号を表示する場合に右岸、左岸の区別を明確に図示する。 e 集水埋渠 200 m 以上、取水堰 100 m 以上は実長で図示する。 f ダムの対照番号は水系ごとに一連番号をつけ水系順に従って全部を一連とする。 g 着工中計画中のダムは計画湛水区域の外周を破線で図示する。		赤
		地表水、自然排水 (2)				青
		上水道(簡易水道) 樋門樋管 (3)				赤
		下水道樋門、樋管 (4)				青
		多目的樋門、樋管 (5)				紫
		上水道(簡易水道) ポンプ場 (6)				赤
		下水道ポンプ場 (7)				青
		多目的ポンプ場 (8)				紫

第 3 図 ( 上 ・ 下 水 道 関 係 )	河川の取水、排水施設	上水道集水埋渠 (39) 多目的集水埋渠 (40) 上水道(簡易水道)取水堰 (41) 多目的取水堰 (42) 上水道ダム (43) 上水道用工事中のダム (44)	6. 取水堰には上水道用溜池を含めない。 7. 有効貯水量100,000 m <sup>3</sup> 以上の上水道溜池には整理番号を付ける。 8. ダム堤高15m以上のものを表し、整理番号を付す。 9. ダムの利用目的の区分で、問題のあるものは、計画当初の利用目的によって判断する。	h 溜池の対照番号は自治省のコードNo順に従い、市町村ごとに一連番号とする。	(39)  (40)  (41)  (42)  (43)  (44)	橙 紫 橙 紫 橙 赤
	利水関連施設	浄水場(上水道用) (45) 下水処理場 (46)	a 浄水場は水源のつながりを明示させる。 b 水源、浄水場をつなぐ専水路は幹線水路で図示する。	a 対照番号は調査書の番号と対象させて表示する。 b 受益地区の対照番号は、自治省のコードNoの市町村順に従い県単位に一連番号とし、上水は〔 〕、簡易水道は( )、専用水道は〔専〕、下水道は⓪付す。	(45)  (46)  (47)  (48)  (48-2)  (49)	橙 青 橙 橙 橙 青
受益地区	上水道受益地区 (47) 簡易水道受益地区(48) 専用水道受益地区 (48-2) 下水道受益地区 (49)	1. 上水道受益地区には専用水道を含めて表示する。 2. 上水道、簡易水道受益地区には水源を井戸としていてる地区を含めて表示する。 3. 受益地区5ha以上を表示する。				

資料図 No	区分	名称	適用範囲	表示区分等	資料図の図式	
					形(寸法)	色
第 4	水 路	工業用排水路 50	1. 工業用水路は短い水路でも地形図に表示できるものは図示する。 2. 着工中の水路は延最1,000 m 着工区域50ha以上のものにかざ	a 水源, 浄水場をつなぐ導水管, 送水管は必ず表示する。 b 現地で幹線, 主要な支線を表示し, 幹線には固有の名称を付記する。	50	赤(用水) 青(排水)
		工業用排水路 51 工事中			51	赤(用水) 青(排水)
第 4	河 川 の 取 、 排 水 施 設	地表水 工業用自然取水 52	1. 各取排水施設は, 次の3段階に区分して表示しそれぞれA, B, Cの記号を付記する。(ダムを除く)。 常時取排水量 3 m <sup>3</sup> /sec 以上 A " 3 m <sup>3</sup> /sec ~ 1 m <sup>3</sup> /sec B " 1 m <sup>3</sup> /sec 以上 C 2. 取, 排水施設には, すべて対照番号と名称を付記する。 3. ポンプ場は取, 排水のために固定されたものを表示し, 送水や揚水のみを目的とするものは表示しない。	a 対照番号は各取, 排水施設(ダムを除く)とも水系別頭文字をつけて水系毎に河口から一連番号を付しそれぞれの色で図示する。 b 対照番号は調査書の番号に対象させる。 c 各施設のうち名称のあるものを付記する。 d 取, 排水施設の記号を表示する場合に右岸, 左岸の区別を明確に図示する。	52	赤
		地表水 工業用自然排水 53			53	青
		工業用水樋門樋管 54			54	赤
		工業排水樋門樋管 55			55	青
		多目的樋門樋管 56			56	青
		工業用水ポンプ場 57			57	紫
工業排水ポンプ場 58	58	紫				

第 4 図 (工業用水関係)		河川の取、排水施設		多目的ポンプ場 69		4. 多目的取、排水施設はそれぞれの目的別対照番号をそれぞれの色で併記し、紫のカッコでくくる。		e 集水埋渠 200 m 以上取水堰 100 m 以上は実長で図示する。		67		赤	
工業用集水埋渠 60		5. 取水堰は常時取水量による区分はしない。		工業用集水埋渠 61		6. 取水堰には、工業用溜池を含めない。		g ダムの対照番号は水系ごとに一連番号をつけ、水系順に従って全部を一連とする。		68		赤	
多目的集水埋渠 61		7. 有効貯水量 100,000 m <sup>3</sup> 以上の工業用溜池には対照番号を付す。		工業用取水堰 62		8. ダムは堤高 15 m 以上のものを表示し対照番号を付す。		h 工事中のダムは計画湛水区域の外周を破線で図示する。		69		紫	
工業用取水堰 62		9. ダムの利用目的の区分で問題のあるものは計画当初の利用目的によって判断する。		工業用ダム 63				i 工事中、計画中と明記する。		60		赤	
工業用ダム 63				工事中のダム 64				j 溜池の対照番号は自治省のコード No. の市町村順に従い、市町村単位に一連番号とする。		61		紫	
工業用浄水場 63										62		赤	
										63		赤	
										64		赤	
利用関連施設								a 水源、浄水場、工業用水路のつながりを明示させる。		69		赤	

資料図 No	区分	名称	適用範囲	表示区分等	資料図の図式	
					形(寸法)	色
第4図(工業用水関係)	工業用水受益地区	工業用水受益地区(66)	1. 工業用水受益地区には水源を井戸としている地区を含めて表示する。 2. 受益地区は5 ha以上を表示する。			桃
		発電用水路(67)	1. 着工中の水路は延長1,000 m以上にかぎる。	a 取入口から発電所につなく導水管は必ず表示する。 b 多目的水路は幹線と主要な支線を表示し、幹線には固有の名称を付記する。		黒
第5図(水力発電・多目的関係)	水路	多目的水路(68)				紫
		発電用水路着工中(69)				黒
		地表水発電用自然取水(70)	1. 各取、排水施設は次の3段階に区分して表示し、それぞれA, B, Cの記号を付記する。Cは省略してもよい。	a 対照番号は各取、排水施設(ダムを除く)とも水系別頭文字をつけて水系ごとに河口から一連番号を付す。 b 対照番号は調査書の番号に対象させる。 c 名称のあるものは付記する。		黒
		多目的樋門 樋管(71)	常時取水量 3 m³/sec以上 A " 1 m³/sec ~ 3 m³/sec B " 1 m³/sec未満 C			紫
		多目的ポンプ場(72)				紫
		多目的集水埋渠(73)				紫

第 5 図 (水力発電、多目的関係)	河 川 敷、排 水 施 設	水力発電取水堰(74) 多 目 的 取 水 量(75) 水 力 発 電 用 ダ ム(76) 水 位 調 整 用 ダ ム(77) 多 目 的 ダ ム(78) 工 事 中 ダ ム(79)	2. ポンプ場は取水のために固定されたものを表示し、選水や揚水のみを目的とするものは表示しない。 3. 多目的取、排水施設は目的別に対照番号を付し、紫の( )でくくこと。 4. 取水堰は常時取水量による区分はしない。 5. ダムは堤高15m以上のものを表示し、対照番号を付す。 6. ダムの利用目的の区分で問題のあるものは計画当初の利用目的によって判読する。	d 施設の記号を表示する場合は右岸、左岸の区別を明確に図示する。 e ダムの対照番号は水系ごとに一連番号をつけ水系順に従って全部を一連とする。 f 工事中のダムは計画湛水区域の外周を破線で表示する。	     	紫 黒 紫 黒 茶 紫 紫
水力発電用取水堰(74) 多 目 的 取 水 量(75) 水 力 発 電 用 ダ ム(76) 水 位 調 整 用 ダ ム(77) 多 目 的 ダ ム(78) 工 事 中 ダ ム(79)	1. 水力発電所はすべて表示する。 2. 発電所の工期が分れて、一部稼働しているもの、来年中に着工決定の計画についても工事中として記入する。	発電所に対照番号と名称を表示する。		黒		



資料図No	区分	名称	適用範囲	表示区分等	資料図の図式	
					形(寸法)	色
第6図	井	農業用深井戸 ⑧1	1. 調査地域内にある井戸について、深さ30m以上のものを使用して、深さ30m以上のもを目的別に区分して表示する。 2. 上水道用の井戸については深さ30m未満でも表示する。 3. 井戸の対照番号は500 m <sup>3</sup> /day以上の井戸を対象に、自治省のコード番号順により市町村単位で一連番号を付す。 4. 井戸は3段階に区分し、A Bのみ記号を付す。、、 揚水量 3,000 m <sup>3</sup> /日以上 A 2,000 ~ 500 B 500 未満 C	a 対照番号は調査の番号と対象させる。 b 二つ以上の目的を有する井戸(工場内において工業用、雑用など)は主たる目的で表示し対照番号は各目的のものを、それぞれの色で付記し( )を紫でくくこと。 c 第6図は第2図との合併可 d 第7図は第3図との" e 第8図は第5図との" f 第9図は第4, 10図" f 上水道(簡易水道)には井戸と別に湧水を記入する。 h 第12図は第1図と合併可	●	緑
		上水道(簡易水道)湧泉 ⑧2				●
第7図	戸	浅井戸 ⑧3			●	橙
		上水道(簡易水道)浅井戸 ⑧3			●	橙
第8図	等	深井戸 ⑧4			●	橙
		上水道(簡易水道)深井戸 ⑧4			●	橙
第9図	等	深井戸 ⑧5			●	赤
		工業用深井戸 ⑧5			●	紫
第10図	地下水規制区域	工業用地下水規制区域 ⑧7	1. 工業用水法に基づく地下水のくみ上げ規制を表示する。 2. 建築物用地下水のくみ上げ規制区域を表示する。 3. 自治体条例による地下水くみ上げ規制区域を表示する。		●	紫
		建築物用地下水規制区域 ⑧8			●	紫
		条例地下水規制区域 ⑧9			●	赤

第11図	保安林	国有林内保安林 00 その他の保安林 01	1. 国有林内保安林は、国有林、官行造林のうち保安林の指定を受けた区域を表示する。 2. その他の保安林は国有林内保安林以外の保安林を表示する。	a 保安林は5ha以下のもは省略する。 b 国有林内保安林とその他の保安林が接する場合は、国有林内保安林の界線で図示する。	00 01	緑 青
第12図	河川	海(湖沼)岸線 02 埋立中の海岸線 03	1. 海(湖沼)岸線の形状に大きな誤りがある場合は訂正する。 2. 埋立中の海岸線は認可されている区域を表示する。(未着手のものは除く)	5万分1地形図に表示されている貯水池、溜池等が埋められて存在しない場合は×印を図示する。	02 03	青 青